

Ⅱ 調査結果の分析

1. 男女共同参画社会に関する意識について

1-1 分野別男女共同参画に関する意識

◇平等と感じている割合は、「学校教育の場」が最も高く約5割、「社会全体」では約1割

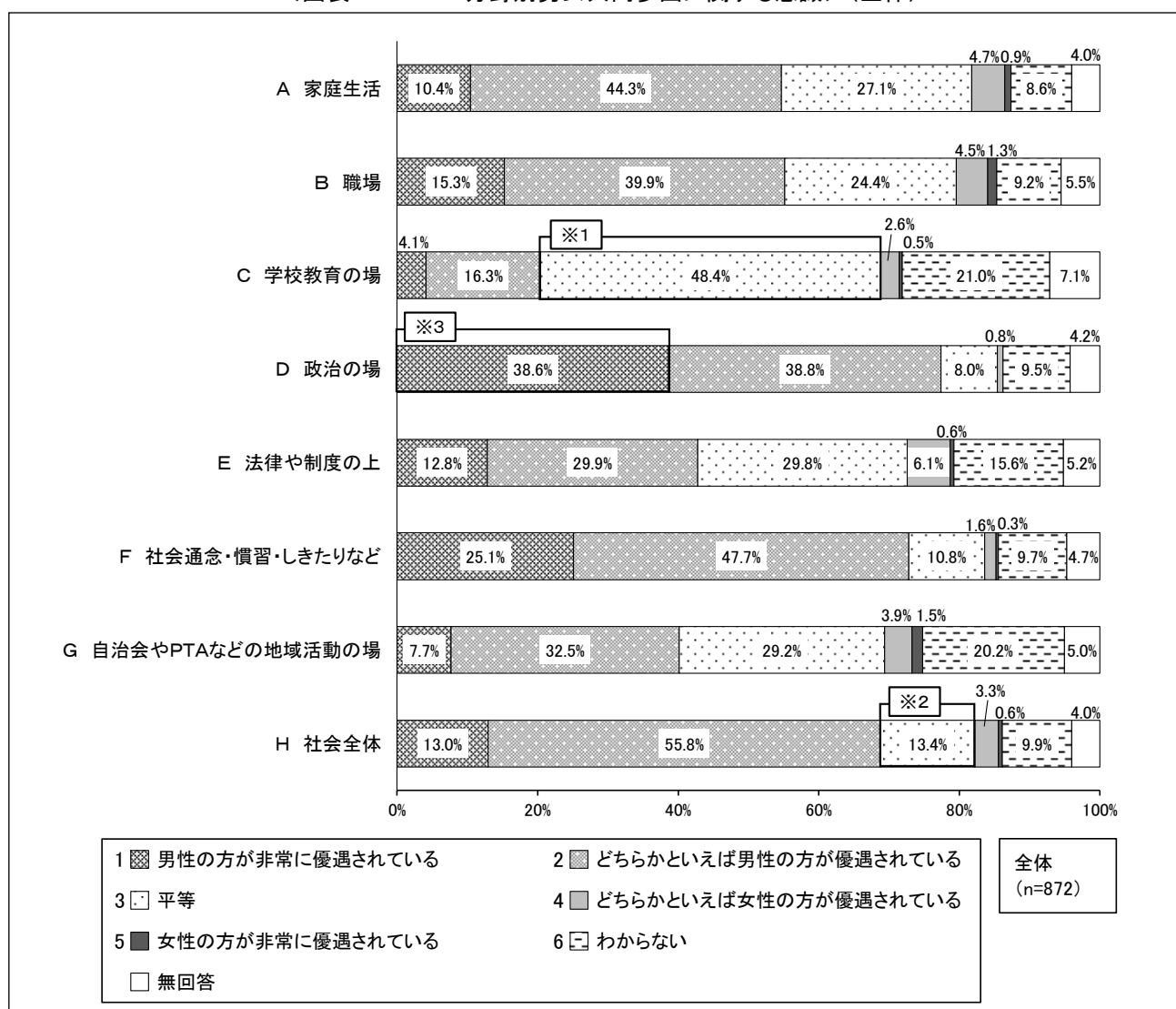
◇特に「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」では、男性が非常に優遇されていると感じている

◇全ての分野において、女性が優遇されていると感じている割合は低い傾向にある

問7 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

「1」～「6」の中からあなたの気持ちに最も近い番号1つに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

<図表1-1-1 分野別男女共同参画に関する意識> (全体)

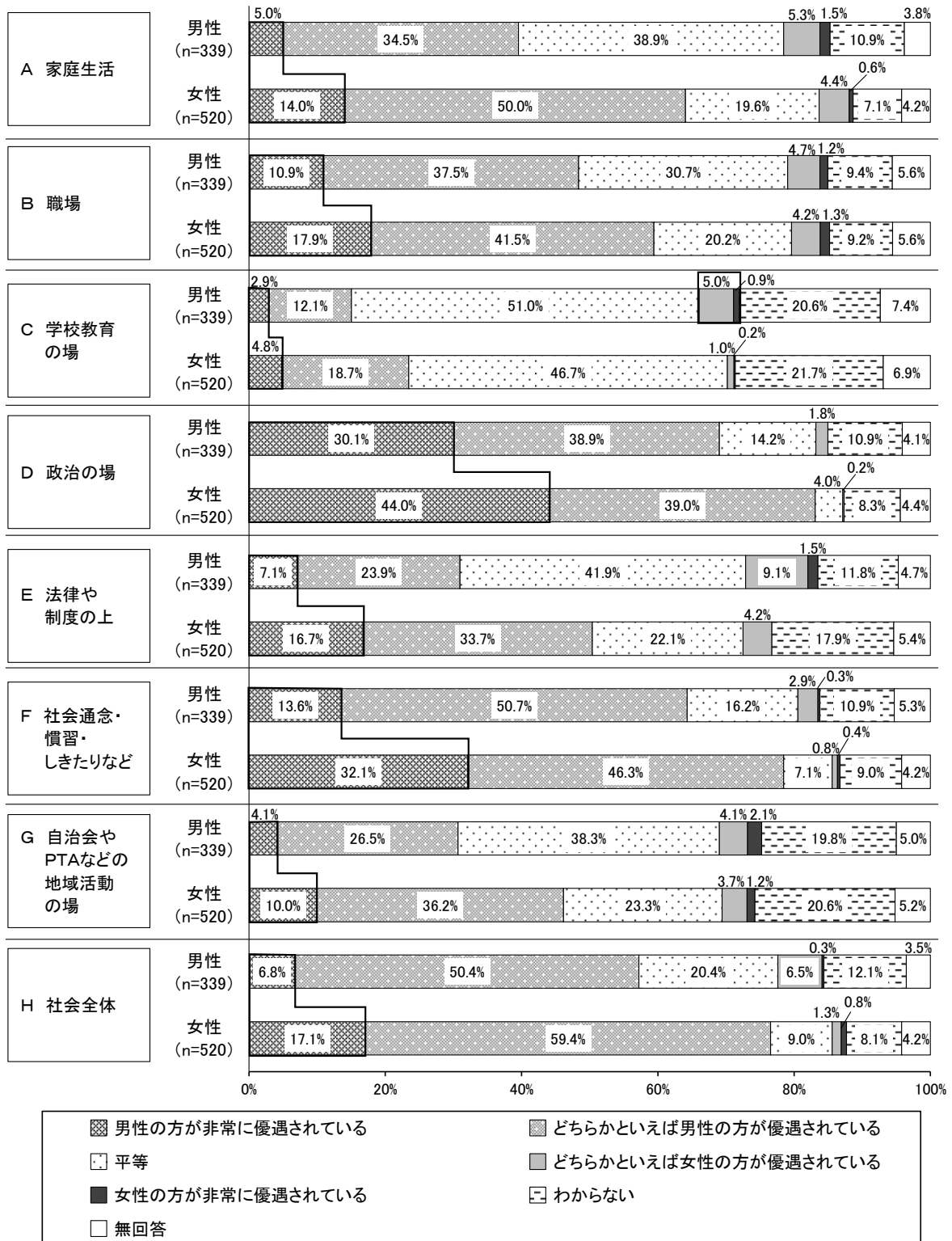


「平等」と回答した割合は「C 学校教育の場」が約半数(48.4%)で最も高く(※1)、それ以外の分野は3割未満となっている。また、「H 社会全体」について「平等」と回答した割合は13.4%(※2)にとどまっている。

「男性が非常に優遇されている」と回答した割合は、「D 政治の場」が約4割(38.6%)で最も高く(※3)、次いで「F 社会通念・慣習・しきたりなど」(25.1%)となっている。

また、全ての分野において、「女性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した割合は低い。

<図表1-1-2 分野別男女共同参画に関する意識> (男女別)

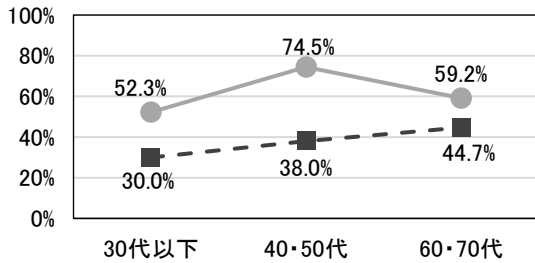


「男性の方が非常に優遇されている」と回答した割合は、全ての分野において女性が男性を上回っている。一方で、全ての分野において「平等」と回答した割合は、男性が女性を上回っている。また、男性は「平等」と感じている分野でも、女性は「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合が高い。

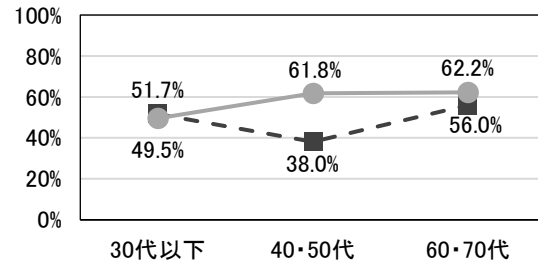
＜図表１－１－３ 分野別男女共同参画に関する意識＞（年代別）

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合の計

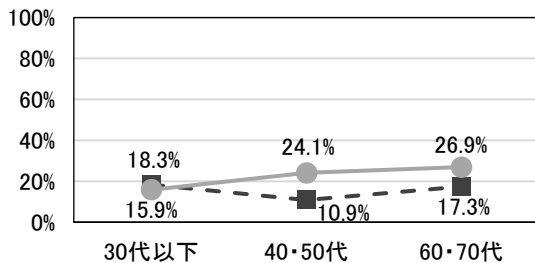
○A 家庭生活



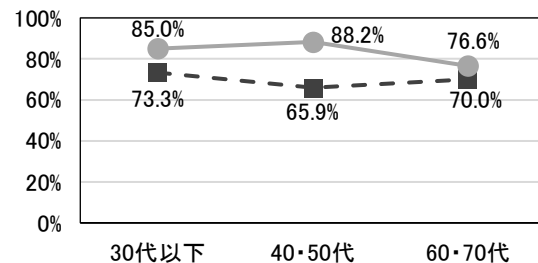
○B 職場



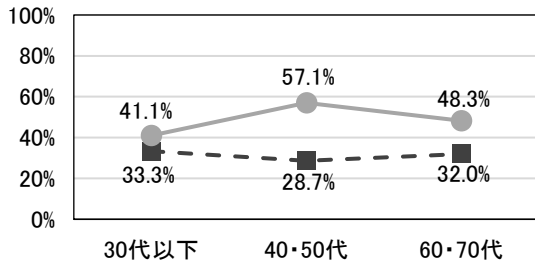
○C 学校教育の場



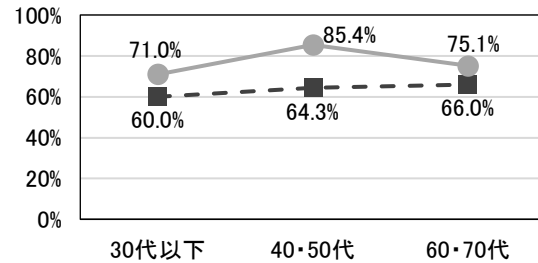
○D 政治の場



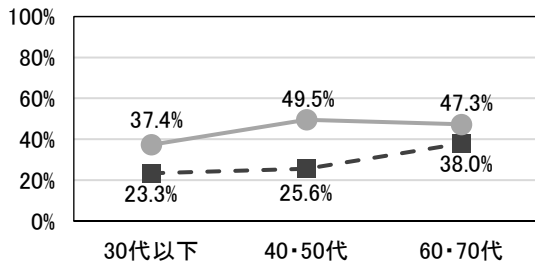
○E 法律や制度の上



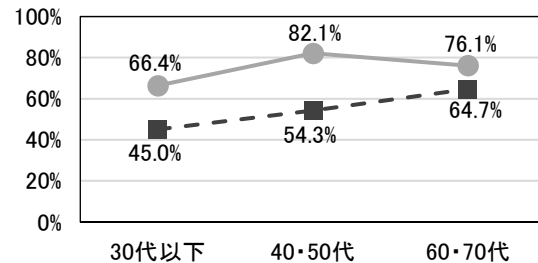
○F 社会通念・慣習・しきたりなど



○G 自治会やPTAなどの地域活動の場



○H 社会全体

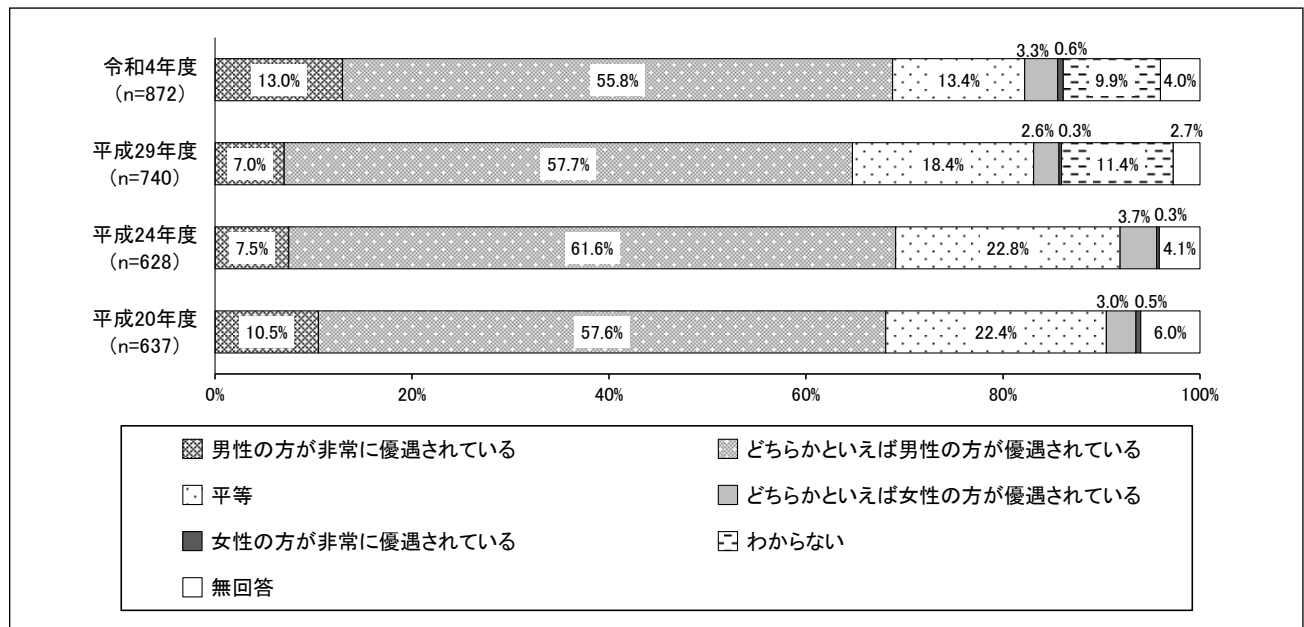


	30代以下	40・50代	60・70代
男性 —■—	(n=60)	(n=129)	(n=150)
女性 —●—	(n=107)	(n=212)	(n=201)

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合の計は、ほとんどの分野で40・50代女性が高くなっている。

＜図表１－１－４ 分野別男女共同参画に関する意識＞（過去調査との比較）

「H 社会全体」



※平成24年度と平成20年度の調査では、「わからない」という選択肢はない。

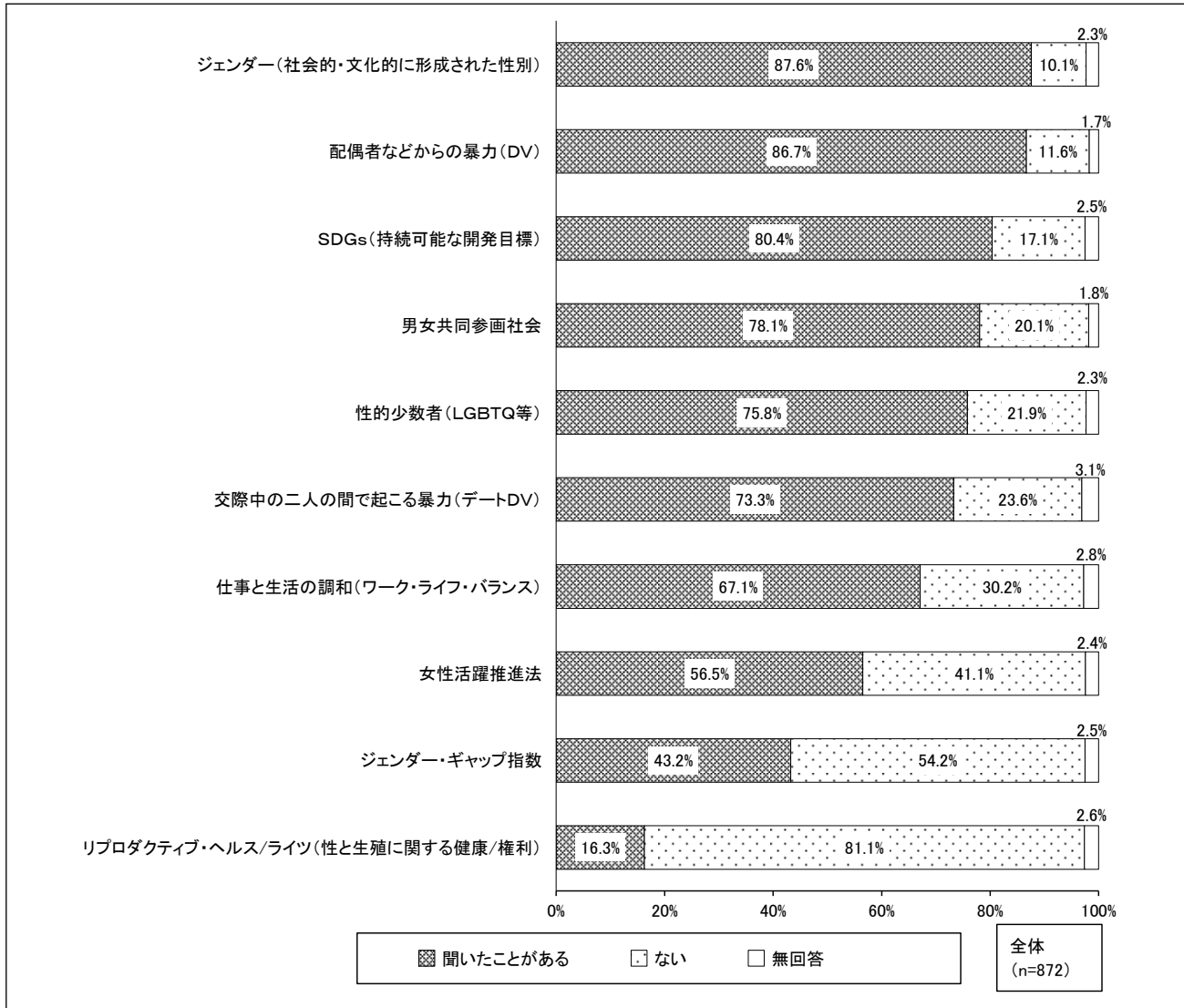
過去の調査と比較すると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合の計は、約6割で推移している。また、「平等」と回答した割合は減少傾向であるが、直近2回の調査では「わからない」という選択肢を追加している。

1-2 男女共同参画に関する言葉の認知度

◇「ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)」、「配偶者などからの暴力(DV)」、「SDGs(持続可能な開発目標)」という言葉の認知度は8割以上

問8 これらの言葉について、あなたは見たり聞いたりしたことがありますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

<図表1-2-1 男女共同参画に関する言葉の認知度>(全体)



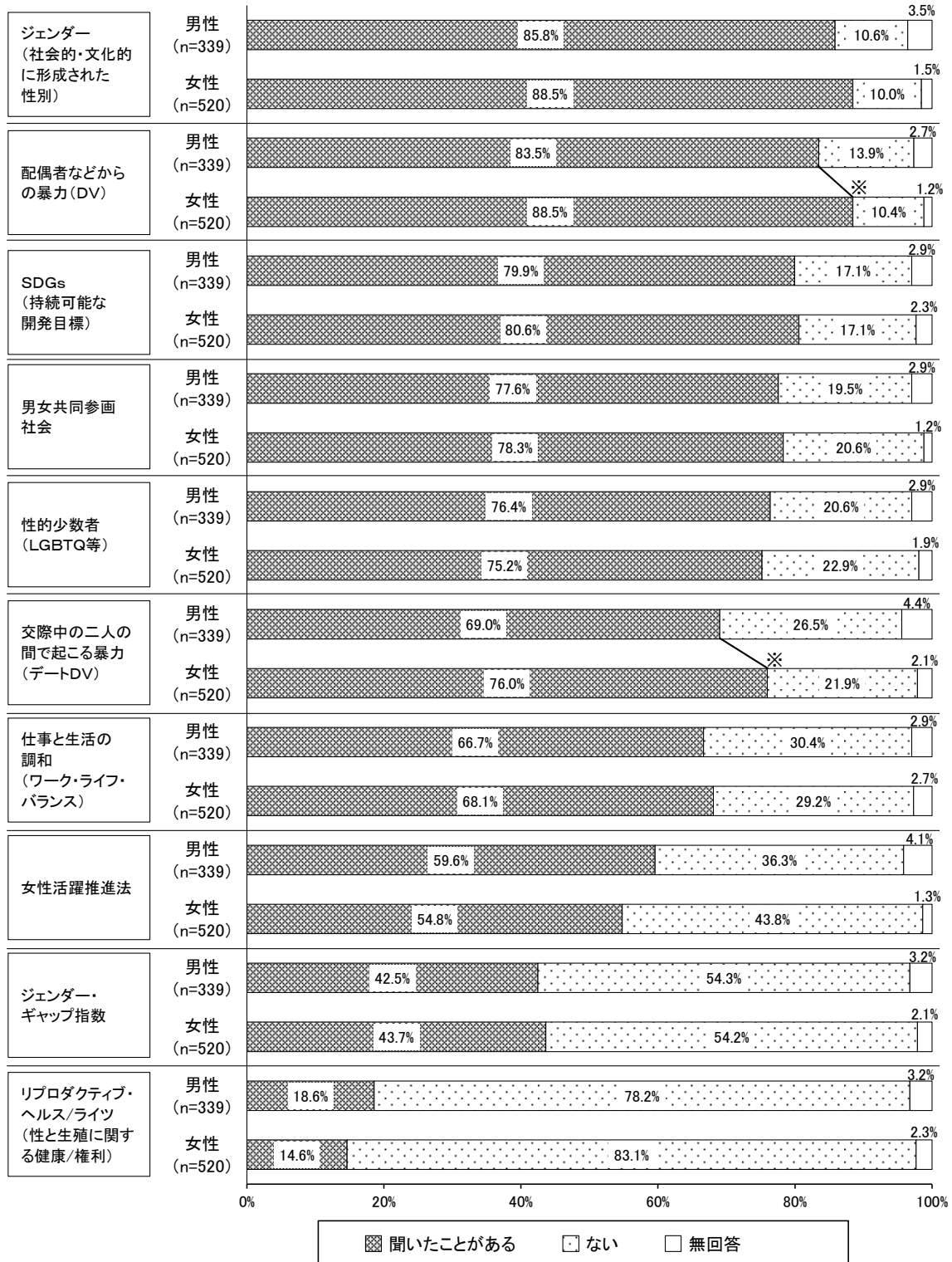
「ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)」(87.6%)、「配偶者などからの暴力(DV)」(86.7%)、「SDGs(持続可能な開発目標)」(80.4%)という言葉の認知度は8割以上である。

一方、「ジェンダー・ギャップ指数」(43.2%)、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康/権利)」(16.3%)という言葉については、聞いたことがある割合が5割を下回っており、認知度は低い状況にある。

なお、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」(67.1%)については、国の調査(※)では43.1%となっている。

※内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和元年9月)より

<図表1-2-2 男女共同参画に関する言葉の認知度> (男女別)

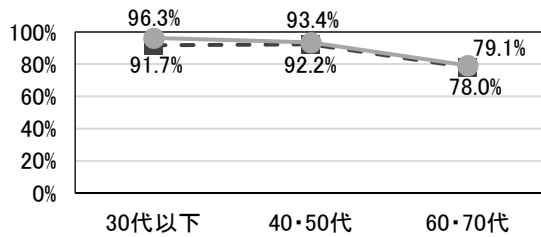


男女とも全体と同じ傾向である。その中で、「配偶者などからの暴力(DV)」、「交際中の二人の間で起こる暴力(デートDV)」という言葉の認知度は、女性の方が若干高くなっている(※)。

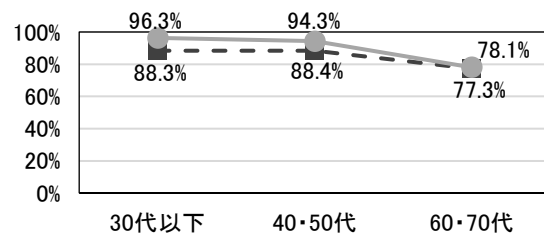
<図表1-2-3 男女共同参画に関する言葉の認知度> (年代別)

「見たり聞いたりしたことがある」と回答した割合

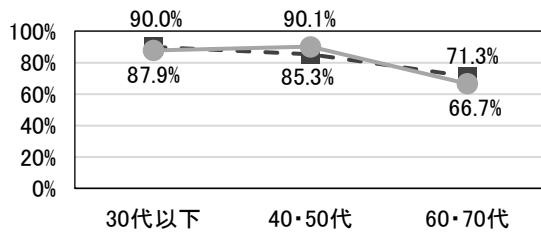
○ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)



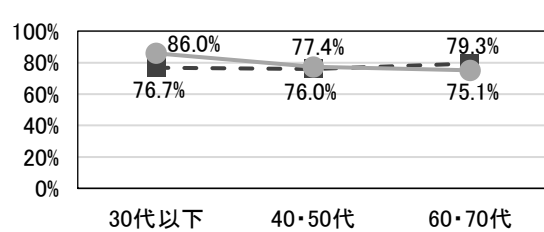
○配偶者などからの暴力(DV)



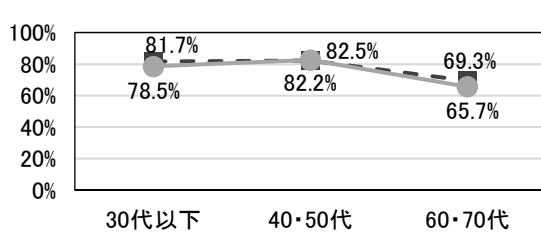
○SDGs(持続可能な開発目標)



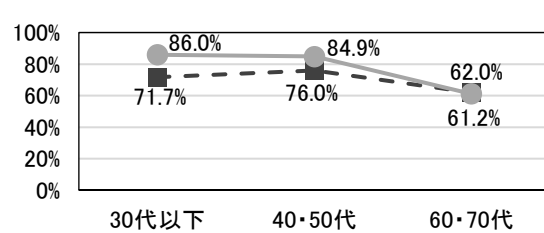
○男女共同参画社会



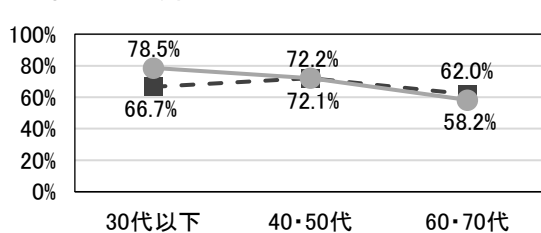
○性的少数者(LGBTQ等)



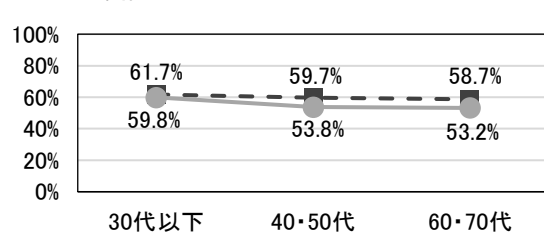
○交際中の二人の間で起こる暴力(デートDV)



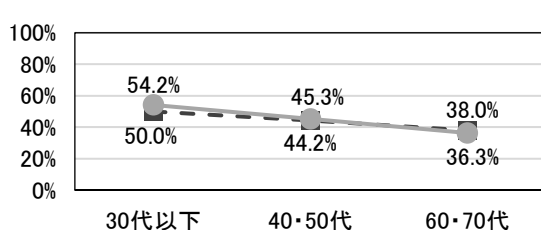
○仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)



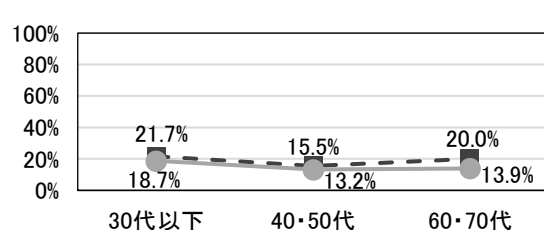
○女性活躍推進法



○ジェンダー・ギャップ指数



○リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康/権利)



	30代以下	40・50代	60・70代
男性	(n=60)	(n=129)	(n=150)
女性	(n=107)	(n=212)	(n=201)

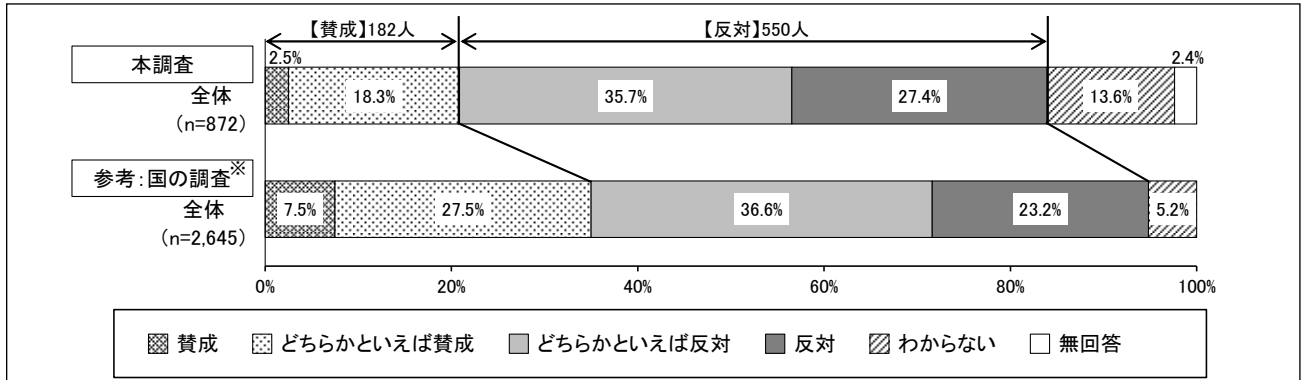
いずれの項目においても、60・70代における男女共同参画に関する言葉の認知度は、やや低い。

1-3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方

◇【反対】(「反対」と「どちらかといえば反対」の計)は約6割、【賛成】(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の計)は約2割

問9 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

＜図表1-3-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方＞(全体)

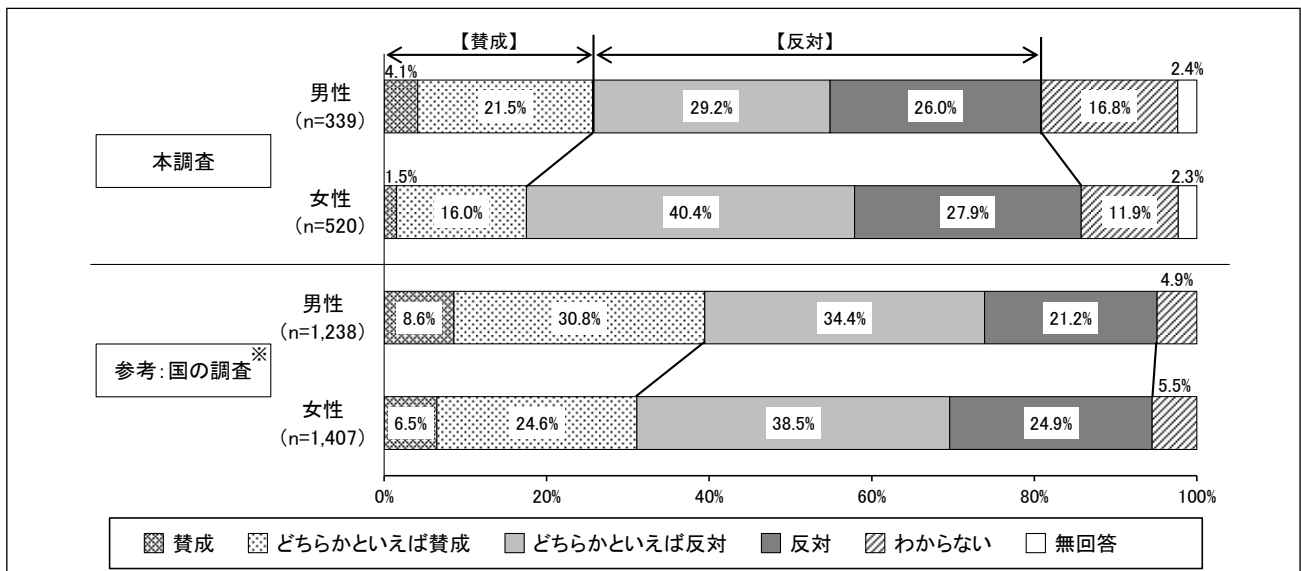


※内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和元年9月)より

固定的な性別役割分担の意識に対して、【反対】(「反対」と「どちらかといえば反対」の計: 以下同じ)と回答した割合は約6割(63.1%)で、【賛成】(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の計: 以下同じ)と回答した割合は約2割(20.8%)となっている。

国の調査では、【反対】と回答した割合は約6割(59.8%)、【賛成】と回答した割合は約4割(35.0%)となっている。

＜図表1-3-2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方＞(男女別)



【賛成】…男性は87人、女性は91人

【反対】…男性は187人、女性は355人

※内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和元年9月)より

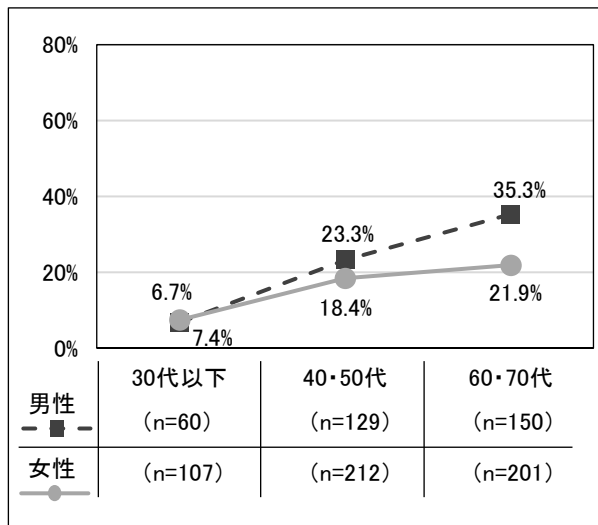
【反対】と回答した割合は、男性が約6割(55.2%)、女性が約7割(68.3%)となっている。【賛成】と回答した割合は、男性が約3割(25.6%)、女性が約2割(17.5%)となっている。

国の調査では、【反対】と回答した割合は、男女とも約6割(男性: 55.6%、女性: 63.4%)となっている。【賛成】と回答した割合は、男性が約4割(39.4%)、女性が約3割(31.1%)となっている。

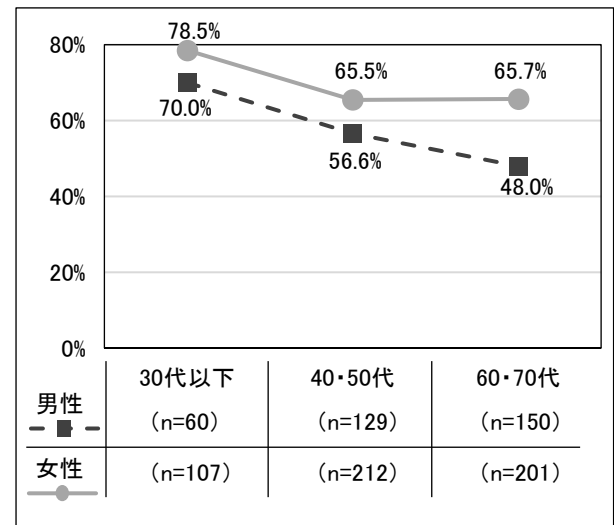
＜図表1－3－3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方＞（年代別）

本調査

【賛成】



【反対】



固定的な性別役割分担の意識に【反対】と回答した割合は、各年代を男女で比較すると、いずれも女性が男性を上回っており、60・70代の男女間では他の年代より大きな差が見られる。

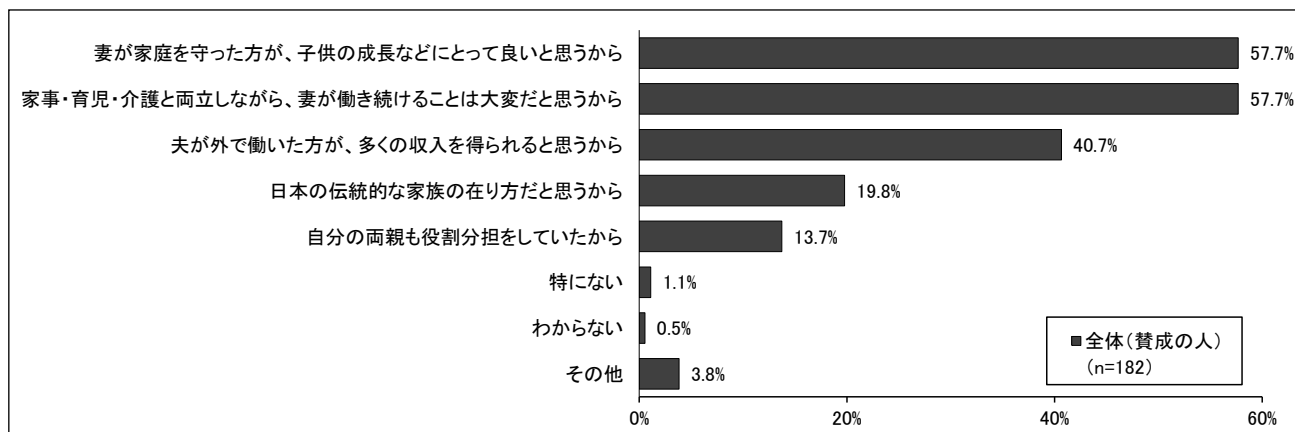
1-4 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に対する賛成理由

◇子供の成長のため、両立の大変さという賛成理由が約6割

◇女性は、両立の大変さ、収入の得やすさを、男性は伝統、両親がしていたからという理由を回答した割合が高い

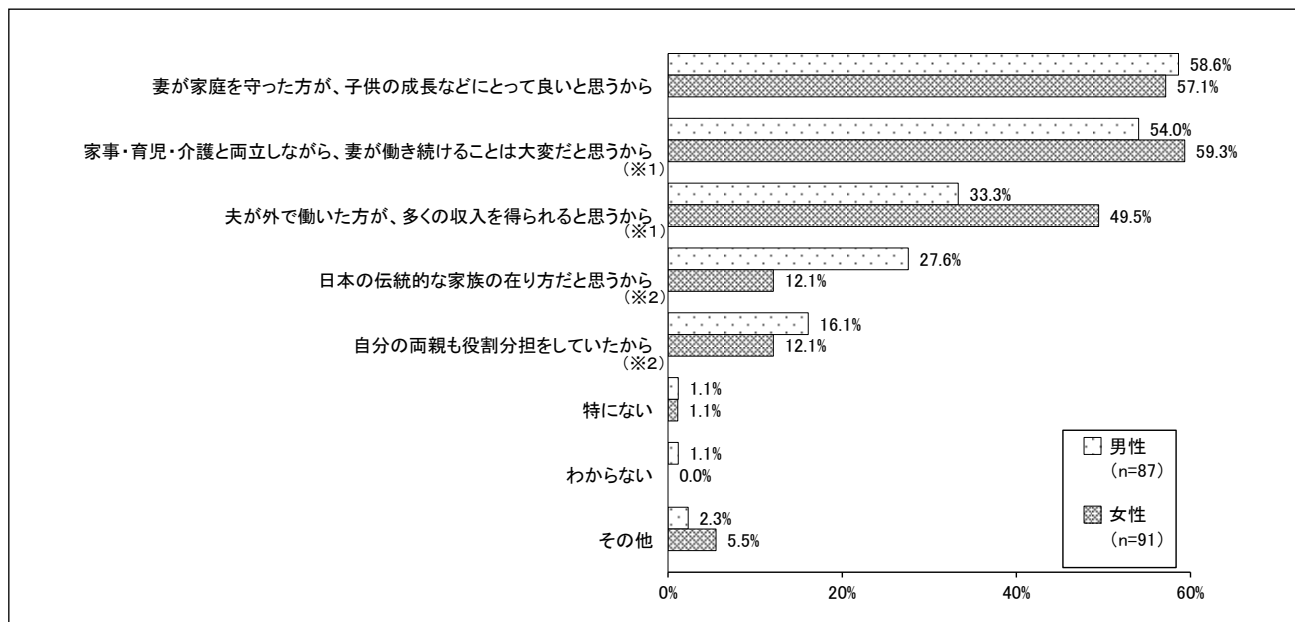
問9-1 問9で「賛成」、「どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。それはなぜですか。
(○はいくつでも)

＜図表1-4-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に対する賛成理由＞（全体・要件該当者）



「妻が家庭を守った方が、子供の成長などにとって良いと思うから」、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」と回答した割合が約6割(ともに57.7%)となっている。

＜図表1-4-2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に対する賛成理由＞（男女別）



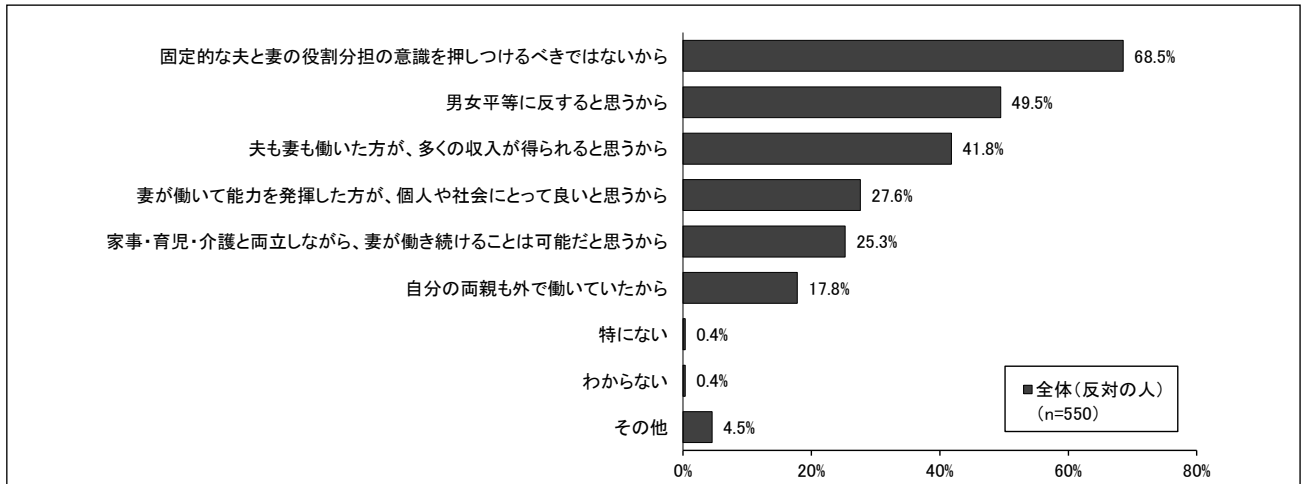
男女とも全体と同じ傾向となっている。その中でも、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(※1)という理由は、女性の割合が高くなっている。また、「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」、「自分の両親も役割分担をしていたから」(※2)という理由は、男性の割合が高くなっている。

1-5 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に対する反対理由

◇「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」という反対理由が約7割

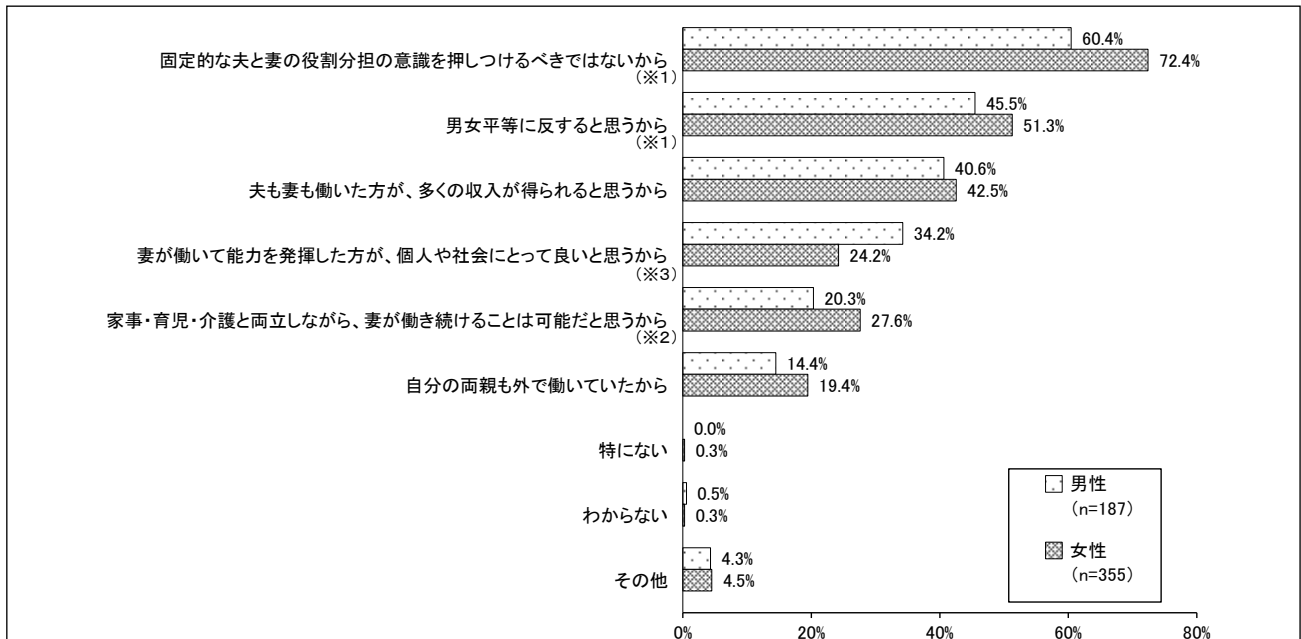
問9-2 問9で「どちらかといえば反対」、「反対」と答えた方におたずねします。それはなぜですか。
(〇はいくつでも)

＜図表1-5-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に対する反対理由＞（全体・要件該当者）



「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」と回答した割合は約7割(68.5%)で最も高く、次いで「男女平等に反すると思うから」(49.5%)、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」(41.8%)となっている。

＜図表1-5-2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に対する反対理由＞（男女別）



男女とも全体と同じ傾向となっている。その中でも、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」、「男女平等に反すると思うから」(※1)や「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから」(※2)と回答した割合は、男性よりも女性が高くなっている。

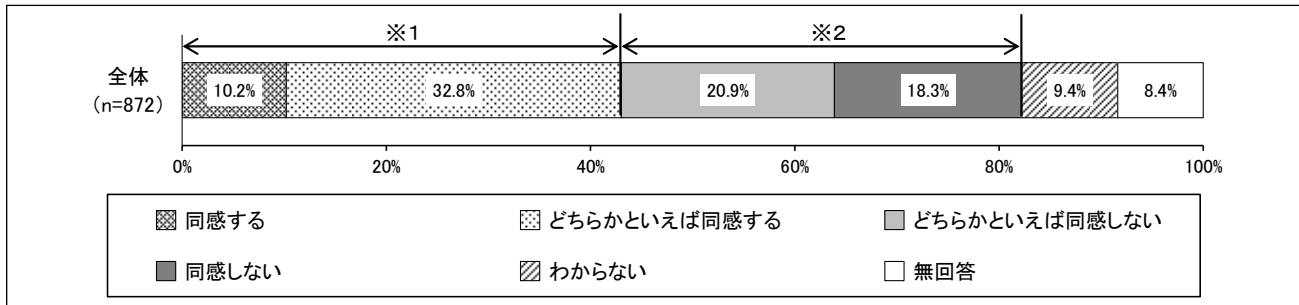
また、「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」(※3)と回答した割合は、女性よりも男性が高くなっている。

1-6 「男の子らしく、女の子らしく」育てるという考え方

◇「同感する」と「どちらかといえば同感する」と回答した割合の計と、「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」と回答した割合の計は、ともに約4割

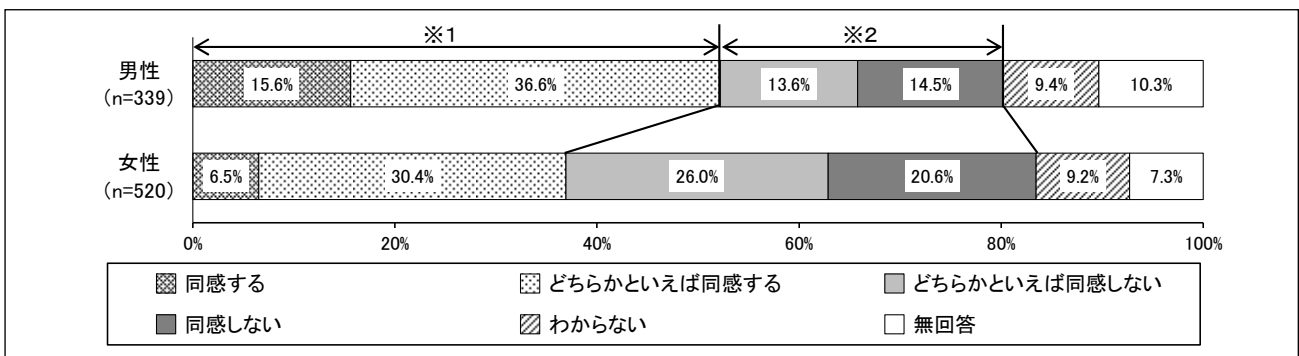
問10 「男の子は、男の子らしく」、「女の子は、女の子らしく」育てるという考え方について、「あなたはどのようにお考えですか。（○は1つ）」

＜図表1-6-1 「男の子らしく、女の子らしく」育てるという考え方＞（全体）



「同感する」と「どちらかといえば同感する」と回答した割合の計(※1)は43.0%、「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」と回答した割合の計(※2)は39.2%で、ともに約4割となっている。

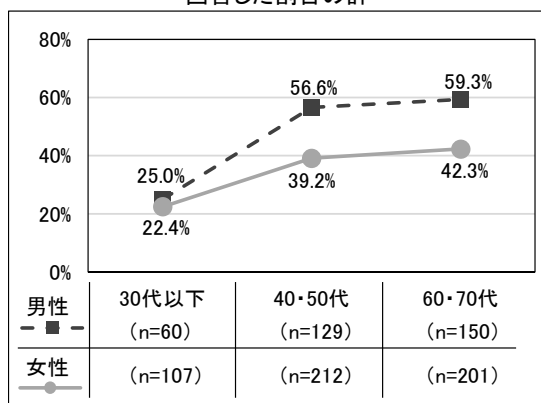
＜図表1-6-2 「男の子らしく、女の子らしく」育てるという考え方＞（男女別）



「同感する」と「どちらかといえば同感する」と回答した割合の計(※1)は、男性が女性を上回っている(男性:52.2%、女性36.9%)。また、「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」と回答した割合の計(※2)は、女性が男性を上回っている(女性:46.6%、男性28.1%)。

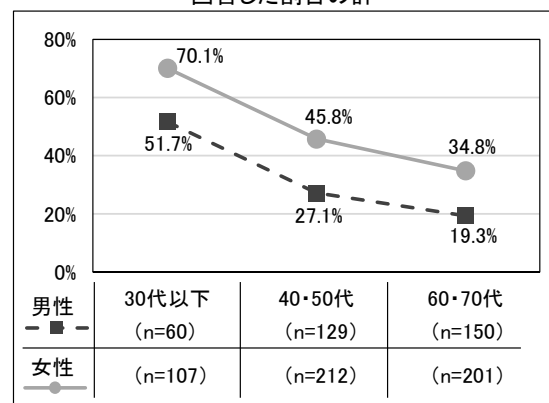
＜図表1-6-3 「男の子らしく、女の子らしく」育てるという考え方＞（年代別）

「同感する」と「どちらかといえば同感する」と回答した割合の計



男女とも若い年代ほど「同感する」と「どちらかといえば同感する」と回答した割合の計は低く、年代が上がるにつれて、その割合は高くなっている。

「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」と回答した割合の計



男女とも若い年代ほど「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」と回答した割合の計は高く、年代が上がるにつれて、その割合は低くなっている。

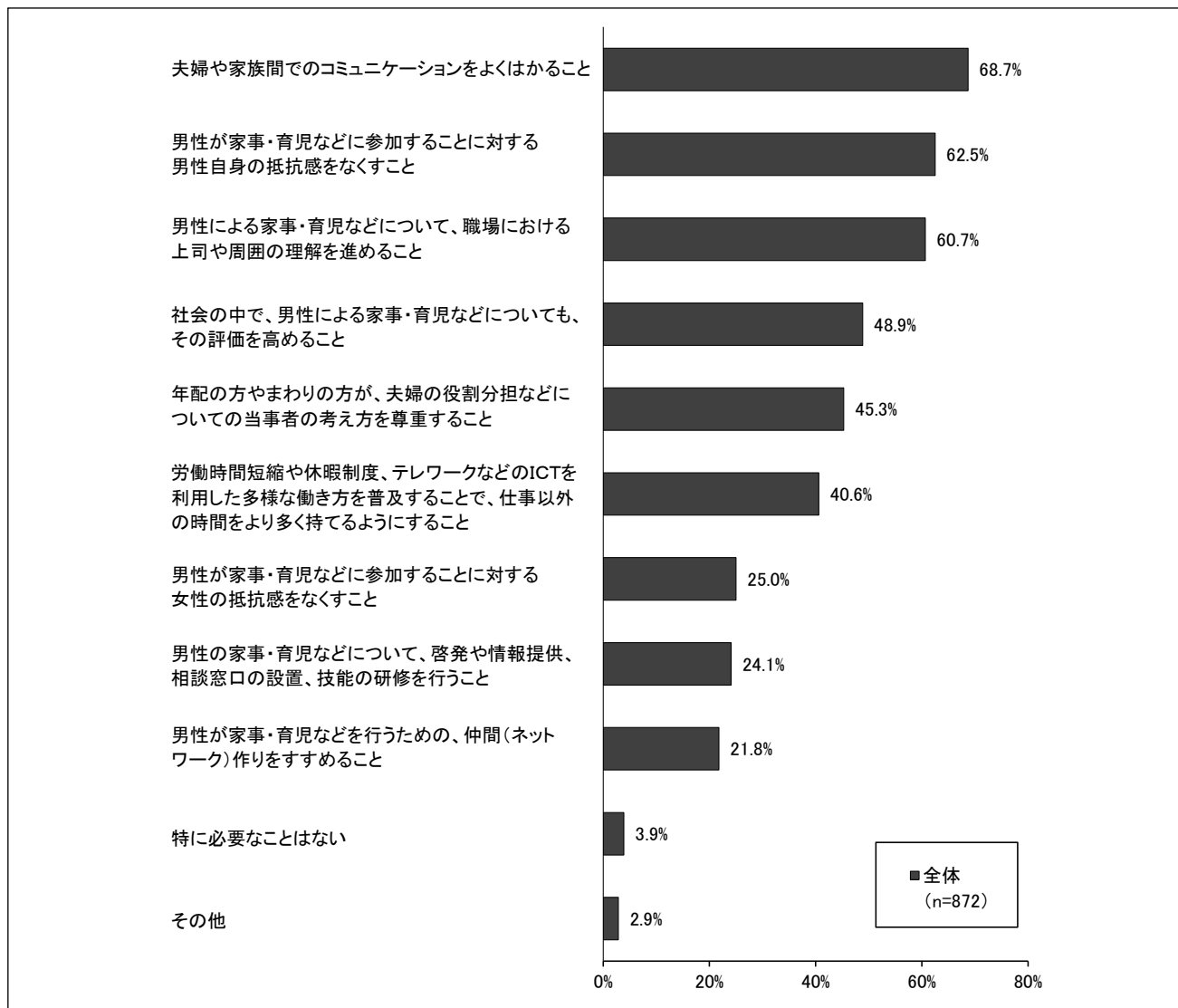
1-7 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと

◇男女とも約7割が「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と回答

◇次いで「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、
「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」

問11 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加し、主体的に関わっていくためには、
どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

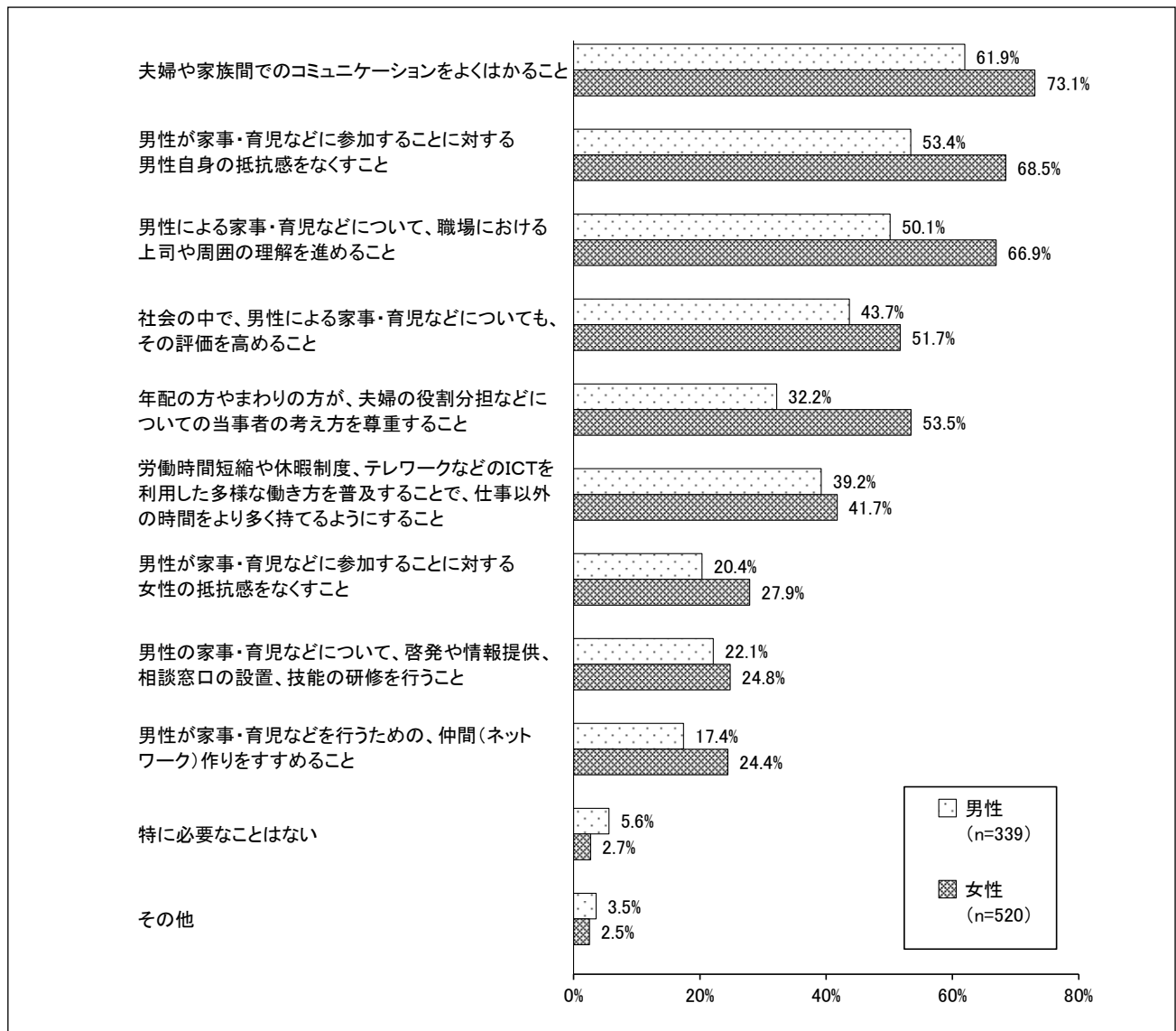
＜図表1-7-1 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと＞(全体)



「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と回答した割合が約7割(68.7%)で最も高く、家庭で十分なコミュニケーションをはかる時間が確保される必要がある。

次いで「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」、「社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること」となっている。

＜図表１－７－２ 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと＞（男女別）



「特に必要なことはない」、「その他」以外の全ての項目について、女性の割合が高くなっている。

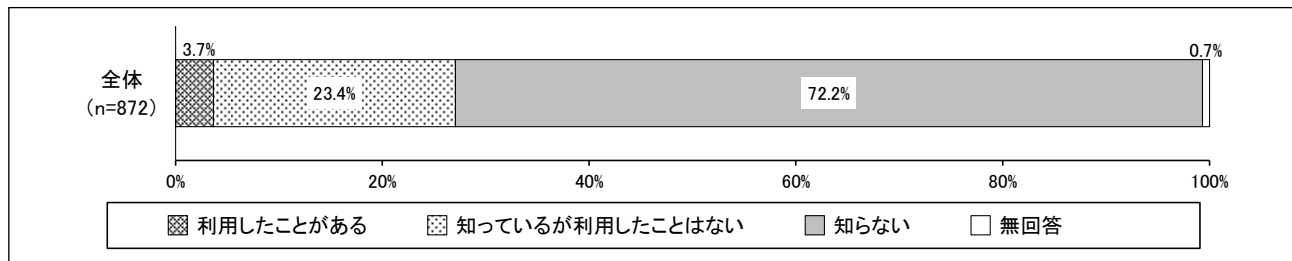
1-8 「宮崎市男女共同参画センター(パレット)」の認知度・利用状況

◇約7割が「知らない」と回答

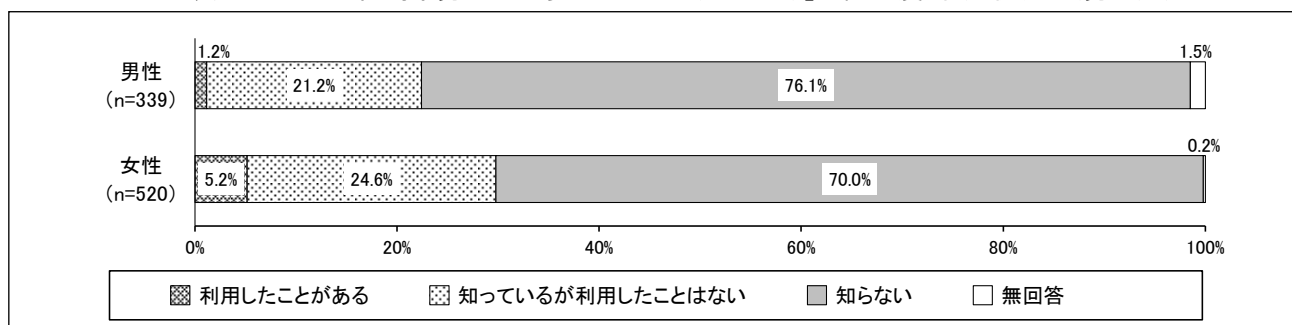
◇「利用したことがある」人は、女性は約20人に1人、男性はほとんどいない

問12 宮崎市の男女共同参画社会の形成に関する拠点施設「宮崎市男女共同参画センター(パレット)」を利用したことがありますか。(○は1つ)

＜図表1-8-1 「宮崎市男女共同参画センター(パレット)」の認知度・利用状況＞(全体)

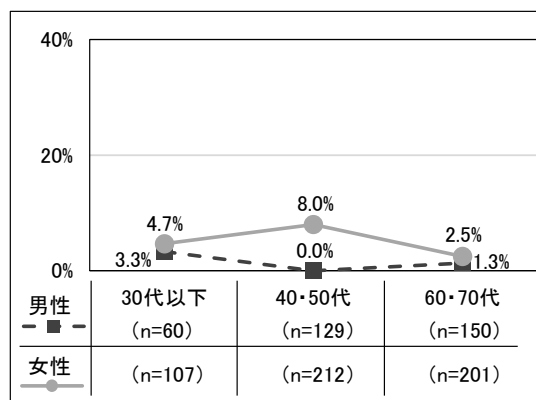
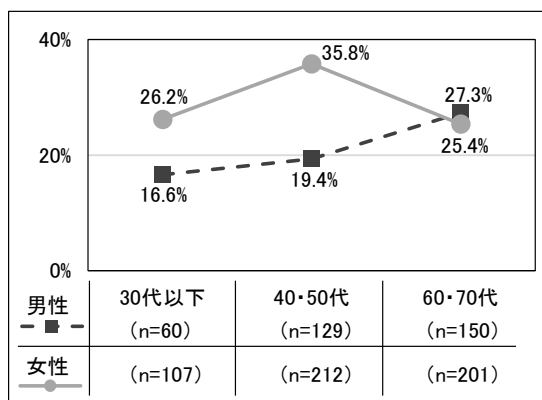


＜図表1-8-2 「宮崎市男女共同参画センター(パレット)」の認知度・利用状況＞(男女別)



「知っている」(「利用したことがある」と「知っているが利用したことはない」の計:以下同じ)割合は、全体的に低い、女性の方が高い。また、利用状況は、男性は約100人に1人(1.2%)でほとんどおらず、女性は約20人に1人(5.2%)となっている。

＜図表1-8-3 「宮崎市男女共同参画センター(パレット)」の認知度・利用状況＞(年代別)
「知っている」 「利用したことがある」



認知度、利用状況ともに、40・50代女性の割合が最も高くなっている。

1-9 自由記述の内容

問13 「男女共同参画社会に関する意識」について、ご意見等ありましたらご記入ください。

・P.63～65に掲載

2. 女性の活躍推進について

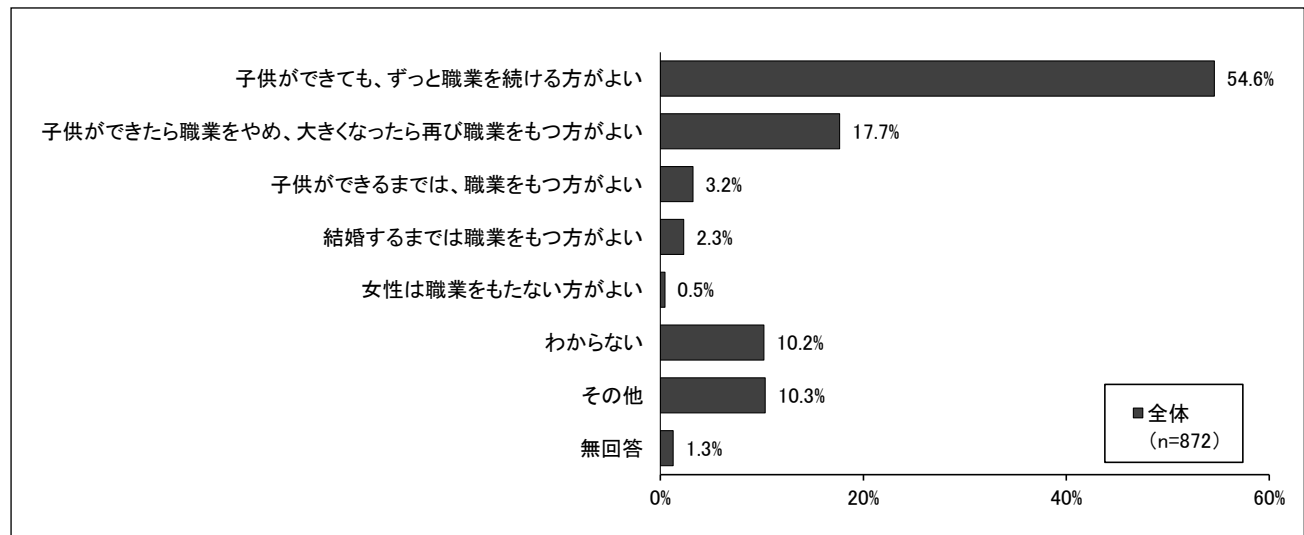
2-1 女性が職業をもつことについて

◇約半数が「子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答

◇男女別、年代別とも同じ傾向

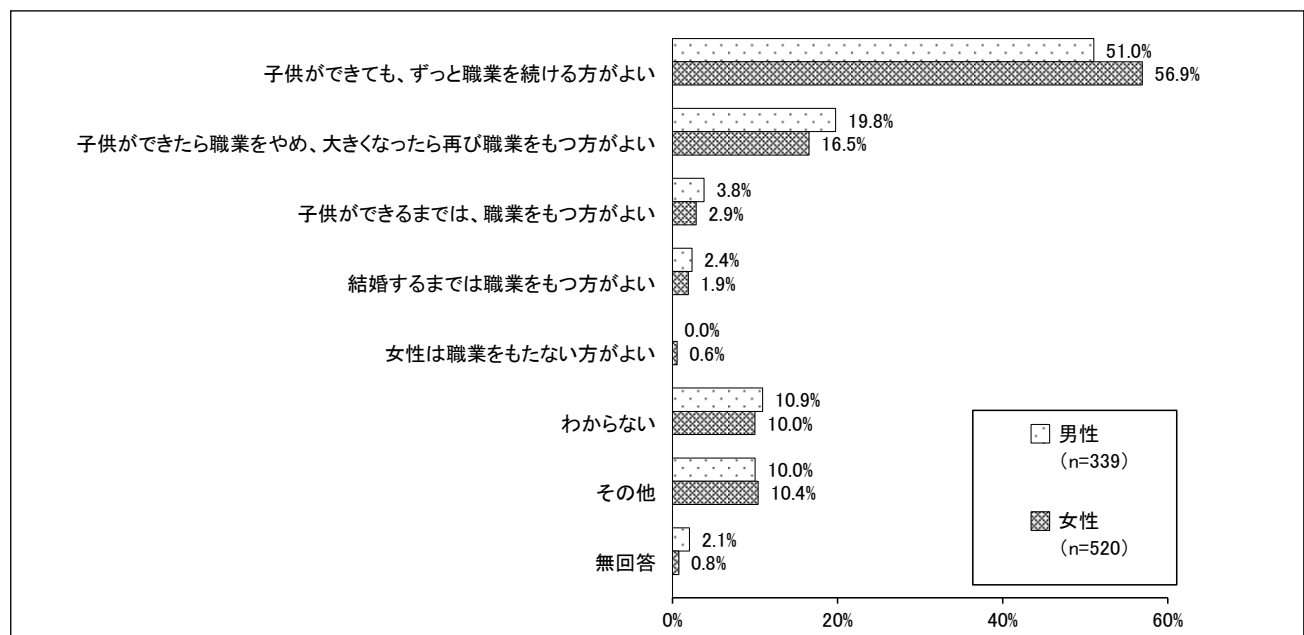
問14 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように考えですか。(○は1つ)

＜図表2-1-1 女性が職業をもつことについて＞(全体)



「子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した割合が約半数(54.6%)で最も高くなっており、他の項目を大きく上回っている。なお、「子供ができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した割合は前述の1/3程度(17.7%)となっている。

＜図表2-1-2 女性が職業をもつことについて＞(男女別)



男女とも全体と同じ傾向となっている。

＜図表２－１－３ 女性が職業をもつことについて＞（年代別）

	男性 (n=339)	30代以下 (n=60)	40・50代 (n=129)	60・70代 (n=150)	女性 (n=520)	30代以下 (n=107)	40・50代 (n=212)	60・70代 (n=201)
子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい	51.0%	50.0%	58.9%	44.7%	56.9%	52.3%	63.7%	52.2%
子供ができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	19.8%	15.0%	16.3%	24.7%	16.5%	10.3%	11.8%	24.9%
子供ができるまでは、職業をもつ方がよい	3.8%	0.0%	0.8%	8.0%	2.9%	3.7%	1.9%	3.5%
結婚するまでは職業をもつ方がよい	2.4%	0.0%	0.8%	4.7%	1.9%	0.9%	0.0%	4.5%
女性は職業をもたない方がよい	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	1.4%	0.0%
わからない	10.9%	16.7%	12.4%	7.3%	10.0%	16.8%	9.9%	6.5%
その他	10.0%	18.3%	10.1%	6.7%	10.4%	15.0%	11.3%	7.0%
無回答	2.1%	0.0%	0.8%	4.0%	0.8%	0.9%	0.0%	1.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

各年代とも全体と同じ傾向となっている。

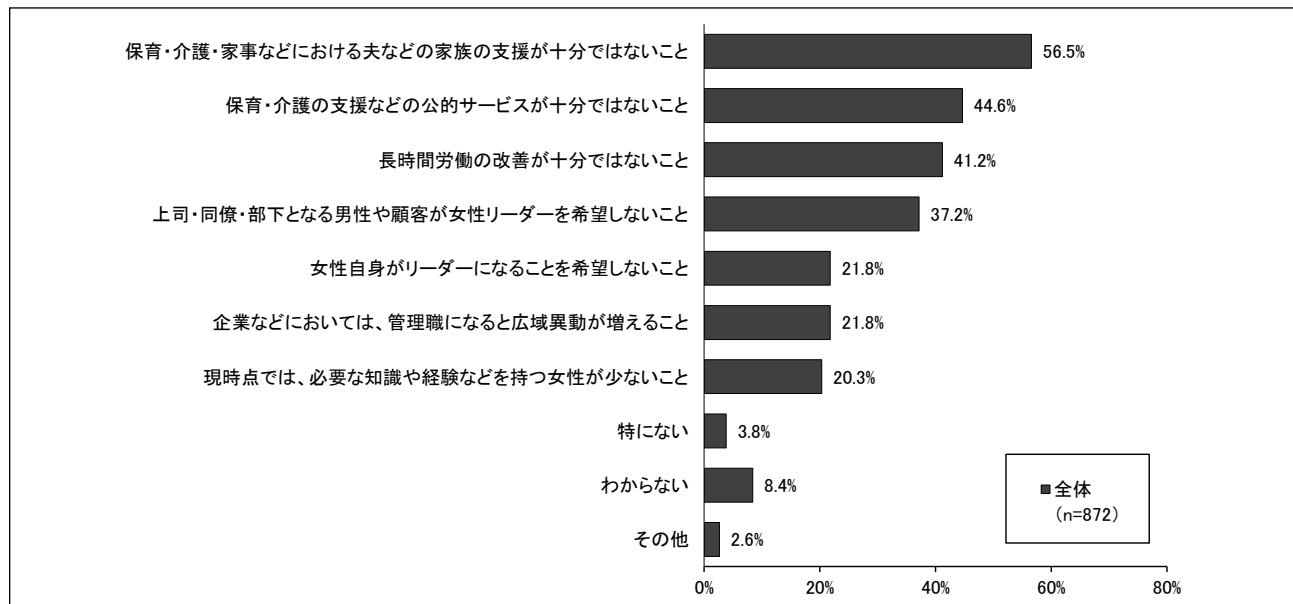
2-2 各分野で女性のリーダーを増やすときに妨げとなるもの

◇約6割が「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」と回答

◇男女とも同じ傾向

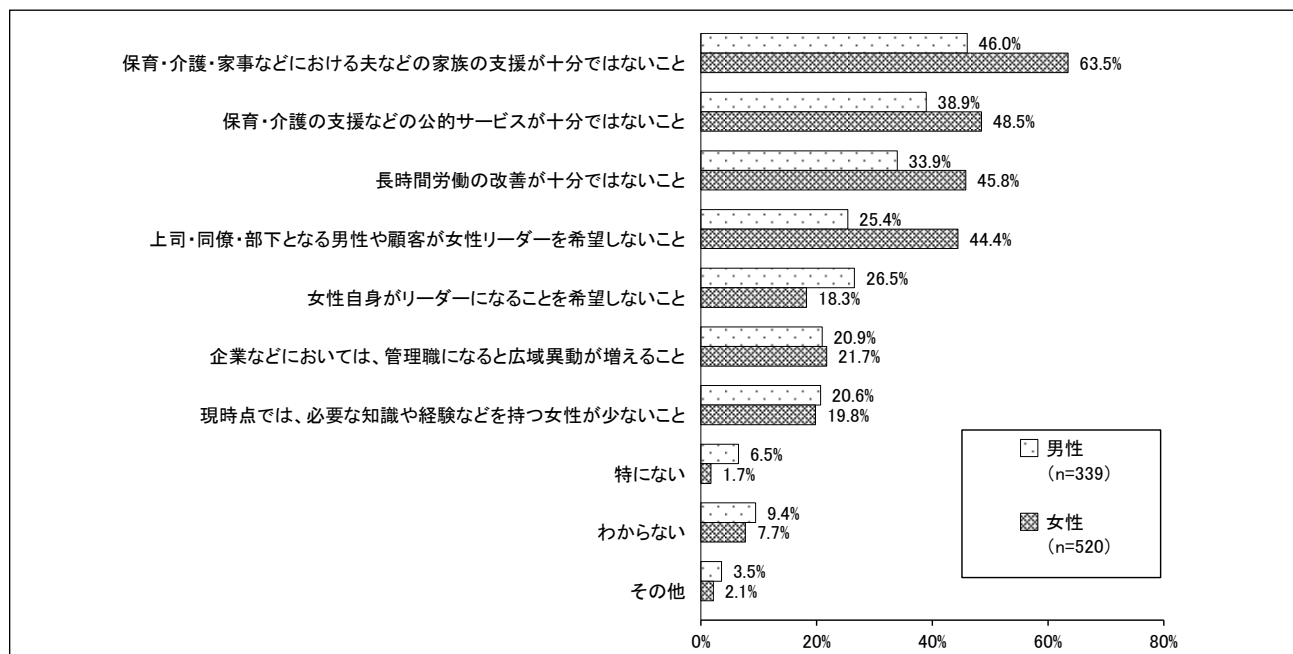
問15 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに妨げとなるものは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

<図表2-2-1 女性のリーダーを増やすときに妨げとなるもの>(全体)



「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分でないこと」と回答した割合が約6割(56.5%)で最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」、「長時間労働の改善が十分ではないこと」、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」となっている。

<図表2-2-2 女性のリーダーを増やすときに妨げとなるもの>(男女別)



男女とも同じ傾向にあるが、ほとんどの項目で当事者である女性の割合が男性よりも高くなっている。しかし、「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」については、男性が女性を上回っている。

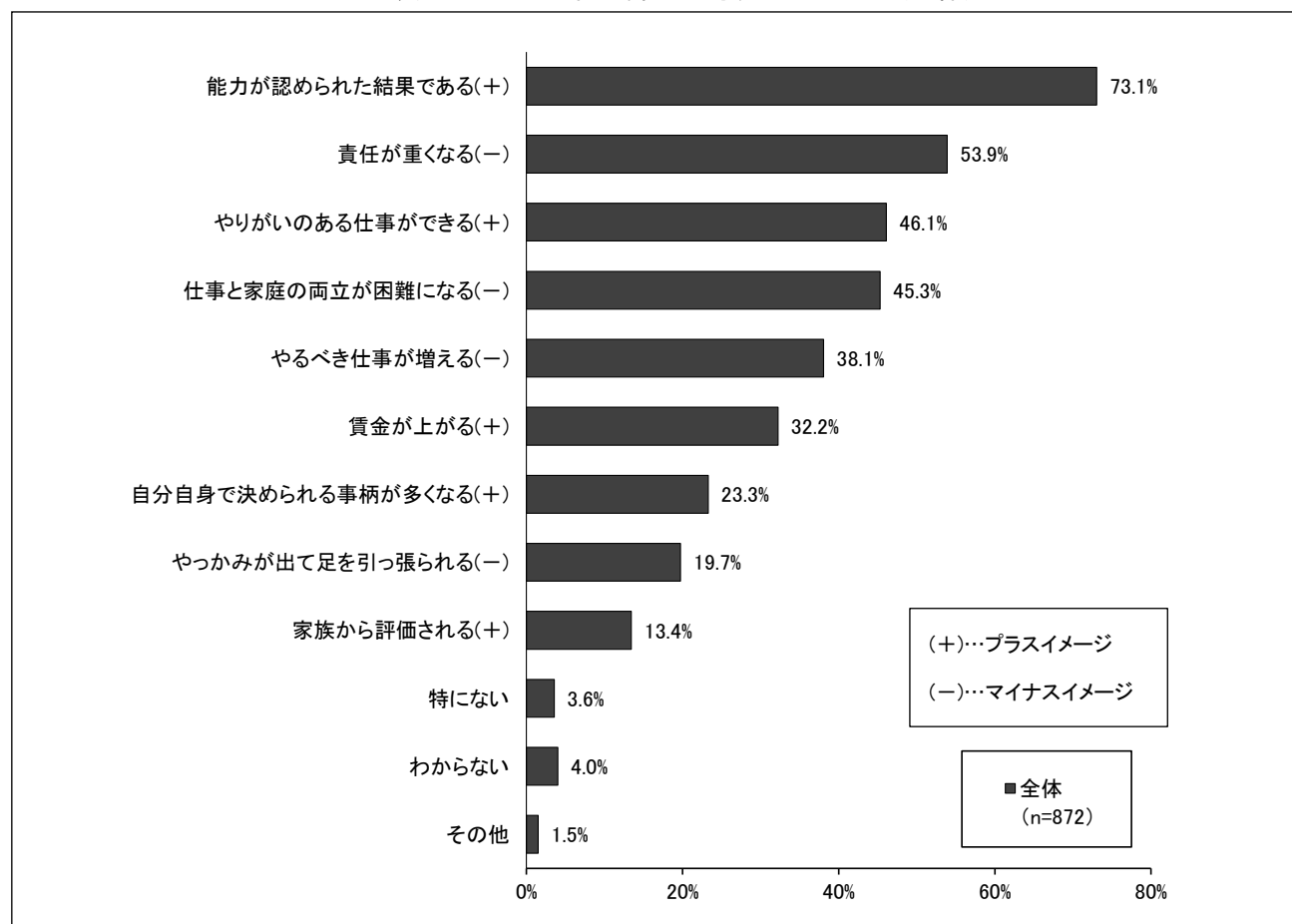
2-3 女性の昇進に対するイメージ

◇約7割が「能力が認められた結果である」と回答

◇プラスイメージとマイナスイメージが混在

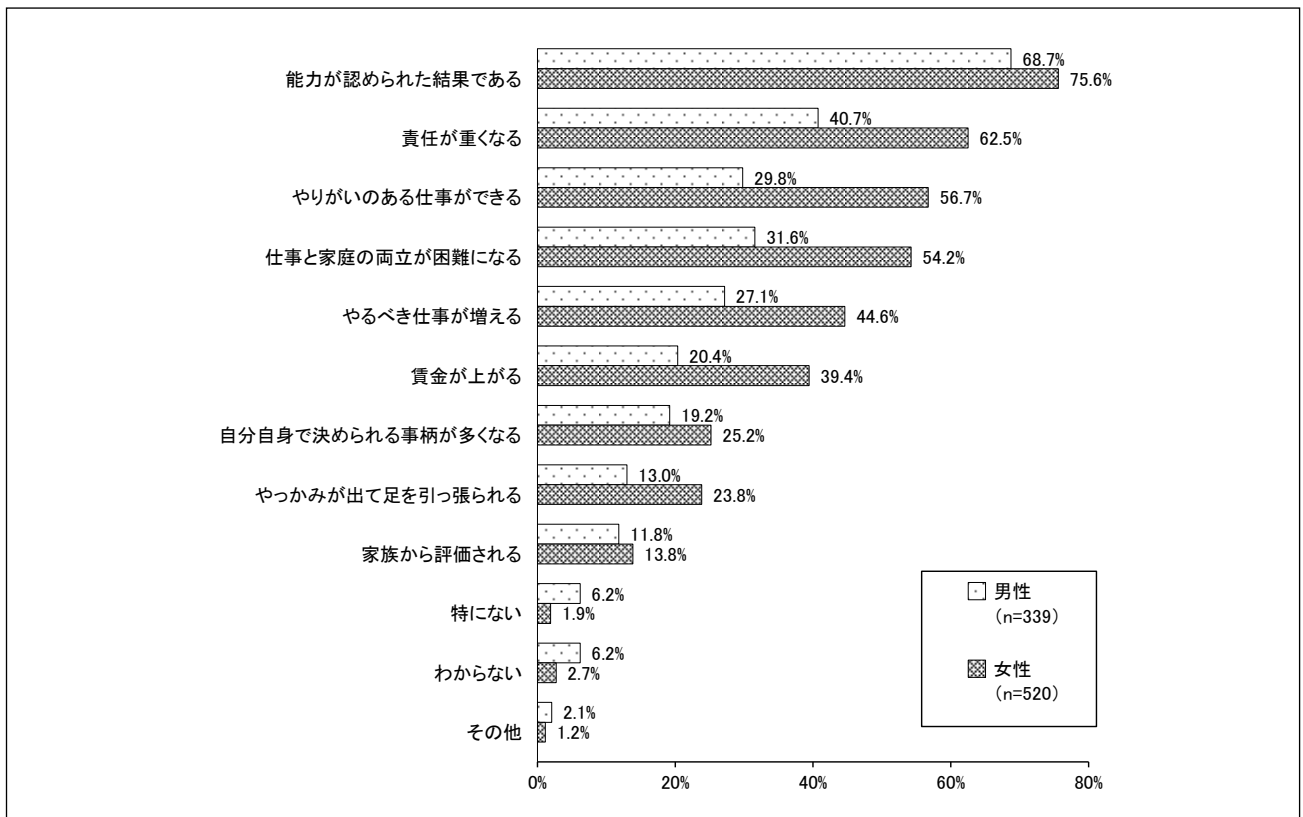
問16 あなたは、女性が管理職以上に昇進することについて、どのようなイメージを持っていますか。
(○はいくつでも)

<図表2-3-1 女性の昇進に対するイメージ> (全体)



「能力が認められた結果である」と回答した割合が約7割(73.1%)となっており、最も高い。また、女性の昇進に対するイメージは、プラスイメージとマイナスイメージが混在している。

＜図表2－3－2 女性の昇進に対するイメージ＞（男女別）



「特にない」、「わからない」以外の全ての項目で、女性の割合が男性を上回っており、その傾向は男女ともほぼ一致している。

＜図表2－3－3 女性の昇進に対するイメージ＞（年代別）

	男性 (n=339)	女性 (n=520)		
		30代以下 (n=107)	40・50代 (n=212)	60・70代 (n=201)
能力が認められた結果である	68.7%	71.0%	76.9%	76.6%
責任が重くなる	40.7%	55.1%	67.9%	60.7%
やりがいのある仕事ができる	29.8%	43.9%	57.5%	62.7%
仕事と家庭の両立が困難になる	31.6%	52.3%	55.2%	54.2%
やるべき仕事が増える	27.1%	50.5%	45.8%	40.3%
賃金が上がる	20.4%	43.0%	49.5%	26.9%
自分自身で決められる事柄が多くなる	19.2%	29.0%	26.4%	21.9%
やっかみが出て足を引っ張られる	13.0%	9.3%	28.8%	26.4%
家族から評価される	11.8%	15.0%	11.3%	15.9%
特にない	6.2%	1.9%	1.4%	2.5%
わからない	6.2%	2.8%	1.4%	4.0%
その他	2.1%	0.9%	2.4%	0.0%

各年代とも全体と同じ傾向となっている。

2－4 自由記述の内容

問17「女性の活躍推進」について、ご意見等ありましたらご記入ください。

・P.66～68に掲載

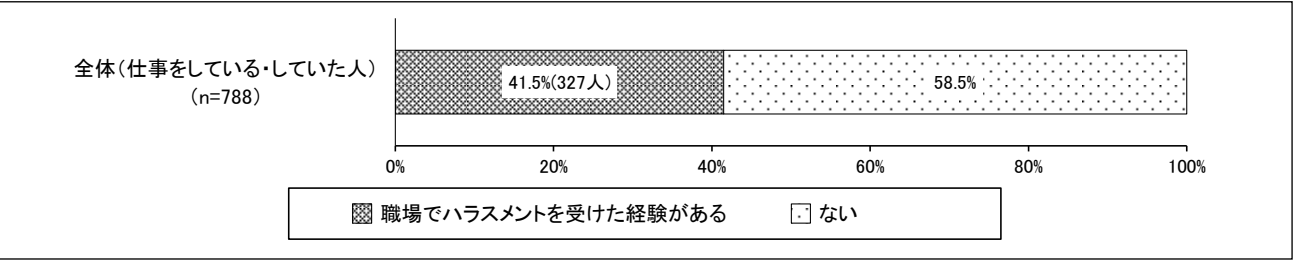
3. ハラスメントについて

3-1 職場でハラスメントを受けた経験

- ◇約4割が職場でハラスメントを受けた経験あり
- ◇職場でハラスメントを受けた経験がある人は40・50代が多く、男性よりも女性が多い
- ◇約9割が「パワーハラスメント」

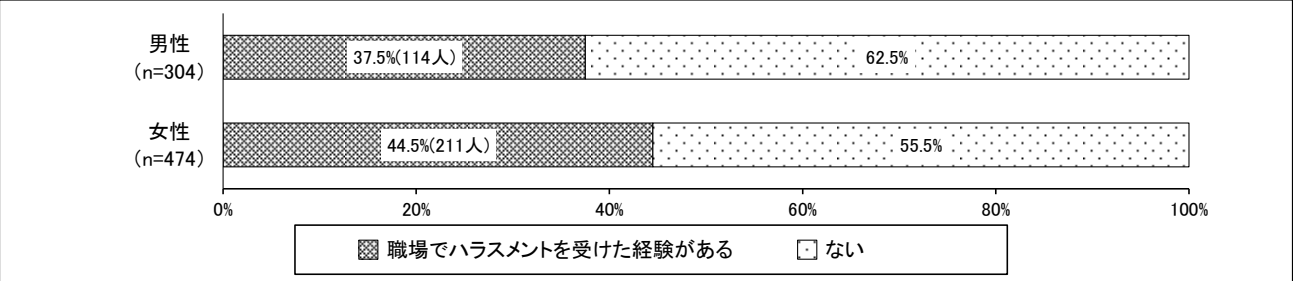
問18 お仕事をされている方(または以前されていた方)におたずねします。
あなたは、職場において、次にあげるようなハラスメントを受けたことがありますか。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

<図表3-1-1 職場でハラスメントを受けた経験>(全体・要件該当者)



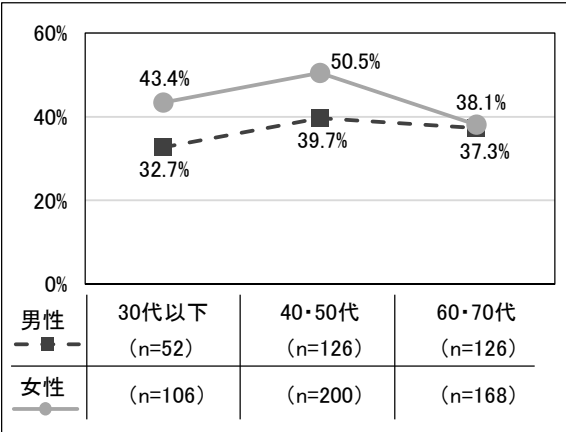
「職場でハラスメントを受けた経験がある」と回答した割合は約4割(41.5%)となっている。

<図表3-1-2 職場でハラスメントを受けた経験>(男女別)



「職場でハラスメントを受けた経験がある」と回答した割合は、女性が男性より多い(女性:44.5%、男性:37.5%)。

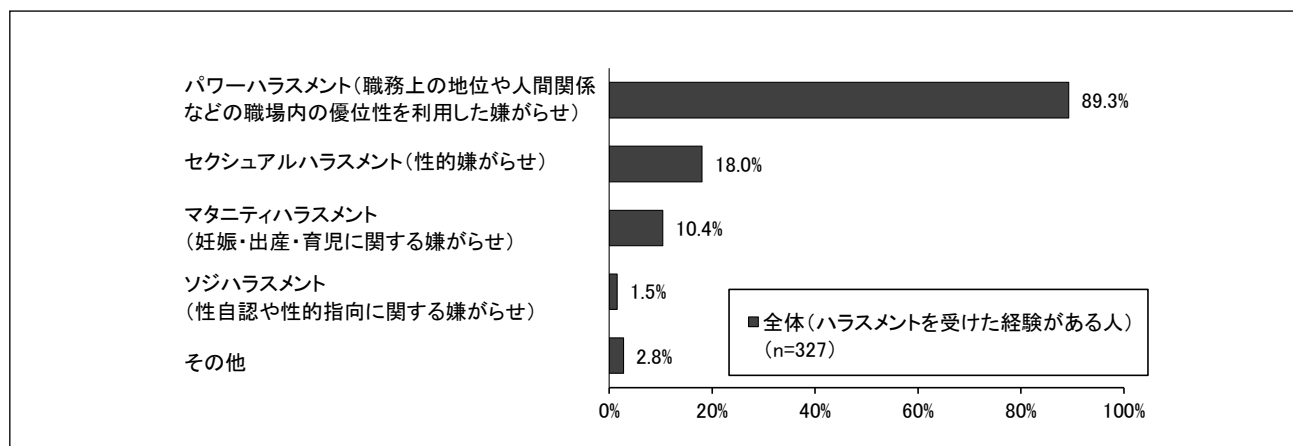
<図表3-1-3 職場でハラスメントを受けた経験>(年代別)



「職場でハラスメントを受けた経験がある」と回答した割合は、男女とも40・50代で高くなっている。

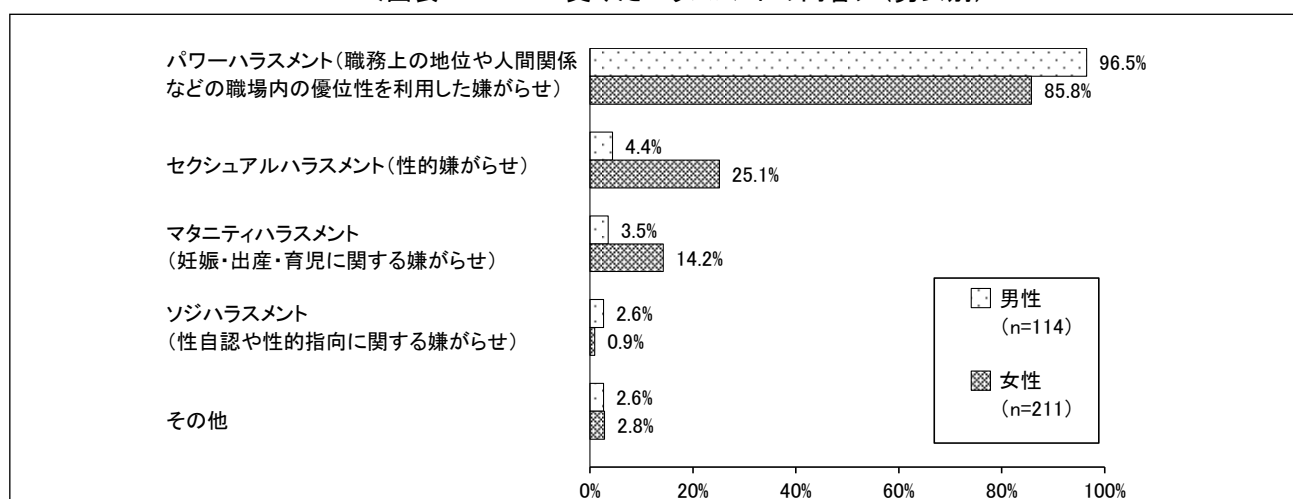
○受けたハラスメントの内容

＜図表3－1－4 受けたハラスメントの内容＞（全体・要件該当者）



「パワーハラスメント(職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を利用した嫌がらせ)」と回答した割合が約9割(89.3%)で突出している。

＜図表3－1－5 受けたハラスメントの内容＞（男女別）



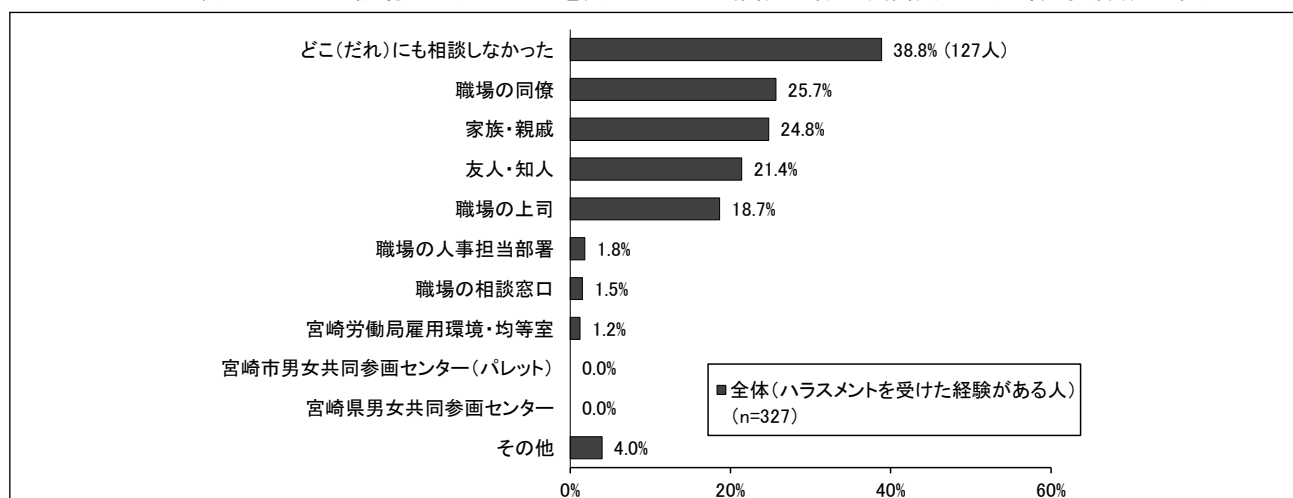
男女とも「パワーハラスメント(職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を利用した嫌がらせ)」と回答した割合が最も高くなっている(男性:96.5%、女性:85.8%)。男性は圧倒的に「パワーハラスメント(職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を利用した嫌がらせ)」が多いのに対し、女性は「セクシュアルハラスメント(性的嫌がらせ)」、「マタニティハラスメント(妊娠・出産・育児に関する嫌がらせ)」に分散している。

3-2 職場でハラスメントを受けたときの相談の有無、相談先

- ◇男女とも「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した割合が最多で約4割
- ◇相談先は4人に1人が「職場の同僚」、「家族・親戚」など身近な人
- ◇女性の方が周囲に相談した割合が高い

問18-1 問18で「2」～「6」と答えた方におたずねします。
あなたは、そのときどこ(だれ)かに相談しましたか。(○はいいくつでも)

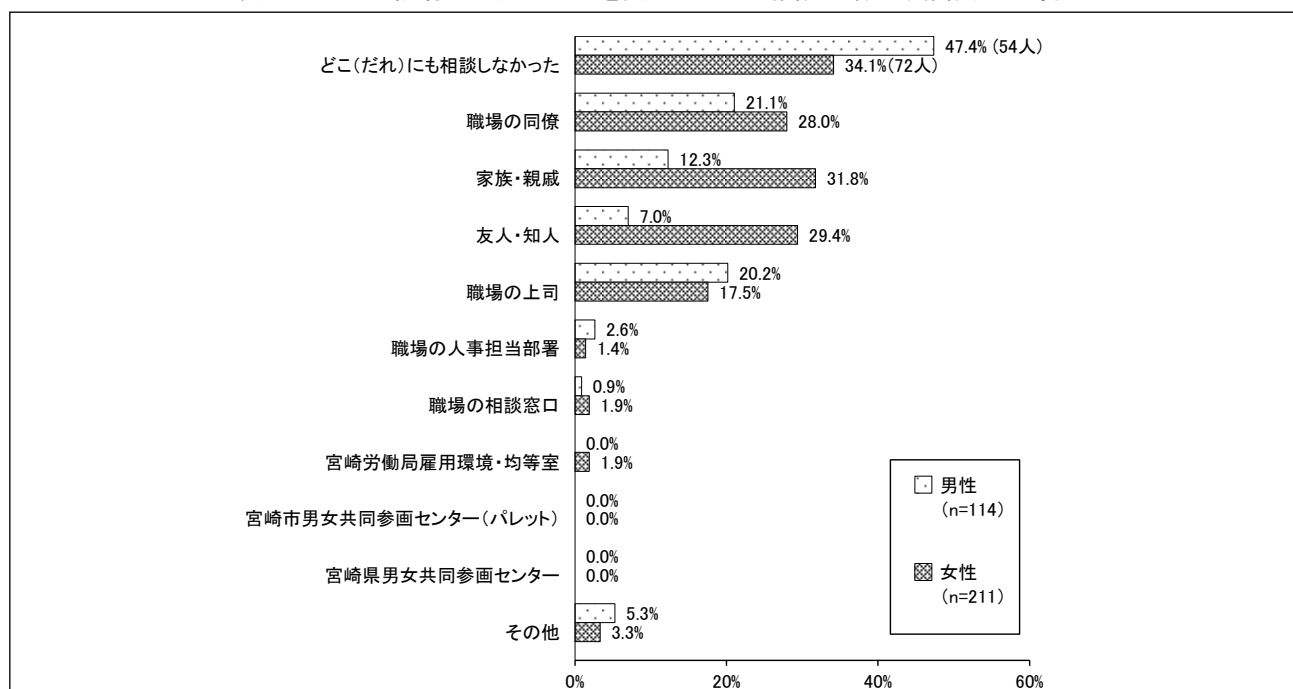
＜図表3-2-1 職場でハラスメントを受けたときの相談の有無、相談先＞(全体・要件該当者)



「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した割合が約4割(38.8%)で最も高くなっている。このような中で、相談先は4人に1人が「職場の同僚」(25.7%)、「家族・親戚」(24.8%)など身近な人となっている。

職場の相談窓口や公的機関に相談した割合は、全体的に低い。

＜図表3-2-2 職場でハラスメントを受けたときの相談の有無、相談先＞(男女別)



男女とも「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した割合が最も高くなっている(男性:47.7%、女性:34.1%)。なお、相談先は、男性では「職場の同僚」(21.1%)、「職場の上司」(20.2%)、女性では「家族・親戚」(31.8%)、「友人・知人」(29.4%)となっている。

3-3 職場でのハラスメントを相談しなかった理由

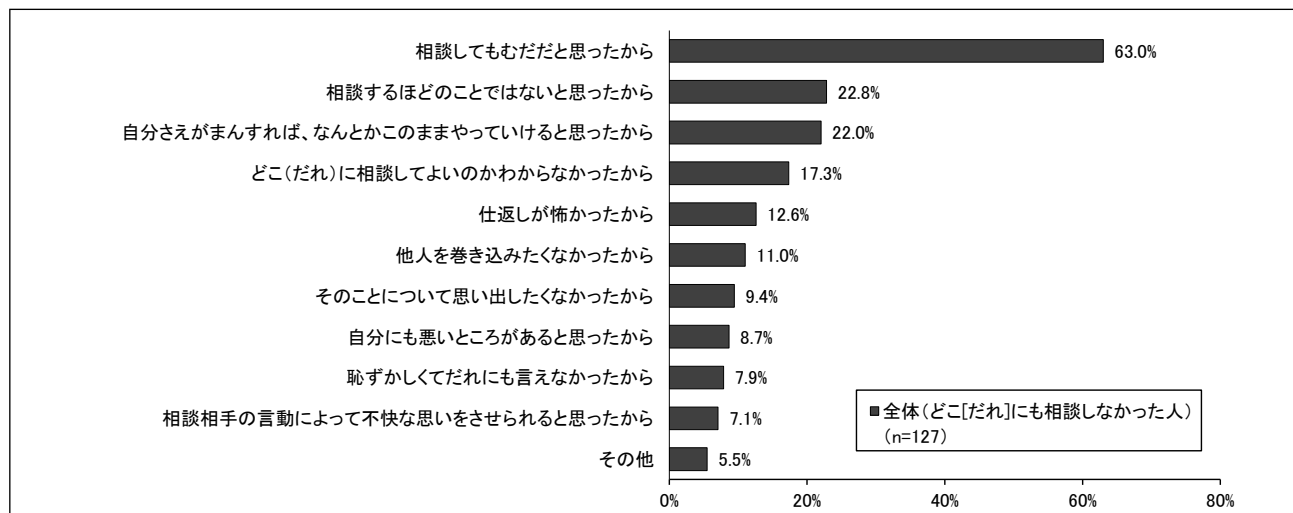
◇約6割が「相談してもむだだと思ったから」と回答

◇次いで「相談するほどのことではないと思ったから」、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」

◇男女とも同じ傾向

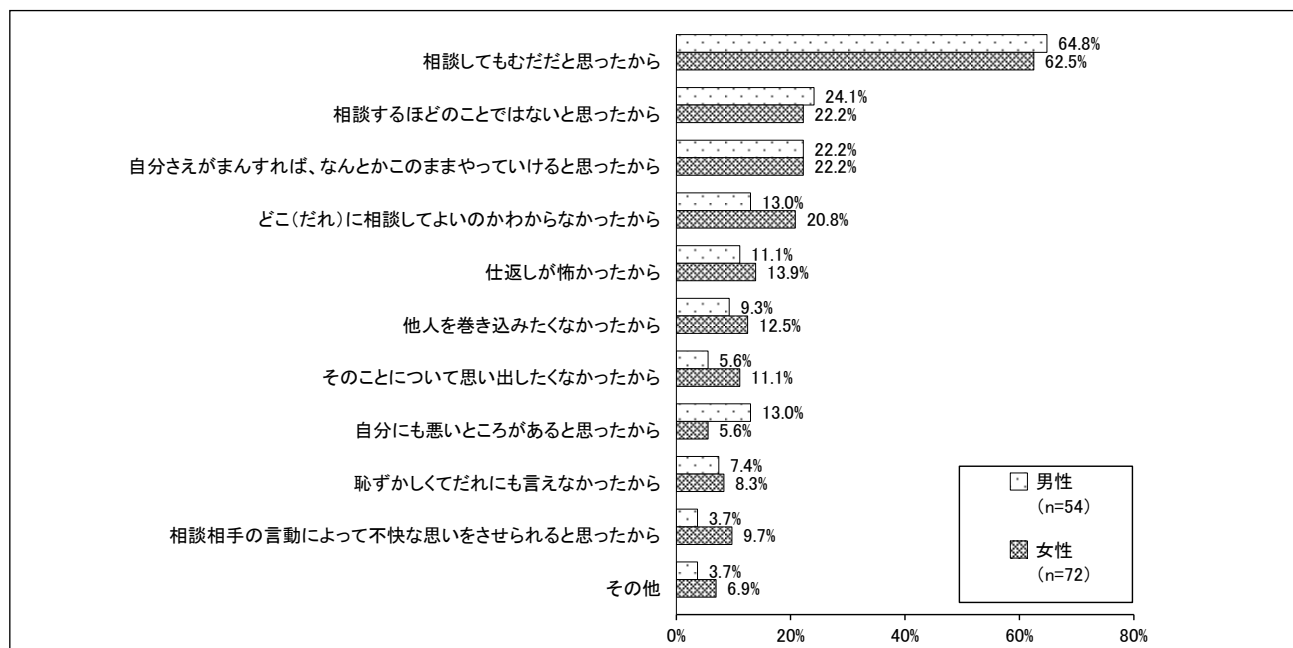
問18-2 問18-1で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。
それはなぜですか。(〇はいくつでも)

＜図表3-3-1 職場でのハラスメントを相談しなかった理由＞(全体・要件該当者)



「相談してもむだだと思ったから」と回答した割合が約6割(63.0%)で最も高くなっており、他の項目を大きく上回っている。次いで「相談するほどのことではないと思ったから」(22.8%)、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(22.0%)となっている。

＜図表3-3-2 職場でのハラスメントを相談しなかった理由＞(男女別)



男女とも全体と同じ傾向となっている。

3-4 自由記述の内容

問19 「ハラスメント」について、ご意見等ありましたらご記入ください。

・P.69～71に掲載

4. ワーク・ライフ・バランスに関する意識について

4-1 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」における「希望」の優先度

◇男女とも1/3以上が「仕事と家庭生活をともに優先したい」と回答

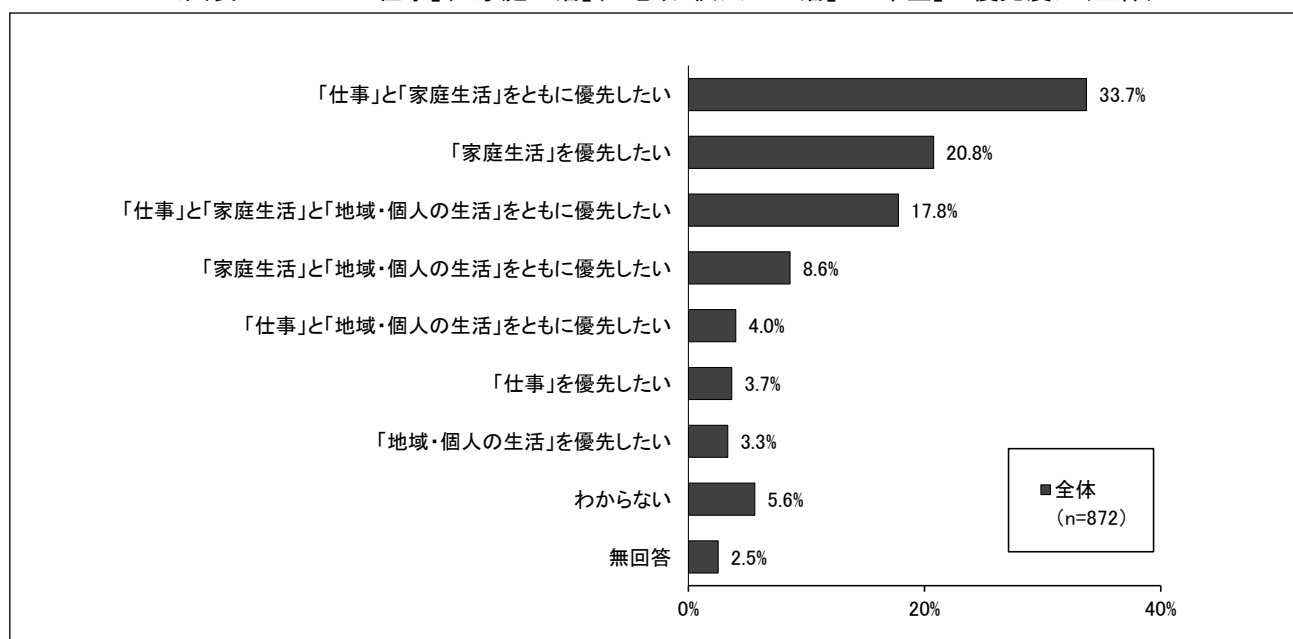
◇「仕事を優先したい」という希望は約4%で低く、男女とも若い世代ほどそう思わない傾向

◇「家庭生活を優先したい」と回答した割合は女性が高く、「仕事を優先したい」と回答した割合は男性が高い

生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についてお伺いします。

問20 あなたの「希望」に最も近い番号に○をつけてください。(○は1つ)

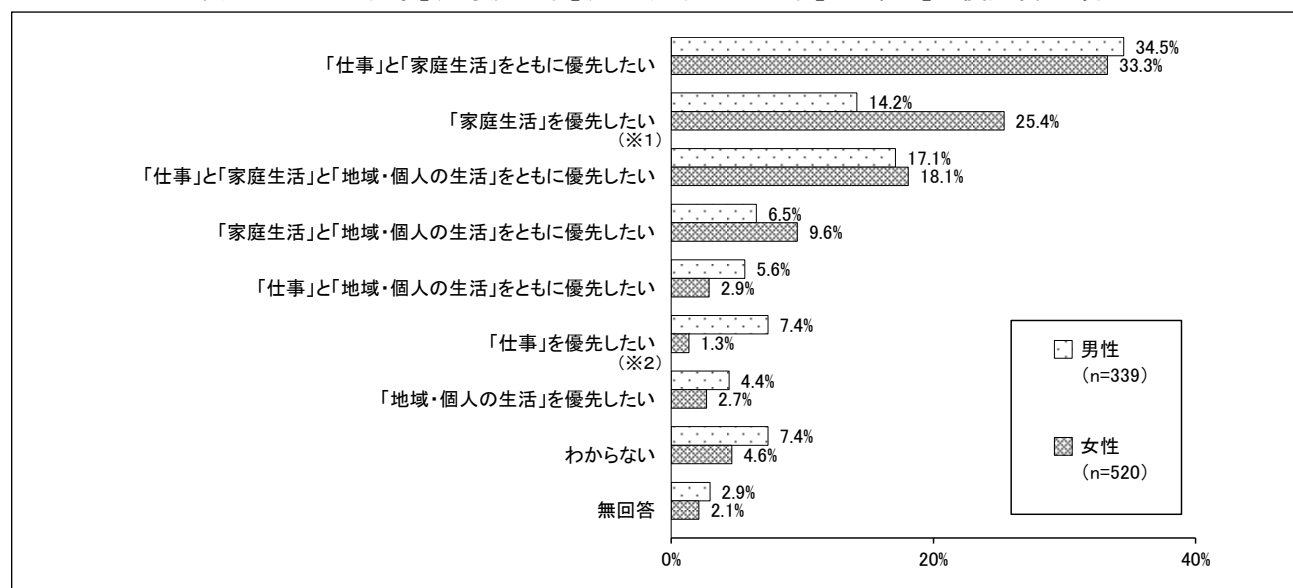
<図表4-1-1 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の「希望」の優先度> (全体)



「仕事と家庭生活をともに優先したい」と回答した割合が1/3以上 (33.7%) で最も高く、次いで「家庭生活を優先したい」 (20.8%) となっている。

「地域・個人の生活を優先したい」と回答した割合は3.3%で最も低くなっている。

＜図表4－1－2 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の「希望」の優先度＞（男女別）



男女とも「仕事と家庭生活をともに優先したい」と回答した割合が最も高くなっている（男性：34.5%、女性：33.3%）。
 次いで、男性は「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」、女性は「家庭生活を優先したい」となっている。
 「家庭生活を優先したい」と回答した割合（※1）は、女性が男性より高く（女性：25.4%、男性：14.2%）、「仕事を優先したい」と回答した割合（※2）は、男性が女性より高くなっている（男性：7.4%、女性：1.3%）。

＜図表4－1－3 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の「希望」の優先度＞（年代別）

	男性 (n=339)	年代別			女性 (n=520)	年代別		
		30代以下 (n=60)	40・50代 (n=129)	60・70代 (n=150)		30代以下 (n=107)	40・50代 (n=212)	60・70代 (n=201)
「仕事」を優先したい ※2	7.4%	0.0%	7.8%	10.0%	1.3%	0.9%	1.4%	1.5%
「家庭生活」を優先したい	14.2%	15.0%	17.1%	11.3%	25.4%	27.1%	24.1%	25.9%
「地域・個人の生活」を優先したい	4.4%	5.0%	3.1%	5.3%	2.7%	3.7%	1.4%	3.5%
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい ※1	34.5%	31.7%	41.1%	30.0%	33.3%	37.4%	37.7%	26.4%
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	5.6%	5.0%	4.7%	6.7%	2.9%	3.7%	3.3%	2.0%
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	6.5%	15.0%	5.4%	4.0%	9.6%	10.3%	6.6%	12.4%
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	17.1%	21.7%	16.3%	16.0%	18.1%	13.1%	20.3%	18.4%
わからない	7.4%	5.0%	3.9%	11.3%	4.6%	3.7%	5.2%	4.5%
無回答	2.9%	1.7%	0.8%	5.3%	2.1%	0.0%	0.0%	5.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

各年代とも「仕事と家庭生活をともに優先したい」と回答した割合が最も高くなっている（※1）。
 「仕事を優先したい」と回答した割合は、若い年代ほど低く、30代以下では男女ともほぼ0%となっている（※2）。

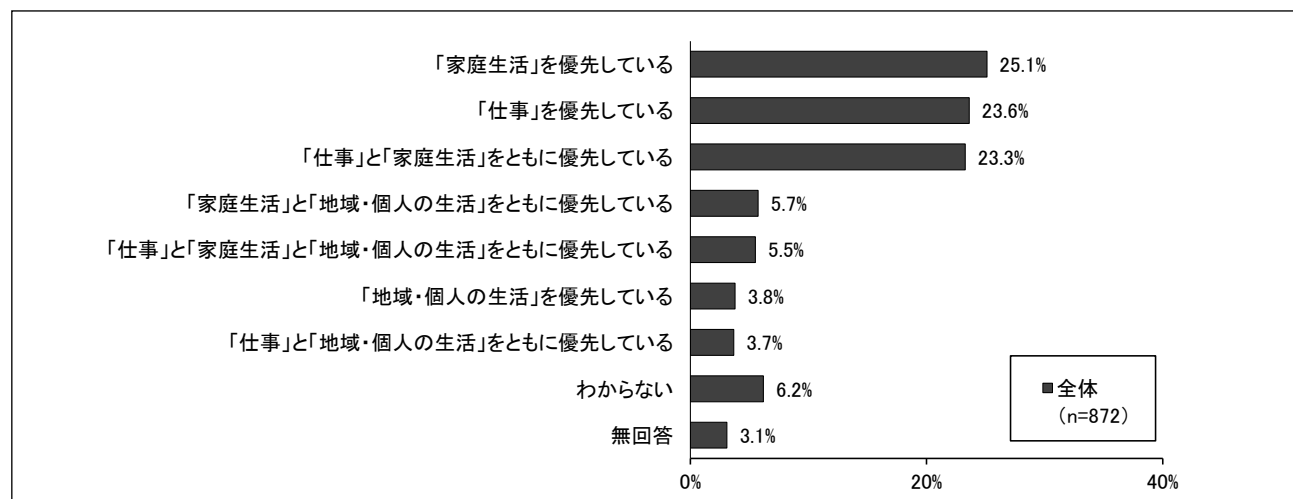
4-2 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」における「現実」の優先度

◇「仕事を優先している」と回答した割合は、「現実」と「希望」に大きな差が見られる

◇男性は「仕事を優先している」、女性は「家庭生活を優先している」と回答した割合が最多(ともに3割)

問20-1 あなたの「現実・現状」に最も近い番号に○をつけてください。(○は1つ)

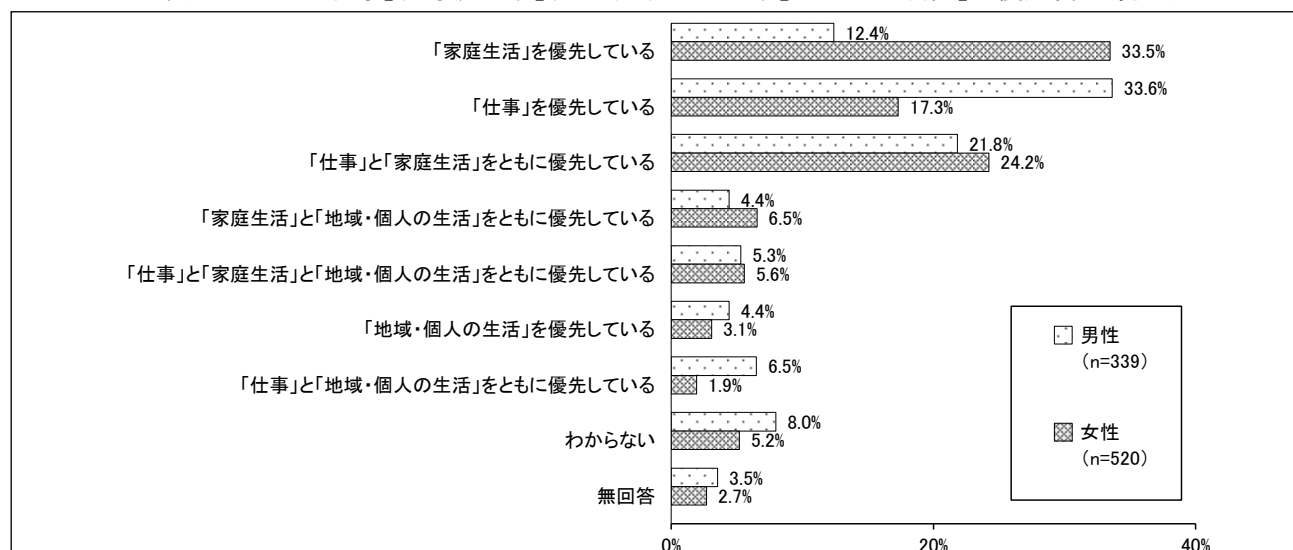
＜図表4-2-1 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」における「現実」の優先度＞(全体)



「家庭生活を優先している」(25.1%)、「仕事を優先している」(23.6%)、「仕事と家庭生活をともに優先している」(23.3%)は、いずれも約2割となっている。問20で「仕事を優先したい」(P.31)と回答した割合は3.7%であり、「仕事優先」は「現実」と「希望」の間に大きな差が見られる。

また、「仕事と地域・個人の生活をともに優先している」と回答した割合が最も低くなっている(3.7%)。

＜図表4-2-2 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」における「現実」の優先度＞(男女別)



「家庭生活を優先している」と回答した割合は、女性が約3割(33.5%)で最も高く、「仕事を優先している」と回答した割合は、男性が約3割(33.6%)で最も高くなっている。

4-3 自由記述の内容

問21 問20と問20-1の回答が異なる理由(ワーク・ライフ・バランスの希望と現実・現状に差がある理由)や、「ワーク・ライフ・バランス」についてご意見等ありましたらご記入ください。

・P.72～74に掲載

5. 新型コロナウイルスの影響について

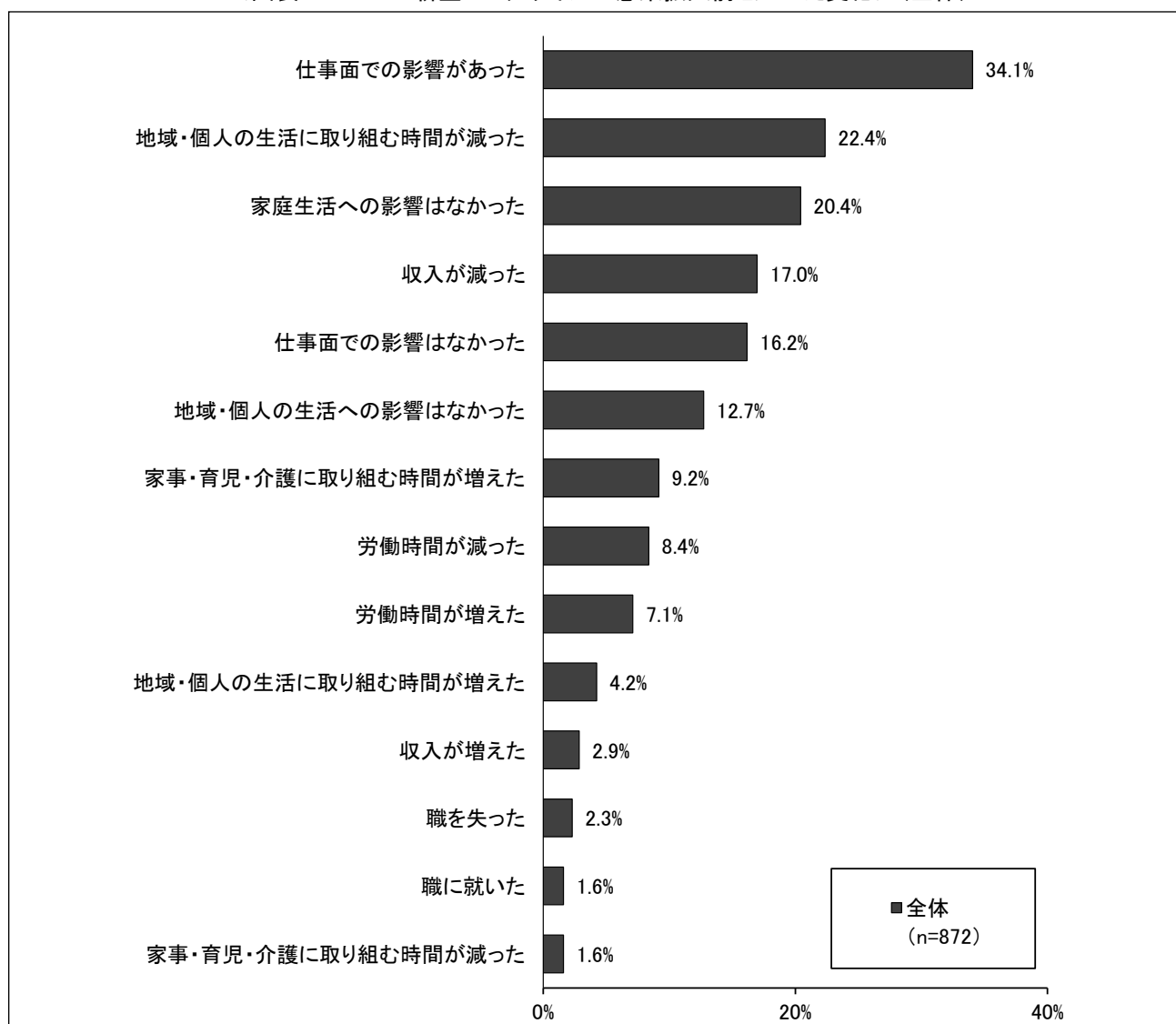
5-1 新型コロナウイルス感染拡大前と比べた「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の変化

◇約3割が「仕事面での影響があった」と回答

◇50代以下の女性は、家事・育児・介護に取り組む時間が増加

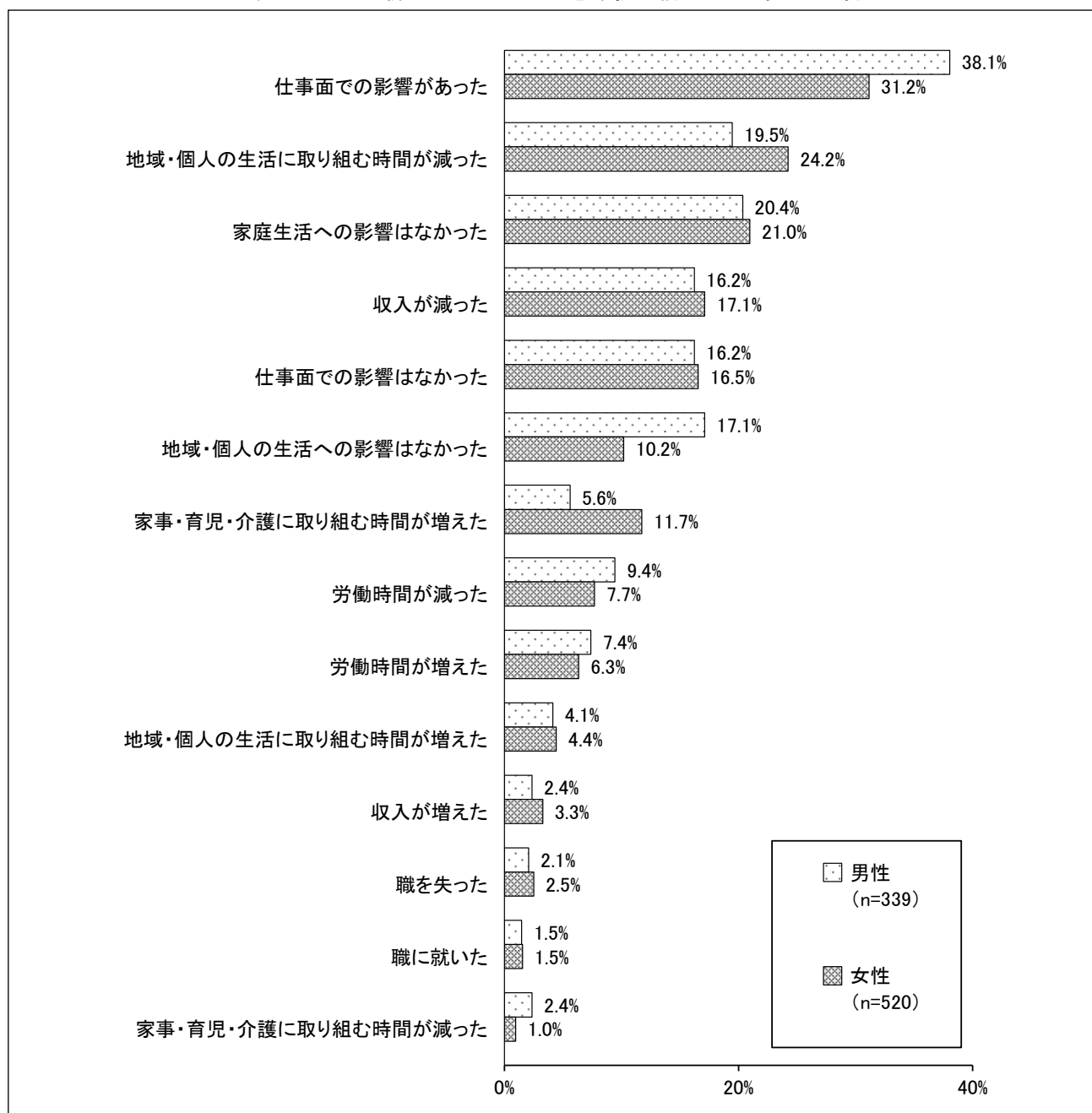
問22 新型コロナウイルス感染拡大前と比べて、「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」に変化はありましたか。(〇はいくつでも)

＜図表5-1-1 新型コロナウイルス感染拡大前と比べた変化＞(全体)



「仕事面での影響があった」と回答した割合が約3割(34.1%)で最も高く、次いで「地域・個人の生活に取り組む時間が減った」(22.4%)、「家庭生活への影響はなかった」(20.4%)となっている。

＜図表5－１－２ 新型コロナウイルス感染拡大前と比べた変化＞（男女別）



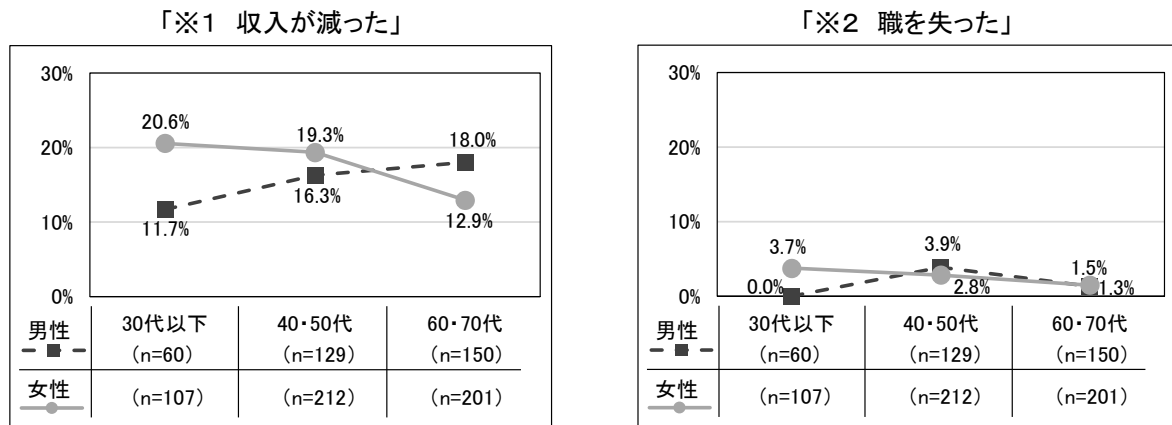
回答した割合の高い3項目は、男女とも全体と同じ傾向となっている。

＜図表5－1－3 新型コロナウイルス感染拡大前と比べた変化＞（年代別）

	男性 (n=339)	30代以下 (n=60)	40・50代 (n=129)	60・70代 (n=150)	女性 (n=520)	30代以下 (n=107)	40・50代 (n=212)	60・70代 (n=201)
仕事面での影響があった	38.1%	31.7%	50.4%	30.0%	31.2%	38.3%	38.2%	19.9%
地域・個人の生活に取り組む時間が減った	19.5%	18.3%	14.7%	24.0%	24.2%	19.6%	21.2%	29.9%
家庭生活への影響はなかった	20.4%	23.3%	19.4%	20.0%	21.0%	18.7%	15.1%	28.4%
収入が減った ※1	16.2%	11.7%	16.3%	18.0%	17.1%	20.6%	19.3%	12.9%
仕事面での影響はなかった	16.2%	26.7%	17.8%	10.7%	16.5%	17.8%	19.3%	12.9%
地域・個人の生活への影響はなかった	17.1%	13.3%	16.3%	19.3%	10.2%	10.3%	12.7%	7.5%
家事・育児・介護に取り組む時間が増えた ※3	5.6%	5.0%	6.2%	5.3%	11.7%	15.9%	14.6%	6.5%
労働時間が減った	9.4%	10.0%	7.8%	10.7%	7.7%	8.4%	8.5%	6.5%
労働時間が増えた	7.4%	15.0%	10.1%	2.0%	6.3%	8.4%	8.5%	3.0%
地域・個人の生活に取り組む時間が増えた	4.1%	1.7%	3.9%	5.3%	4.4%	2.8%	5.7%	4.0%
収入が増えた	2.4%	6.7%	3.1%	0.0%	3.3%	9.3%	2.8%	0.5%
職を失った ※2	2.1%	0.0%	3.9%	1.3%	2.5%	3.7%	2.8%	1.5%
職に就いた	1.5%	5.0%	0.8%	0.7%	1.5%	3.7%	1.9%	0.0%
家事・育児・介護に取り組む時間が減った	2.4%	6.7%	3.1%	0.0%	1.0%	0.9%	1.9%	0.0%

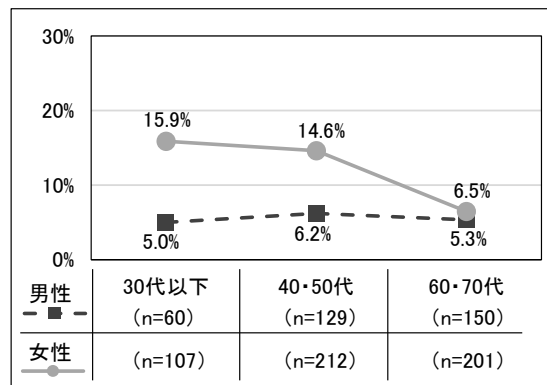
ほとんどの年代で「仕事面での影響があった」と回答した割合が最も高くなっている。

＜図表5－1－4 新型コロナウイルス感染拡大前と比べた変化のうち、特徴的な項目＞（年代別）



「収入が減った」、「職を失った」といった経済的な影響を、男性は年代が高いほど受けており、女性は年代が若いほど受けている。

「※3 家事・育児・介護に取り組む時間が増えた」



家事・育児・介護に取り組む時間の増加については、男性は年代による差はほとんど見られなかったが、女性は50代以下で高い傾向にある。

5-2 自由記述の内容

問23 「新型コロナウイルスの影響」について、ご意見等ありましたらご記入ください。 (コロナ禍で男女共同参画について気付いたこと等)

・P.75、76に掲載

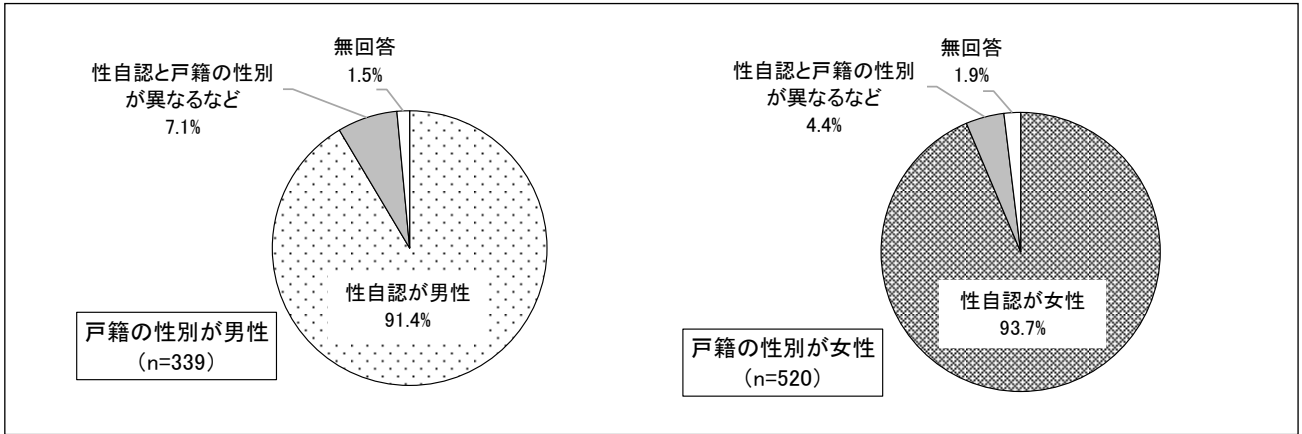
6. 多様な性を尊重する社会づくりについて

6-1 自認している性別

◇「自認している性別と戸籍の性別が異なっている」、「どちらともある・どちらともない」、「わからない」、「決めたくない」、「答えたくない」と回答した合計は、約20人に1人

問24 現在、あなた自身が認識している性別(性自認)を教えてください。(○は1つ)

<図表6-1-1 自認している性別>(全体)



「性自認と戸籍の性別が異なる」、「どちらともある・どちらともない」、「わからない」、「決めたくない」、「答えたくない」と回答した割合の合計は、約20人に1人となっている。

<図表6-1-2 自認している性別>(年代別)

	全体 (n=872)	男性 (n=339)	30代以下 (n=60)	40・50代 (n=129)	60・70代 (n=150)	女性 (n=520)	30代以下 (n=107)	40・50代 (n=212)	60・70代 (n=201)
性自認が男性	36.5%	91.4%	96.7%	95.3%	86.0%	0.4%	0.0%	0.5%	0.5%
性自認が女性	56.9%	1.5%	0.0%	2.3%	1.3%	93.7%	97.2%	94.8%	90.5%
どちらともある・どちらともない	1.1%	0.9%	1.7%	0.0%	1.3%	1.2%	2.8%	0.5%	1.0%
わからない	2.6%	3.5%	0.0%	1.6%	6.7%	2.1%	0.0%	2.4%	3.0%
決めたくない	0.6%	0.6%	0.0%	0.8%	0.7%	0.6%	0.0%	0.9%	0.5%
答えたくない	0.2%	0.3%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0.2%	0.3%	1.7%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.5%	0.0%
無回答	1.8%	1.5%	0.0%	0.0%	3.3%	1.9%	0.0%	0.5%	4.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

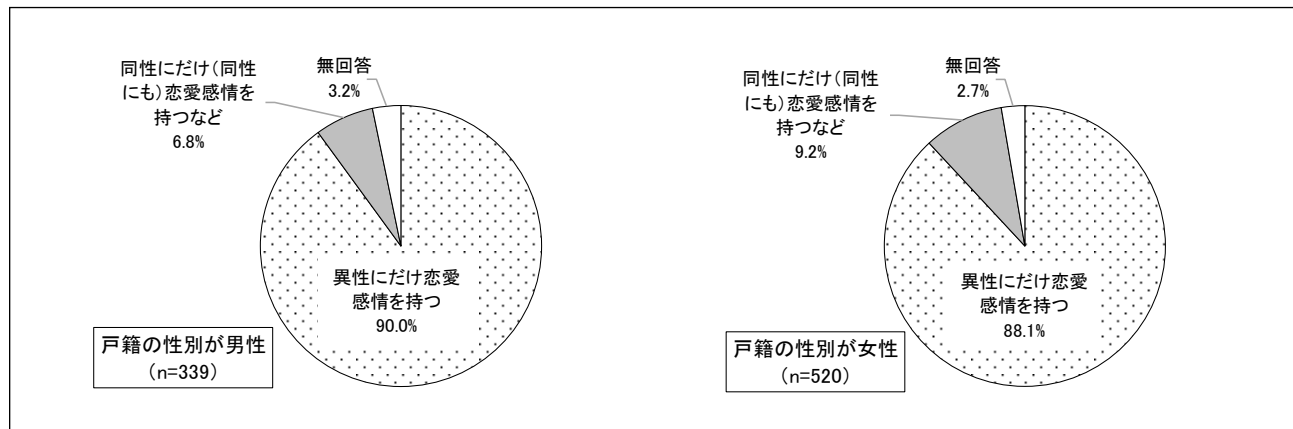
年代間での大きな差は見られない。

6-2 恋愛感情を持つ相手の性別

◇「同性にだけ(同性にも)恋愛感情を持つ」、「わからない」、「決めたくない」、「恋愛したいと思わない」と回答した合計は、約10人に1人

問25 あなたが恋愛感情を持つ相手の性別を教えてください。(○は1つ)

＜図表6-2-1 恋愛感情を持つ相手の性別＞(全体)



「同性にだけ(同性にも)恋愛感情を持つ」、「わからない」、「決めたくない」、「恋愛したいと思わない」と回答した割合の合計は、約10人に1人となっている。

＜図表6-2-2 恋愛感情を持つ相手の性別＞(年代別)

	男性 (n=339)				女性 (n=520)			
		30代以下 (n=60)	40・50代 (n=129)	60・70代 (n=150)		30代以下 (n=107)	40・50代 (n=212)	60・70代 (n=201)
男性	1.8%	0.0%	3.1%	1.3%	88.1%	89.7%	92.0%	83.1%
女性	90.0%	91.7%	93.0%	86.7%	0.8%	0.9%	0.5%	1.0%
男性・女性(どちらにも恋愛感情を持つ)	0.9%	1.7%	0.8%	0.7%	1.5%	2.8%	1.9%	0.5%
わからない	1.8%	1.7%	0.0%	3.3%	1.3%	1.9%	1.4%	1.0%
決めたくない	0.3%	0.0%	0.8%	0.0%	1.0%	2.8%	0.9%	0.0%
恋愛したいと思わない	1.5%	1.7%	2.3%	0.7%	4.4%	1.9%	2.8%	7.5%
その他	0.6%	1.7%	0.0%	0.7%	0.2%	0.0%	0.0%	0.5%
無回答	3.2%	1.7%	0.0%	6.7%	2.7%	0.0%	0.5%	6.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

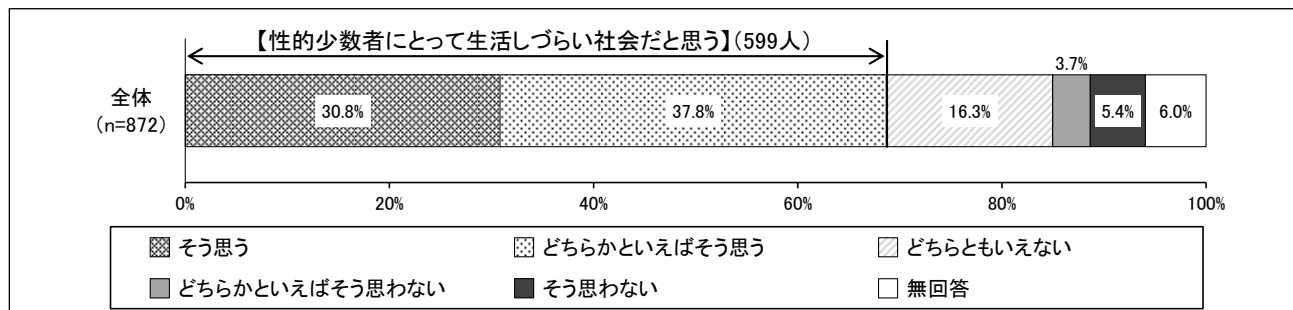
年代間での大きな違いは見られない。

6-3 現在、性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思うか

◇約7割が生活しづらい社会だと思っている

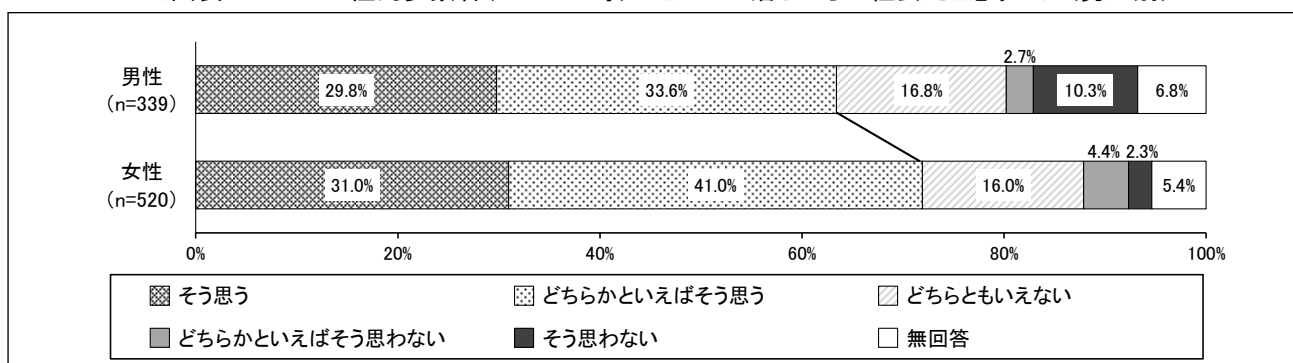
問26 現在、性的少数者(LGBTQ等)の方々にとって生活しづらい社会だと思いますか。(○は1つ)

＜図表6-3-1 性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思うか＞(全体)



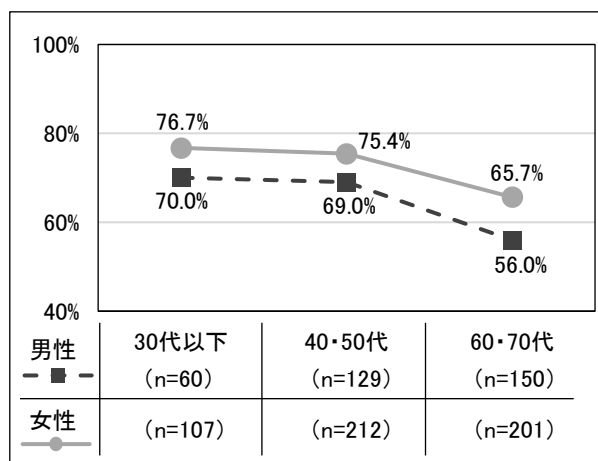
【性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思う】(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の計:以下同じ)と回答した割合は約7割(68.6%)となっている。

＜図表6-3-2 性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思うか＞(男女別)



【性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思う】と回答した割合は、女性が男性より多い(女性:72.0%、男性:63.4%)。

＜図表6-3-3 性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思うか＞(年代別)

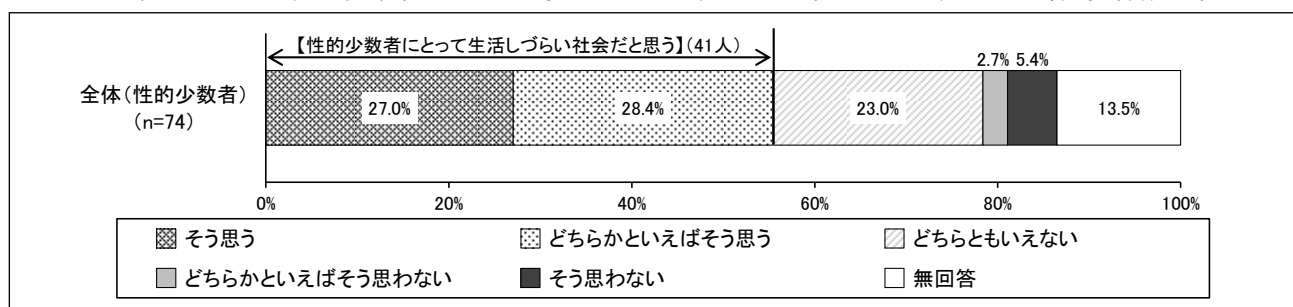


【性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思う】と回答した割合は、若い年代ほど高くなっている。

※本調査回答における性的少数者(74人)は、下記のいずれかに当てはまる人とする。(以下同じ)

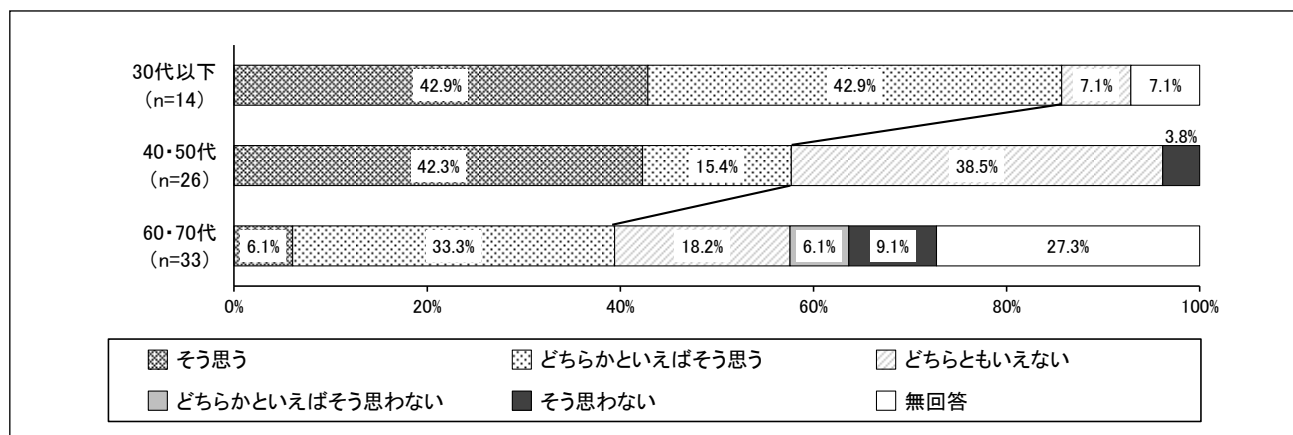
- ・戸籍の性別(問1)と性自認(問24)が一致しない人。
- ・性自認(問24)と性的指向(問25)が同性の人。
- ・問24で「どちらともある・どちらともない」、「わからない」、「決めたくない」のいずれかに当てはまる人。
- ・問25(性的指向)で「男性・女性(どちらにも恋愛感情を持つ)」、「わからない」、「決めたくない」のいずれかに当てはまる人。

＜図表6－3－4 性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思うか＞(全体・要件該当者)



本調査回答における性的少数者のうち、【性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思う】と回答した割合は約半数(55.4%)。※ただし、母数は少ない。

＜図表6－3－5 性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思うか＞(年代別)



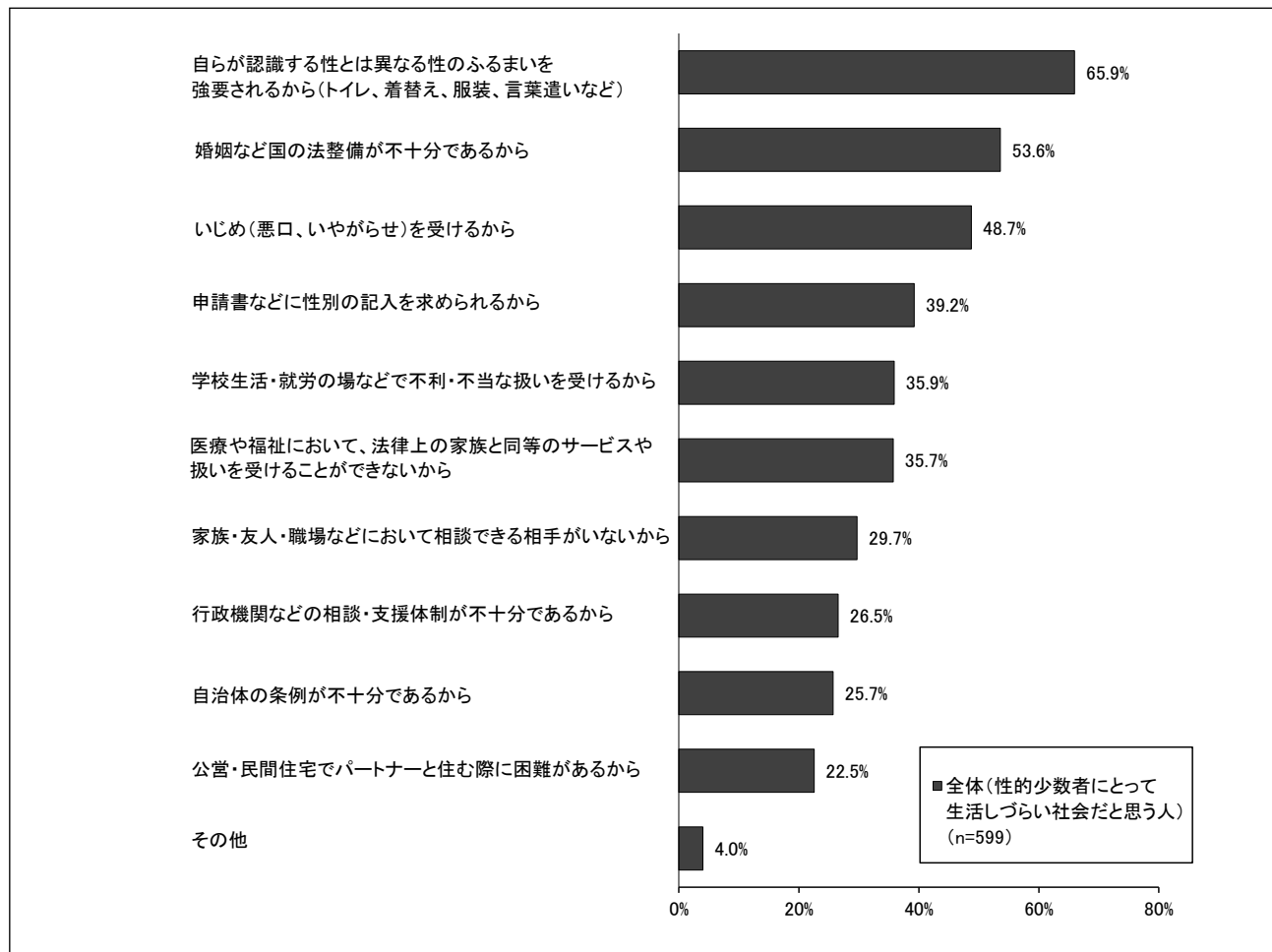
若い年代ほど【性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思う】と回答した割合が高い。
※ただし、母数は少ない。

6-4 性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思う理由

◇「自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要されるから」が最も多く約7割

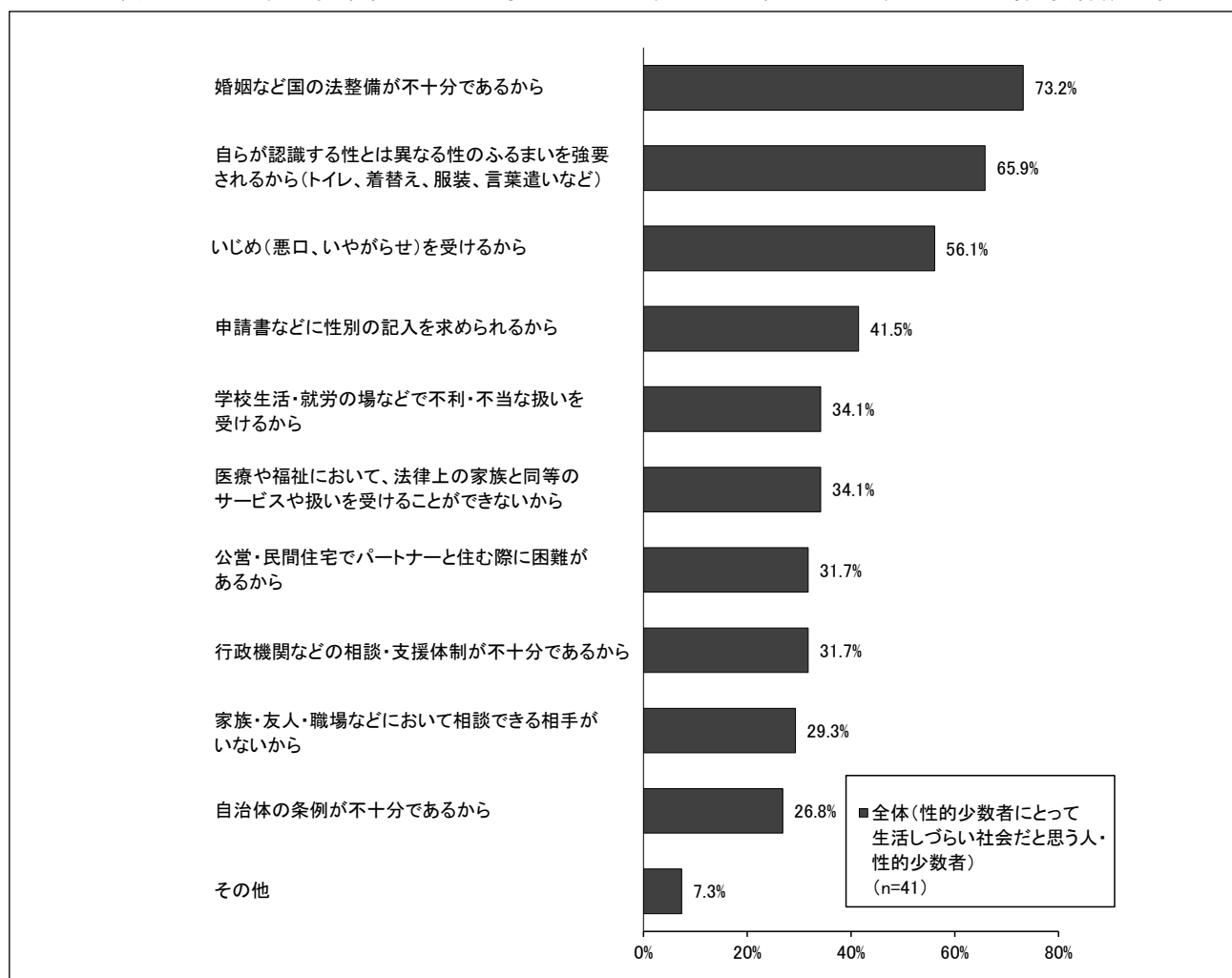
問27 問26で「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた方におたずねします。
そのように思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

＜図表6-4-1 性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思う理由＞(全体・要件該当者)



「自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要されるから(トイレ、着替え、服装、言葉遣いなど)」と回答した割合が約7割(65.9%)で最も高い。次いで「婚姻など国の法整備が不十分であるから」が約半数(53.6%)となっている。

＜図表6－4－2 性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思う理由＞(全体・要件該当者)



本調査回答における性的少数者のうち、「婚姻など国の法整備が不十分であるから」と回答した割合が約7割(73.2%)で最も高く、全体と順位が逆転している。次いで「自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要されるから(トイレ、着替え、服装、言葉遣いなど)」(65.9%)、「いじめ(悪口、いやがらせ)を受けるから」(56.1%)となっている。※ただし、母数は少ない。

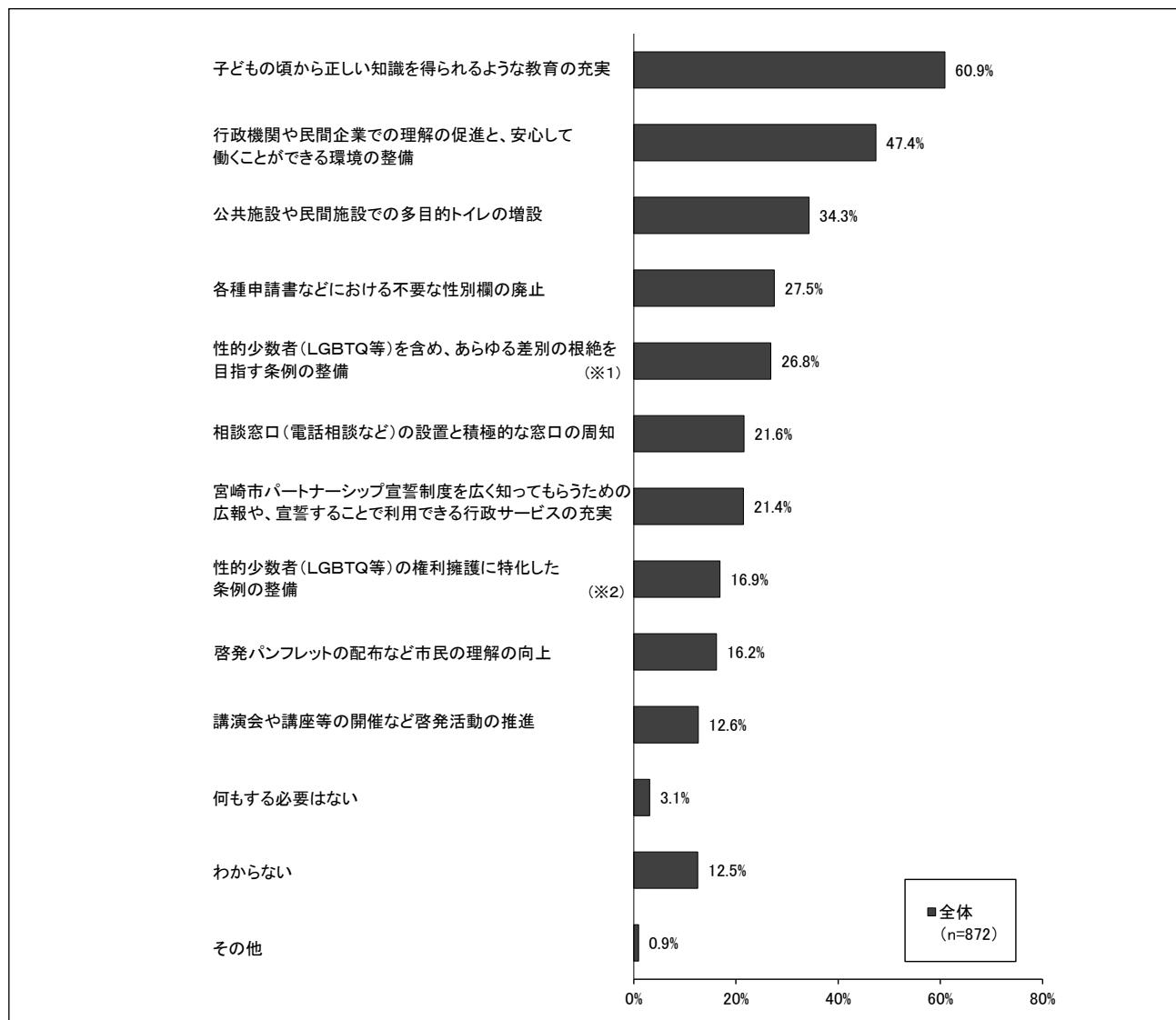
6-5 性的少数者(LGBTQ等)が生活しやすくなるために行政がすべきこと

◇「子どもの頃から正しい知識を得られるような教育の充実」が最多で約6割

◇「性的少数者に特化した条例の整備」より、「性的少数者を含め、あらゆる差別の根絶を目指す条例の整備」の割合が高い

問28 性的少数者(LGBTQ等)に関する偏見がなくなり、性的少数者(LGBTQ等)の方が生活しやすくなるためには、行政はどうすべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

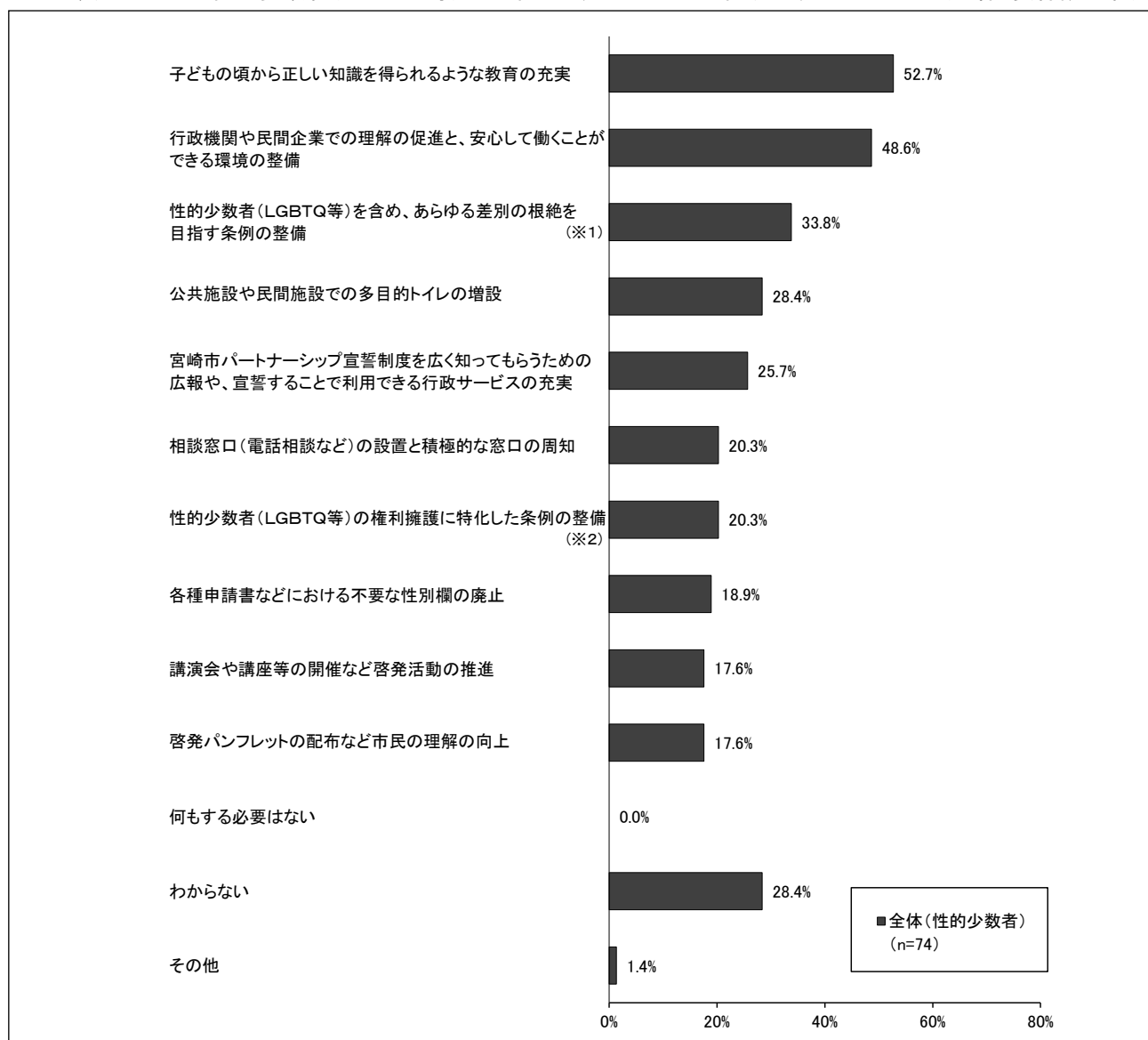
＜図表6-5-1 性的少数者(LGBTQ等)が生活しやすくなるために行政がすべきこと＞(全体)



「子どもの頃から正しい知識を得られるような教育の充実」が約6割(60.9%)と最も高い。次いで「行政機関や民間企業での理解の促進と、安心して働くことができる環境の整備」(47.4%)、「公共施設や民間施設での多目的トイレの増設」(34.3%)となっている。

条例の整備については、「性的少数者(LGBTQ等)を含め、あらゆる差別の根絶を目指す条例の整備」(※1)の割合が「性的少数者(LGBTQ等)の権利擁護に特化した条例の整備」(※2)を上回っている。

＜図表6－5－2 性的少数者（LGBTQ等）が生活しやすくなるために行政がすべきこと＞（全体・要件該当者）



本調査回答における性的少数者で見ると、回答の多い2項目は、全体と同じ傾向となっている。

また、条例の整備についても、「性的少数者（LGBTQ等）を含め、あらゆる差別の根絶を目指す条例の整備」（※1）の割合が「性的少数者（LGBTQ等）の権利擁護に特化した条例の整備」（※2）を上回っており、全体と同じ傾向となっている。

6－6 自由記述の内容

問29 「多様な性を尊重する社会づくり」について、ご意見等ありましたらご記入ください。

・P.77、78に掲載

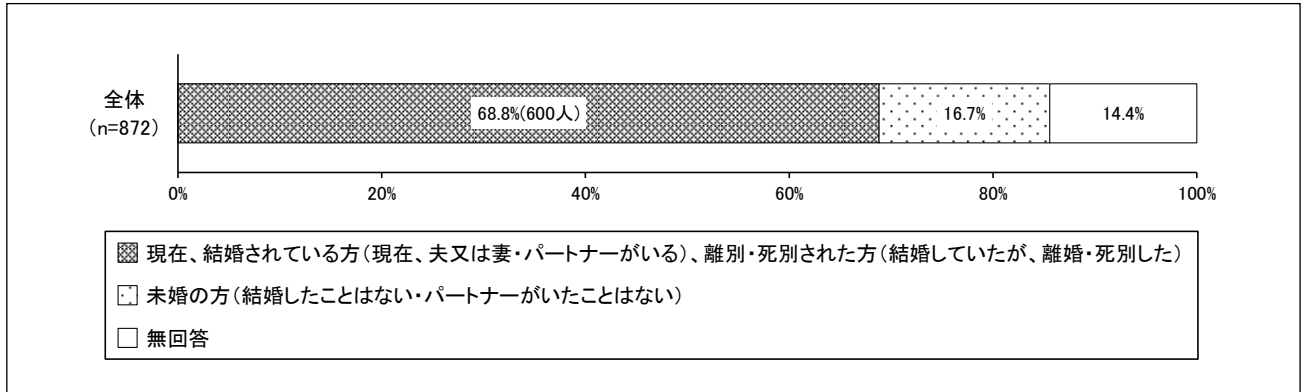
7. 配偶者などからの暴力(DV)について

7-1 結婚の状況

◇約7割が「現在結婚している、または離別・死別した」、約2割が「未婚」

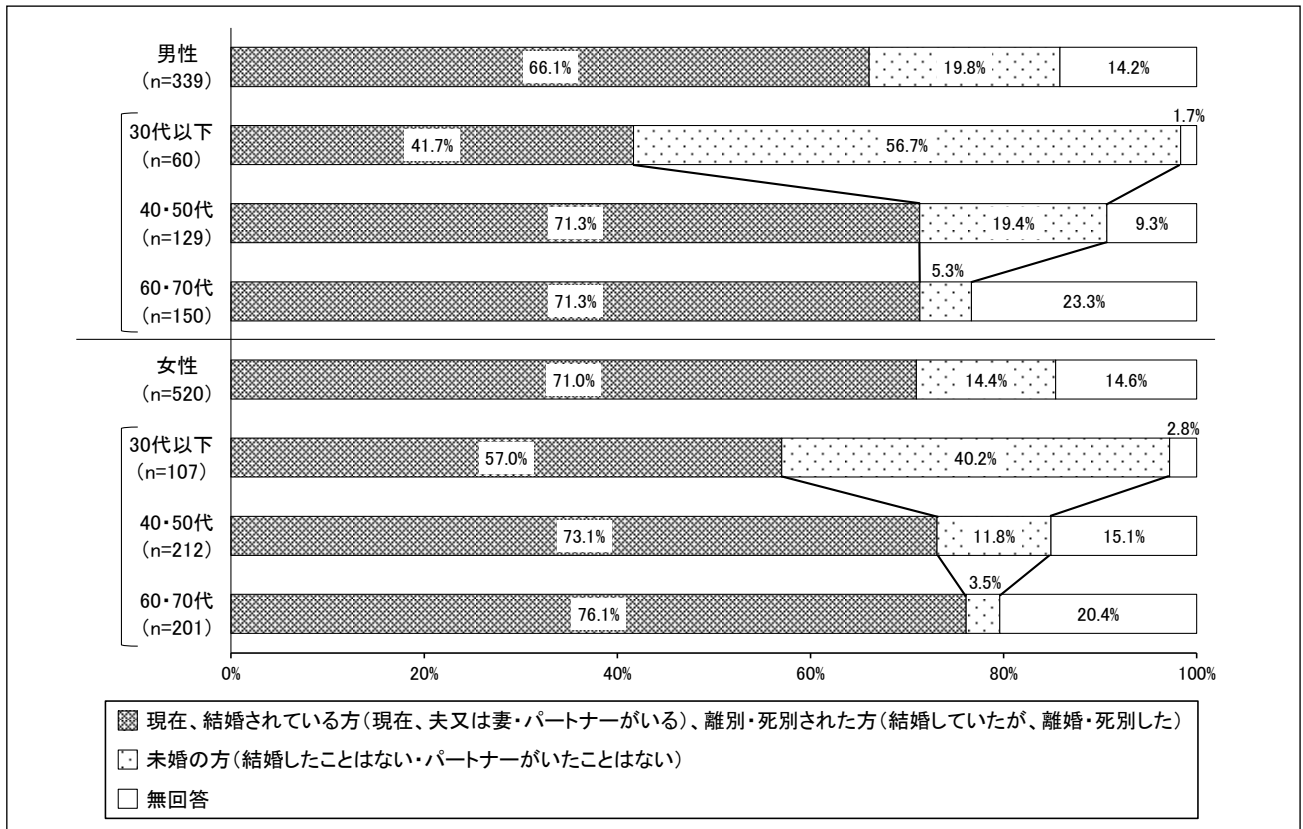
問30 あなたは現在、どちらにあてはまりますか。(○は1つ)

<図表7-1-1 結婚の状況>(全体)



「現在結婚している、または離別・死別した」と回答した割合が約7割(68.8%)、「未婚」と回答した割合が約2割(16.7%)となっている。

<図表7-1-2 結婚の状況>(男女別、年代別)



「現在結婚している、または離別・死別した」と回答した割合は、男性が66.1%、女性が71.0%となっており、男女とも40代以上で約7割となっている。

7-2 配偶者などから暴力等を受けた経験

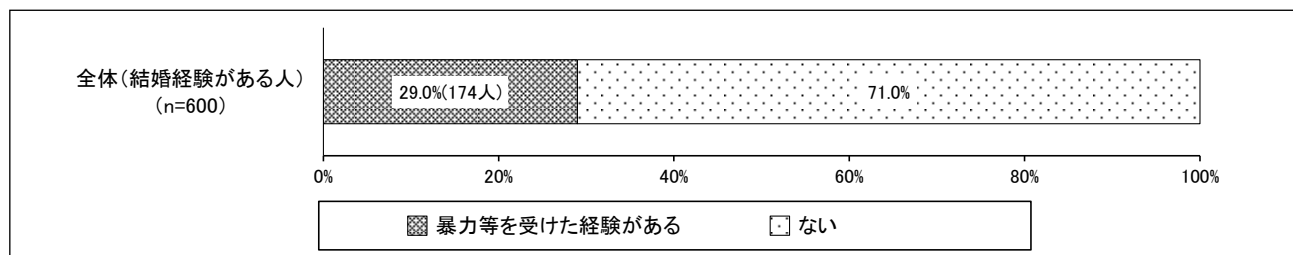
◇約3割が「暴力等を受けた経験がある」

◇女性は約3人に1人、男性は約5人に1人が暴力等を受けた経験あり

◇約7割が「心理的攻撃」、約5割が「身体的暴行」

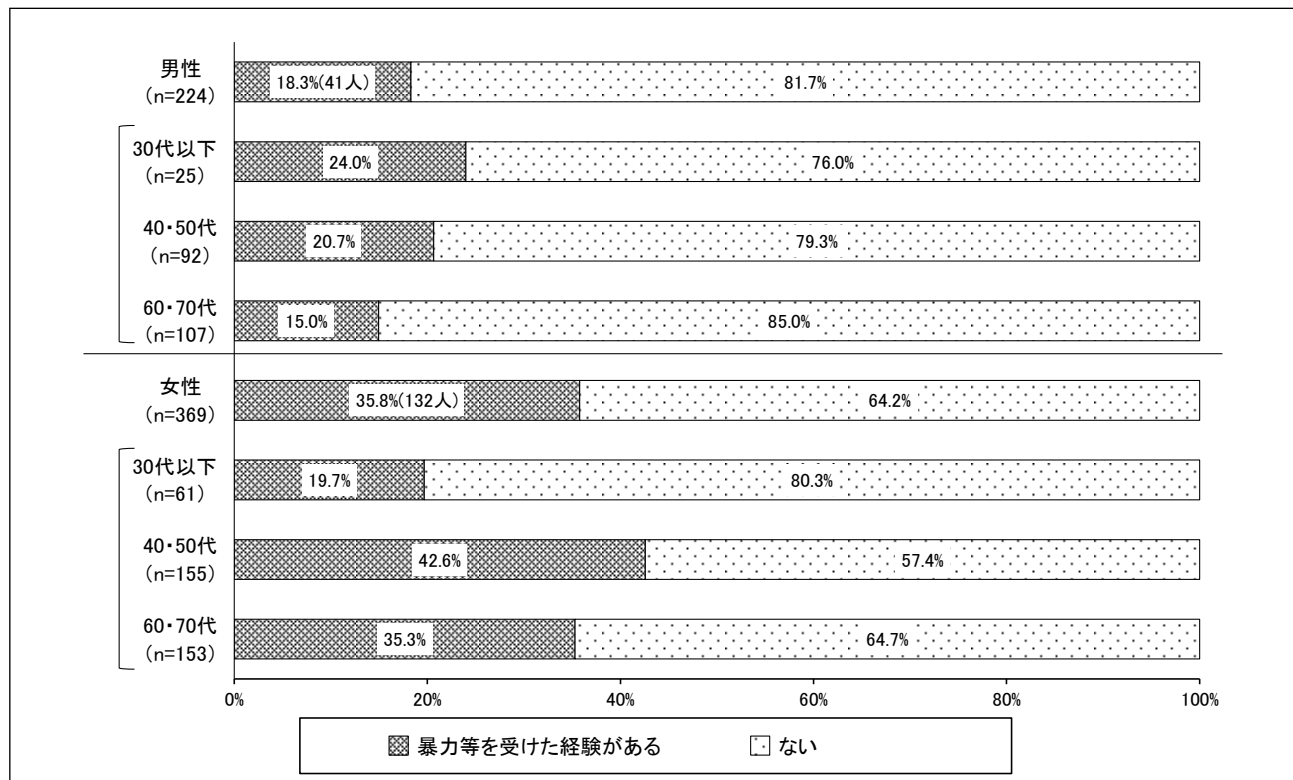
問31 あなたはこれまでに、配偶者などから次のA～Dのような暴力等を受けたことがありますか。
A～Dのそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)
なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者(離別・死別した相手、事実婚・同性同士のパートナー関係を解消した相手)も含みます。(以下、同様)

＜図表7-2-1 配偶者などから暴力等を受けた経験＞(全体・要件該当者)



【暴力等を受けた経験がある】(「何度もあった」と「1、2度あった」の計:以下同じ)と回答した割合は、約3割(29.0%)となっている。

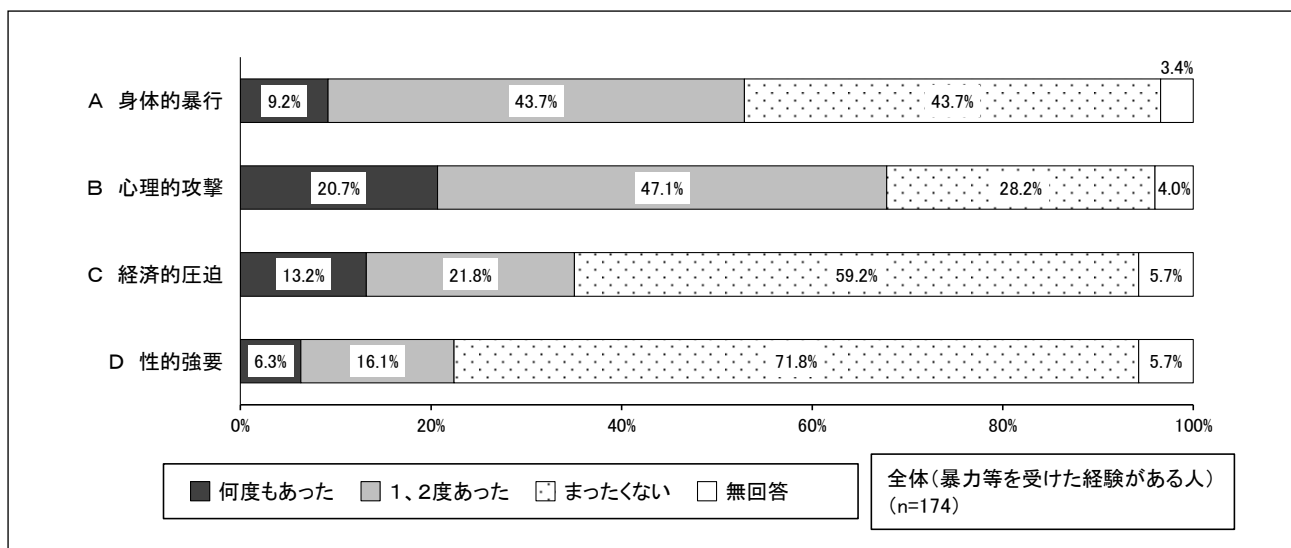
＜図表7-2-2 配偶者などから暴力等を受けた経験＞(男女別、年代別)



【暴力等を受けた経験がある】と回答した割合は、女性は約3人に1人(35.8%)、男性は約5人に1人(18.3%)である。年代別では、母数が少なく、また各年代の母数に大きな差があり、単純に比較することが難しい。

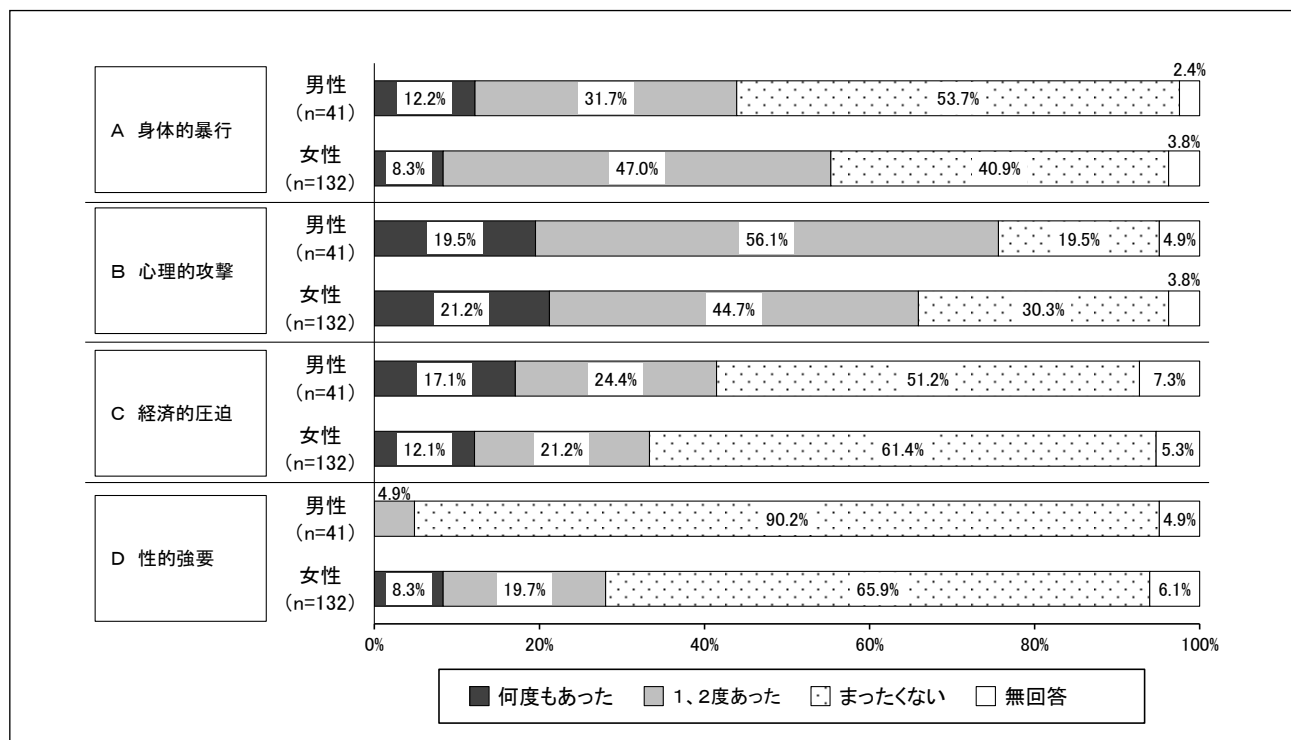
○暴力等の内容

＜図表7-2-3 受けた暴力等の内容＞（全体・要件該当者）



受けた暴力等の内容は、「心理的攻撃」と回答した割合が約7割(67.8%)、「身体的暴行」と回答した割合が約半数(52.9%)となっている。

＜図表7-2-4 受けた暴力等の内容＞（男女別）



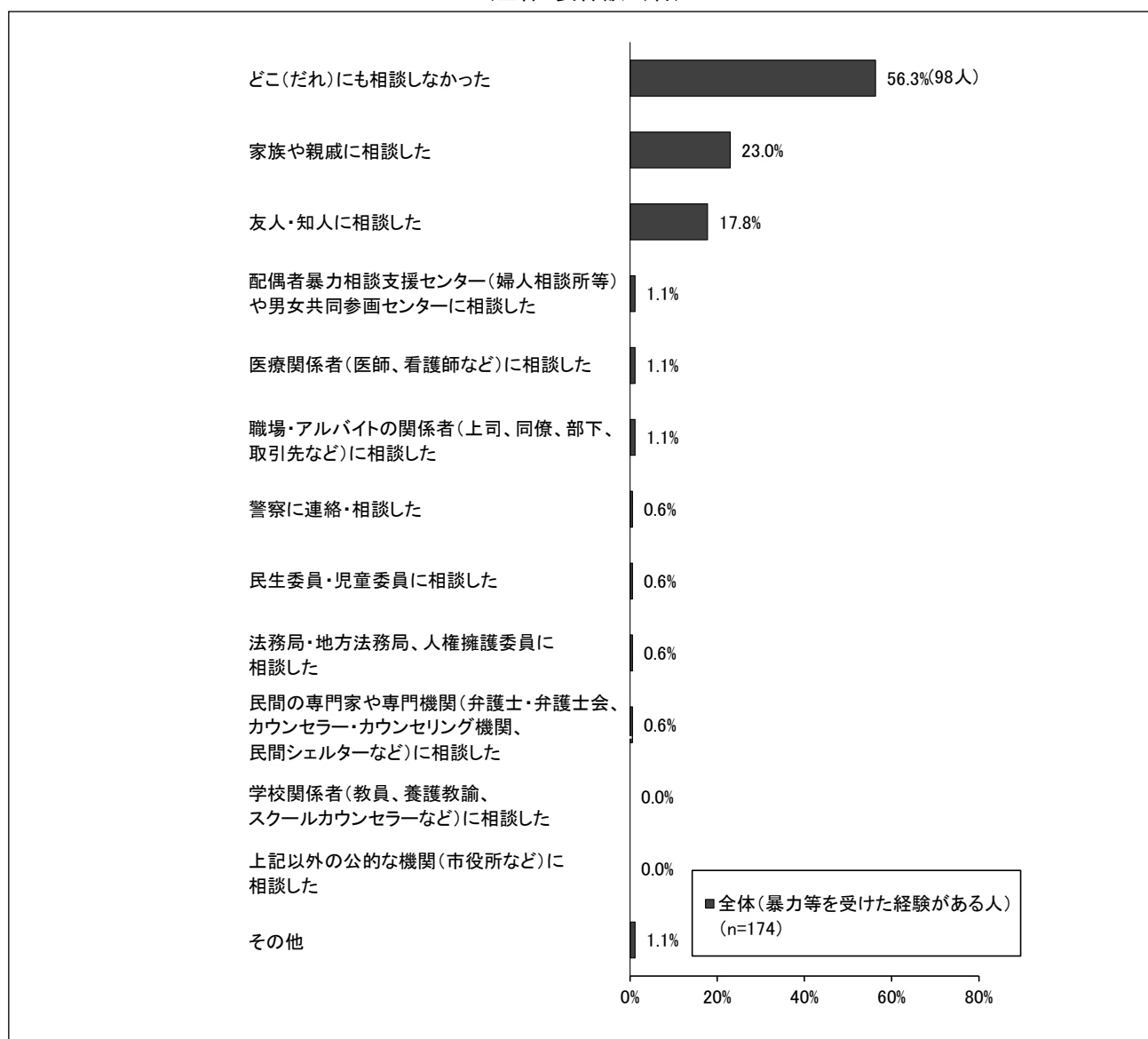
男女ともに受けた暴力等の内容は、「心理的攻撃」が最も高い(男性:75.6%、女性:65.9%)。また、女性は「身体的暴行」が約半数(55.3%)となっている。

7-3 配偶者などから暴力等を受けたときの相談の有無、相談先

- ◇約半数が相談していない
- ◇相談先は「家族や親戚」、「友人・知人」が最も多く、約2割
- ◇「公的機関」や「専門の相談員」などにはほとんど相談していない
- ◇男性は、女性より相談しない傾向
- ◇女性は男性よりも、「家族・親戚」や「友人・知人」に相談している傾向

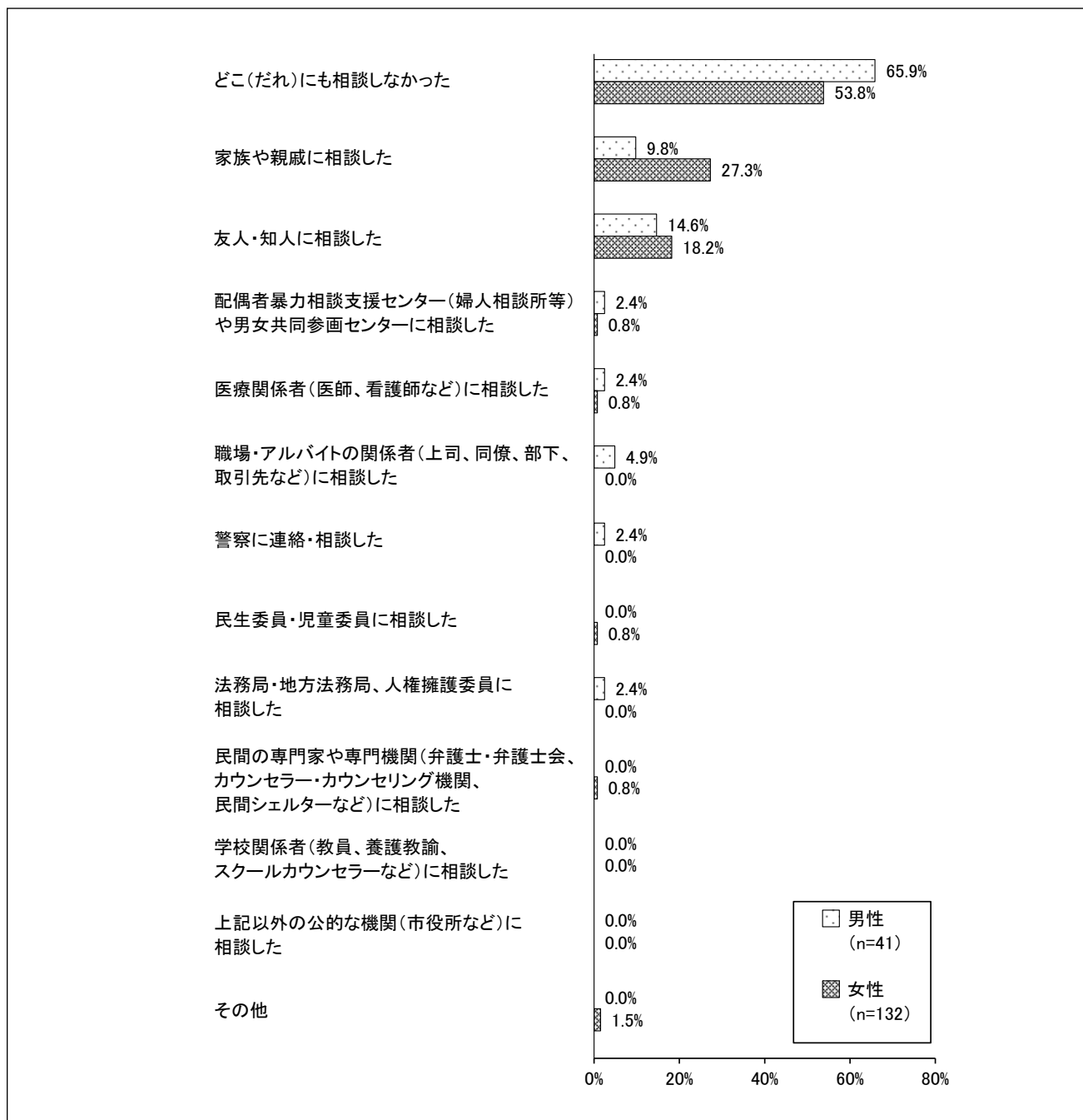
問32 あなたはこれまでに、配偶者などからの暴力(DV)を受けたとき、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

＜図表7-3-1 配偶者などから暴力等を受けたときの相談の有無、相談先＞
(全体・要件該当者)



「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した割合が約半数(56.3%)で、最も高くなっている。その中で、相談先は「家族や親戚」、「友人・知人」がそれぞれ約2割となっており、「公的機関」、弁護士などの「専門機関等」に対しては、ほとんど相談していない。

＜図表7-3-2 配偶者などから暴力等を受けたときの相談の有無、相談先＞（男女別）



男女とも「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した割合が最も高くなっている(男性:65.9%、女性:53.8%)。相談先は男女とも「家族や親戚」、「友人・知人」となっている。ただし、「家族や親戚」に相談する割合は、男女間に大きな差が見られる(男性:9.8%、女性:27.3%)。

男性は女性より相談しない傾向にあり、男性に比べて女性の方が「家族・親族」や「友人・知人」に相談している傾向にある。

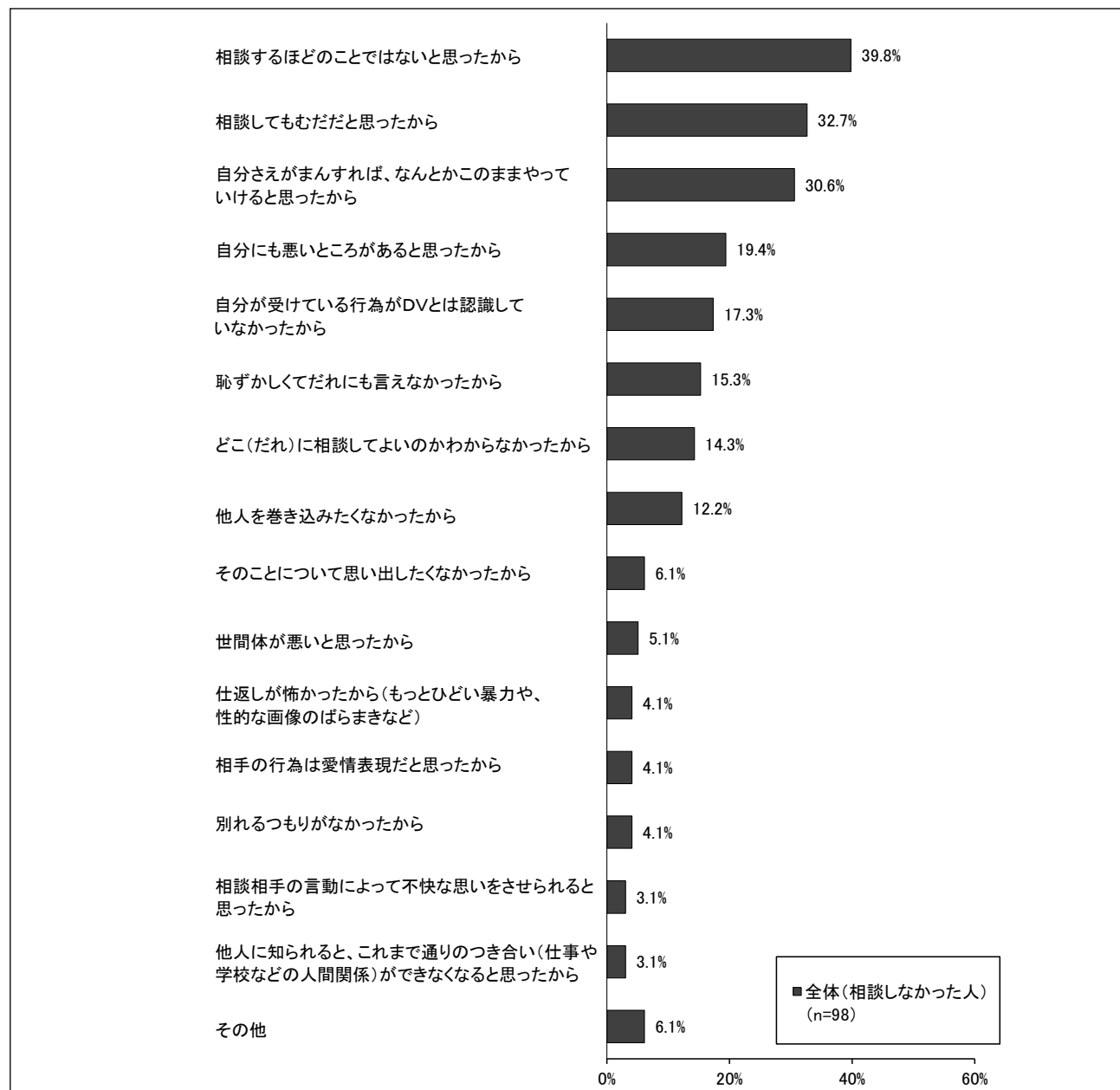
7-4 配偶者などから暴力等を受けたときに相談しなかった理由

◇約4割が「相談するほどのことではないと思ったから」と回答

◇約3割が「相談してもむだだと思ったから」、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといったから」と回答

問33 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)

＜図表7-4-1 配偶者などから暴力等を受けたときに相談しなかった理由＞(全体・要件該当者)



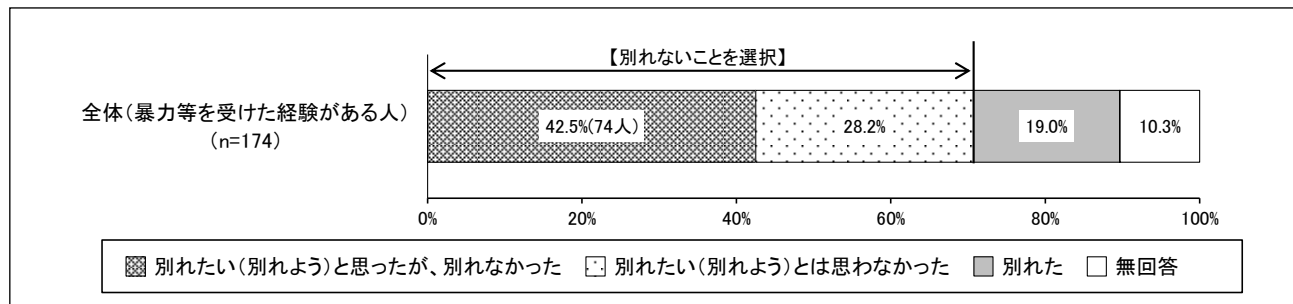
「相談するほどのことではないと思ったから」と回答した割合が約4割(39.8%)で最も高い。次いで「相談してもむだだと思ったから」、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといったから」と回答した割合が約3割となっている。

7-5 配偶者などから暴力等を受けたときの対応

◇約7割が別れないことを選択

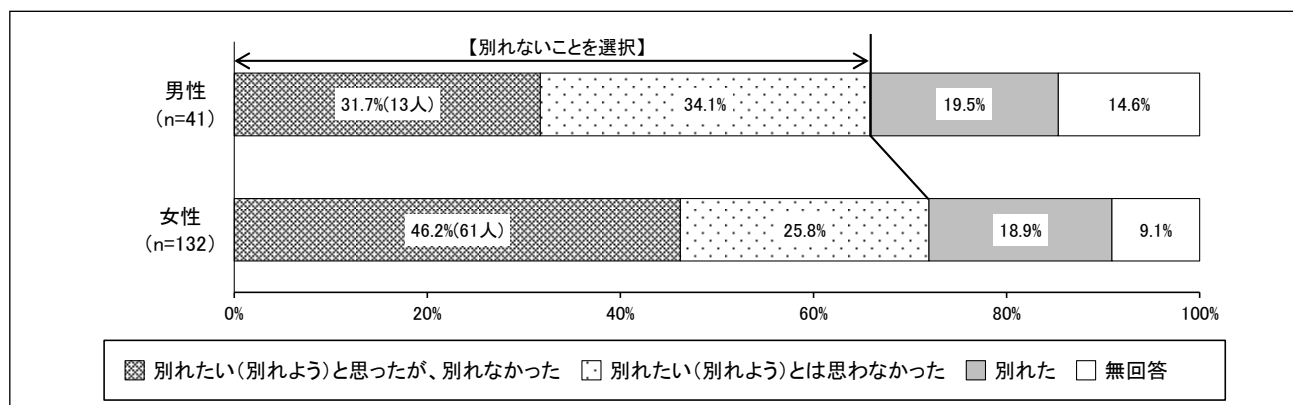
問34 あなたは、配偶者などからの暴力(DV)を受けたとき、どうしましたか。最もあてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

＜図表7-5-1 配偶者などから暴力等を受けたときの対応＞(全体・要件該当者)



【別れないことを選択】(「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」と「別れたい(別れよう)とは思わなかった」の計:以下同じ)した割合は約7割(70.7%)となっている。

＜図表7-5-2 配偶者などから暴力等を受けたときの対応＞(男女別)



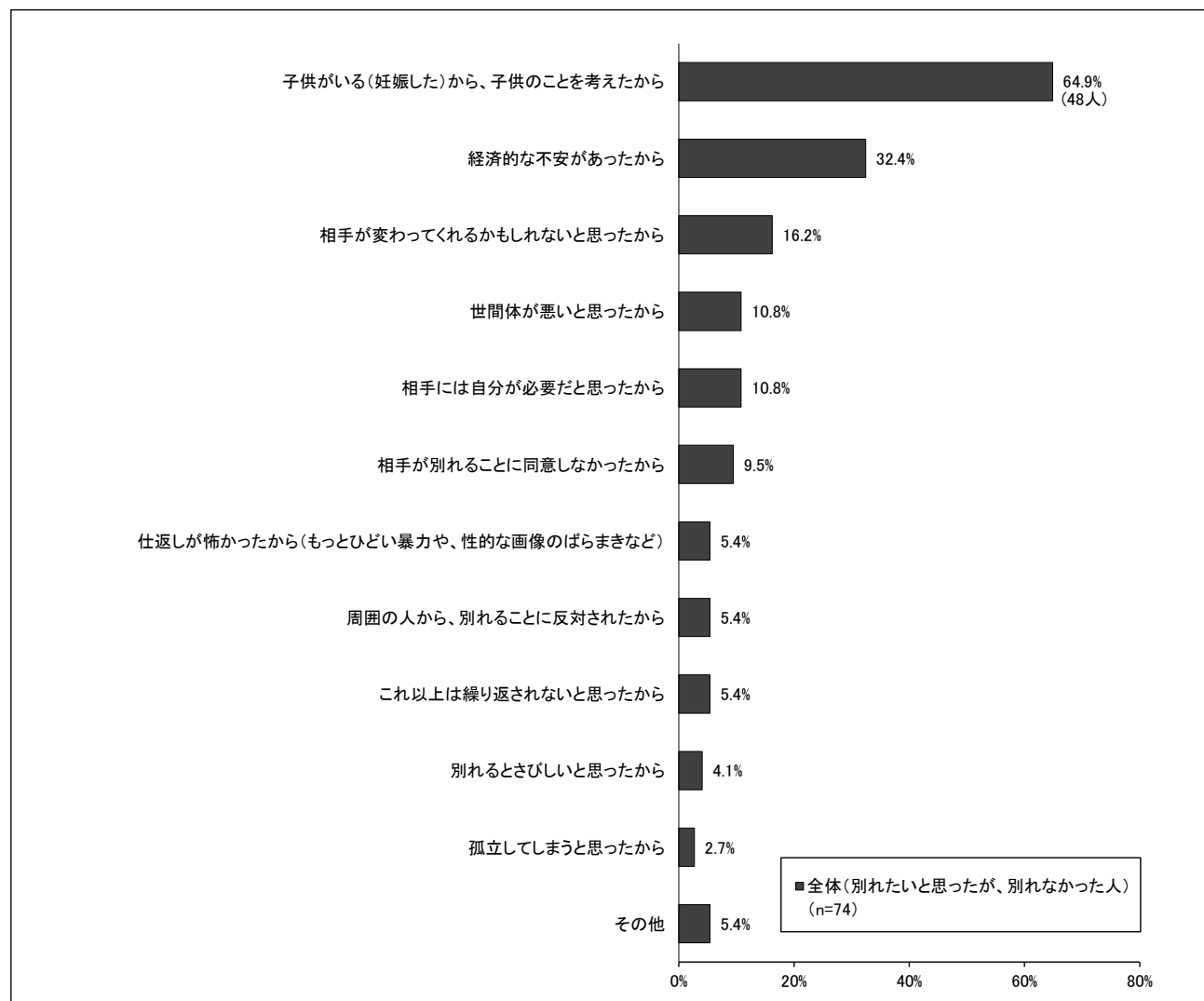
【別れないことを選択】した割合は、男性は65.8%、女性は72.0%となっている。

7-6 配偶者などと別れなかった理由

◇約6割が「子供がいる(妊娠した)から、子供のことを考えたから」と回答

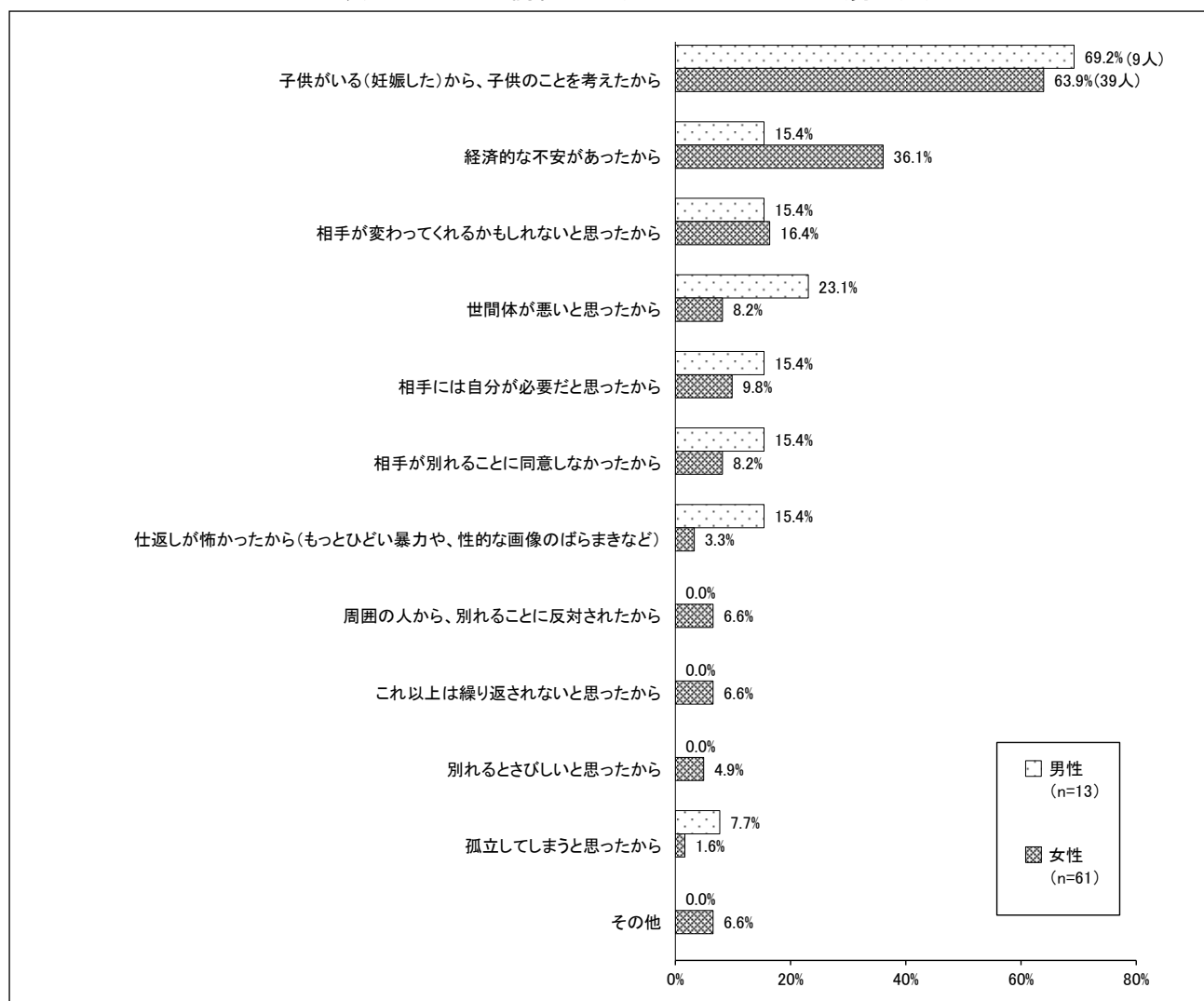
問35 あなたが、配偶者などと別れなかった理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)

＜図表7-6-1 配偶者などと別れなかった理由＞（全体・要件該当者）



「子供がいる(妊娠した)から、子供のことを考えたから」と回答した割合が約6割(64.9%)で最も高く、次いで「経済的な不安があったから」となっている。※ただし、母数は少ない。

＜図表7－6－2 配偶者などと別れなかった理由＞（男女別）



男女とも「子供がいる(妊娠した)から、子供のことを考えたから」と回答した割合が最も高くなっている(男性:69.2%、女性:63.9%)。次いで、男性は「世間体が悪いと思ったから」、女性は「経済的な不安があったから」となっている。
※ただし、母数は少ない。

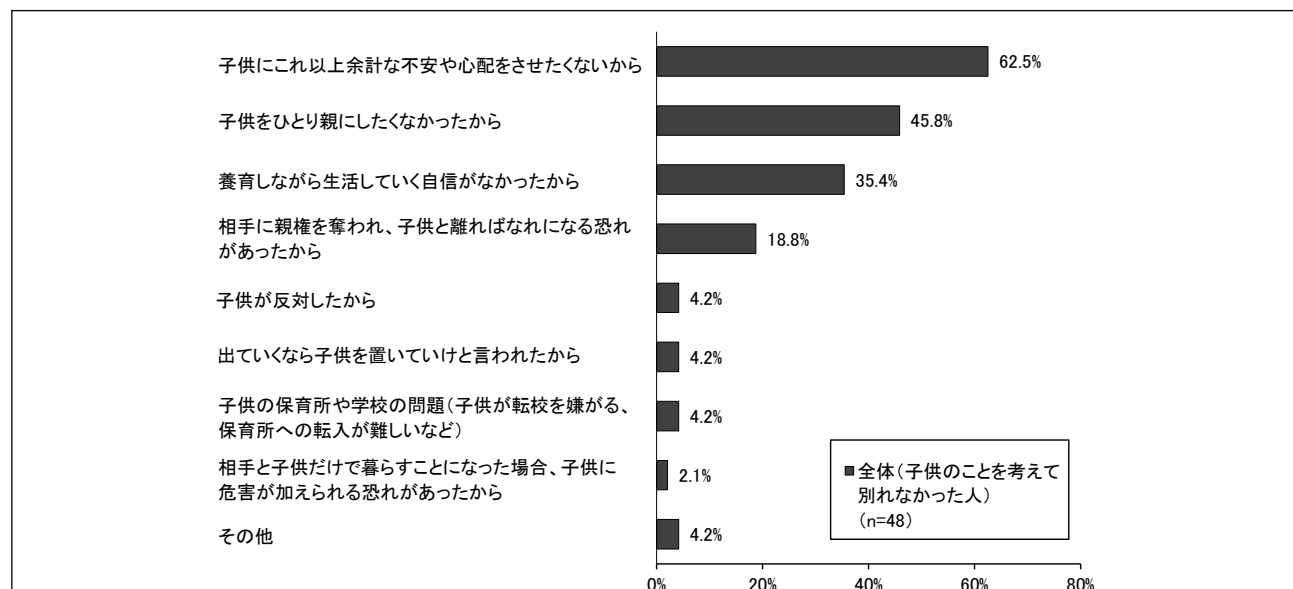
7-7 子供のことを考えて別れなかった理由

◇約6割が「子供にこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから」と回答

◇女性は経済的不安を気にする傾向

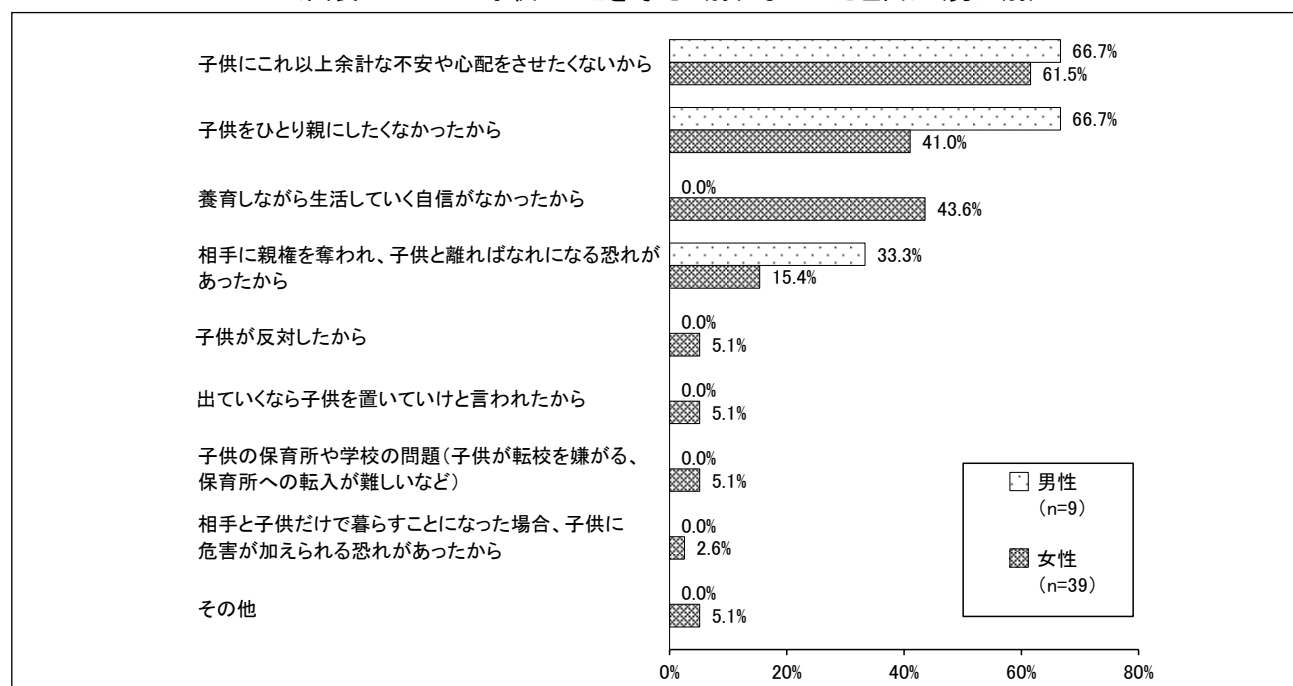
問36 あなたが、子供のことで配偶者などと別れなかった主な理由は何ですか。
あてはまる番号に○をつけてください。(○は3つまで)

＜図表7-7-1 子供のことを考えて別れなかった理由＞(全体・要件該当者)



「子供にこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから」と回答した割合が約6割(62.5%)で最も高くなっている。次いで「子供をひとり親にしたくなかったから」、「養育しながら生活していく自信がなかったから」となっている。

＜図表7-7-2 子供のことを考えて別れなかった理由＞(男女別)



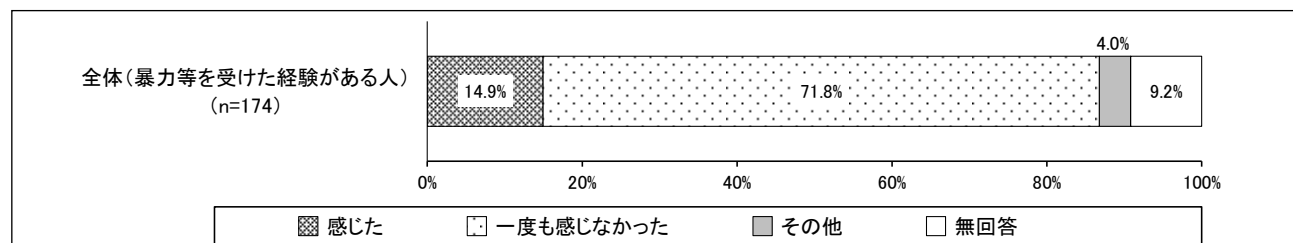
男女とも「子供にこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから」と回答した割合が最も高くなっている(男性:66.7%、女性:61.5%)。次いで、男性は「子供をひとり親にしたくなかったから」、女性は「養育しながら生活していく自信がなかったから」となっており、女性は経済的不安を気にする傾向にある。※ただし、母数は少ない。

7-8 配偶者などから暴力等を受けたときに命の危険を感じた経験

◇暴力等を受けた経験がある人のうち、約7人に1人が「命の危険を感じた」と回答

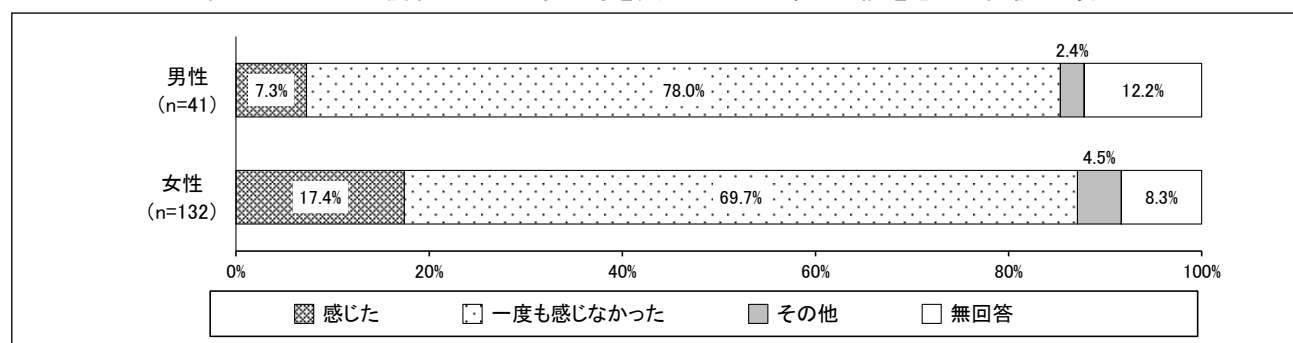
問37 あなたはこれまでに、配偶者などからの暴力(DV)を受けたとき、命の危険を感じたことがありますか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

＜図表7-8-1 配偶者などから暴力等を受けたときに命の危険を感じた経験＞(全体・要件該当者)



「命の危険を感じた」と回答した割合は、約7人に1人(14.9%)となっている。

＜図表7-8-2 配偶者などから暴力等を受けたときに命の危険を感じた経験＞(男女別)



「命の危険を感じた」と回答した割合は、女性が男性を上回っている(女性:17.4%、男性:7.3%)。※ただし、母数は少ない。

7-9 自由記述の内容

問38 「配偶者などからの暴力(DV)」について、ご意見等ありましたらご記入ください。

・P.79に掲載

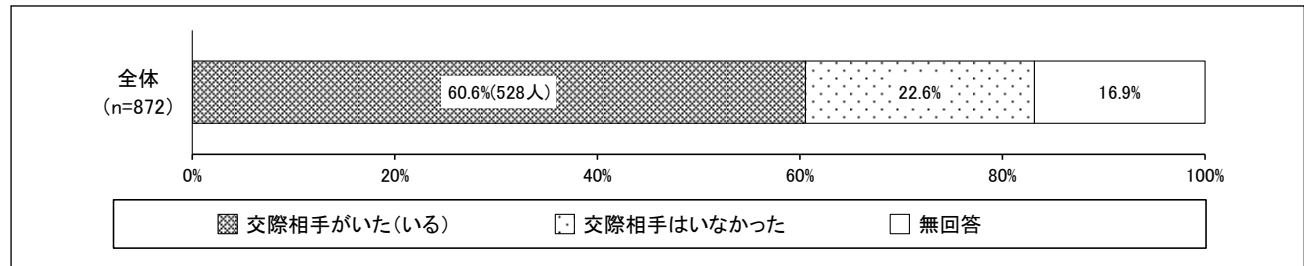
8. 交際中の二人の間で起こる暴力(デートDV)について

8-1 交際相手がいた経験

◇約6割が「交際相手がいた(いる)」と回答

問39 あなたには、これまでに交際相手(同性の交際相手を含みます)がいましたか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。
現在、結婚している方については、結婚前についてお答えください。(○は1つ)
なお、ここでいう「交際相手」には、婚姻届を出していない事実婚は含みません。(以下、同様)

＜図表8-1 交際相手がいた経験＞



「交際相手がいた(いる)」と回答した割合は約6割(60.6%)となっている。

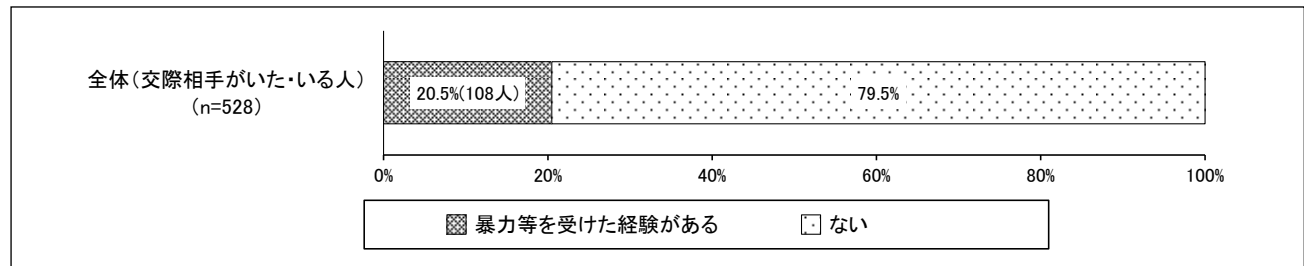
8-2 交際相手から暴力等を受けた経験

◇約2割が「交際相手から暴力等を受けた経験がある」と回答

◇約7割が「心理的攻撃」

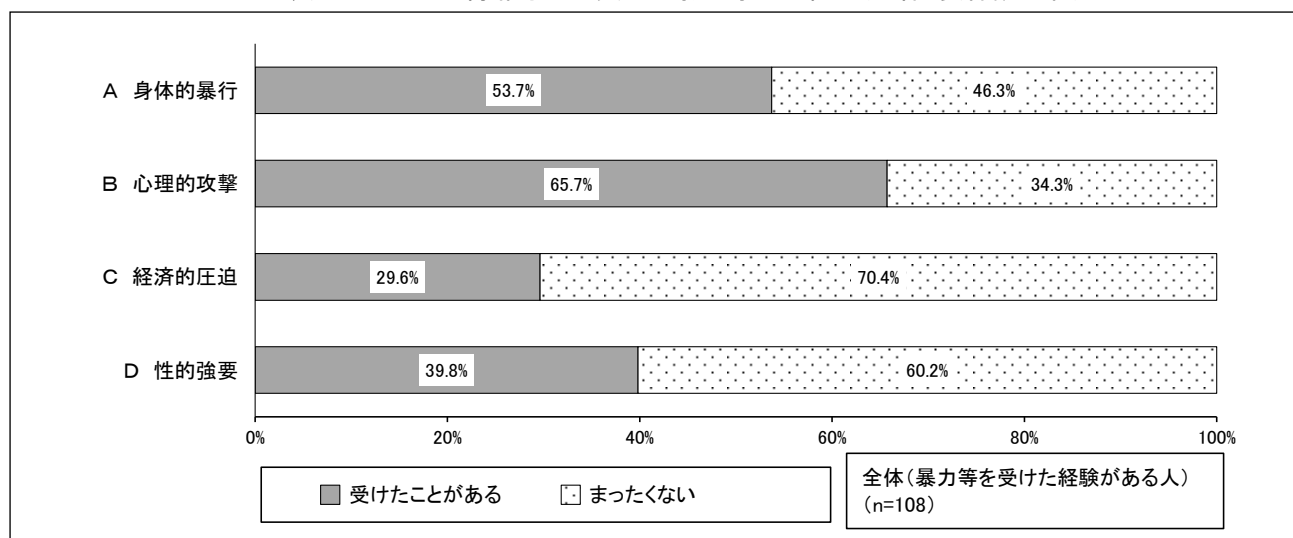
問40 あなたはこれまでに、交際相手から次のA～Dのような暴力等を受けたことがありますか。
A～Dのそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれいくつでも)

＜図表8-2-1 交際相手から暴力等を受けた経験＞(全体・要件該当者)



「暴力等を受けた経験がある」と回答した割合は約2割(20.5%)となっている。

＜図表8－2－2 交際相手から受けた暴力等の内容＞（全体・要件該当者）

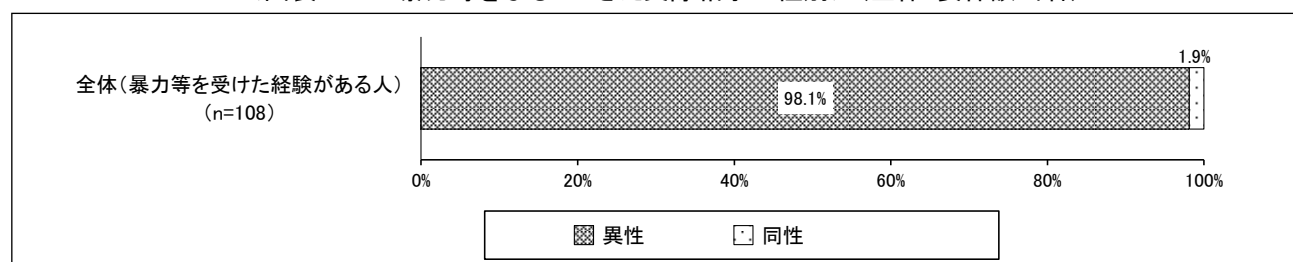


受けた暴力等の内容は、「心理的攻撃」と回答した割合が約7割(65.7%)で最も高く、次いで「身体的暴行」と回答した割合が約半数(53.7%)となっている。

8－3 暴力等をふるってきた交際相手の性別

問40－1 また、交際相手の性別はどちらでしたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)

＜図表8－3 暴力等をふるってきた交際相手の性別＞（全体・要件該当者）



暴力等をふるってきた交際相手の性別は、「異性」と回答した割合が98.1%となっている。

8-4 交際相手から暴力等を受けたときの相談の有無、相談先

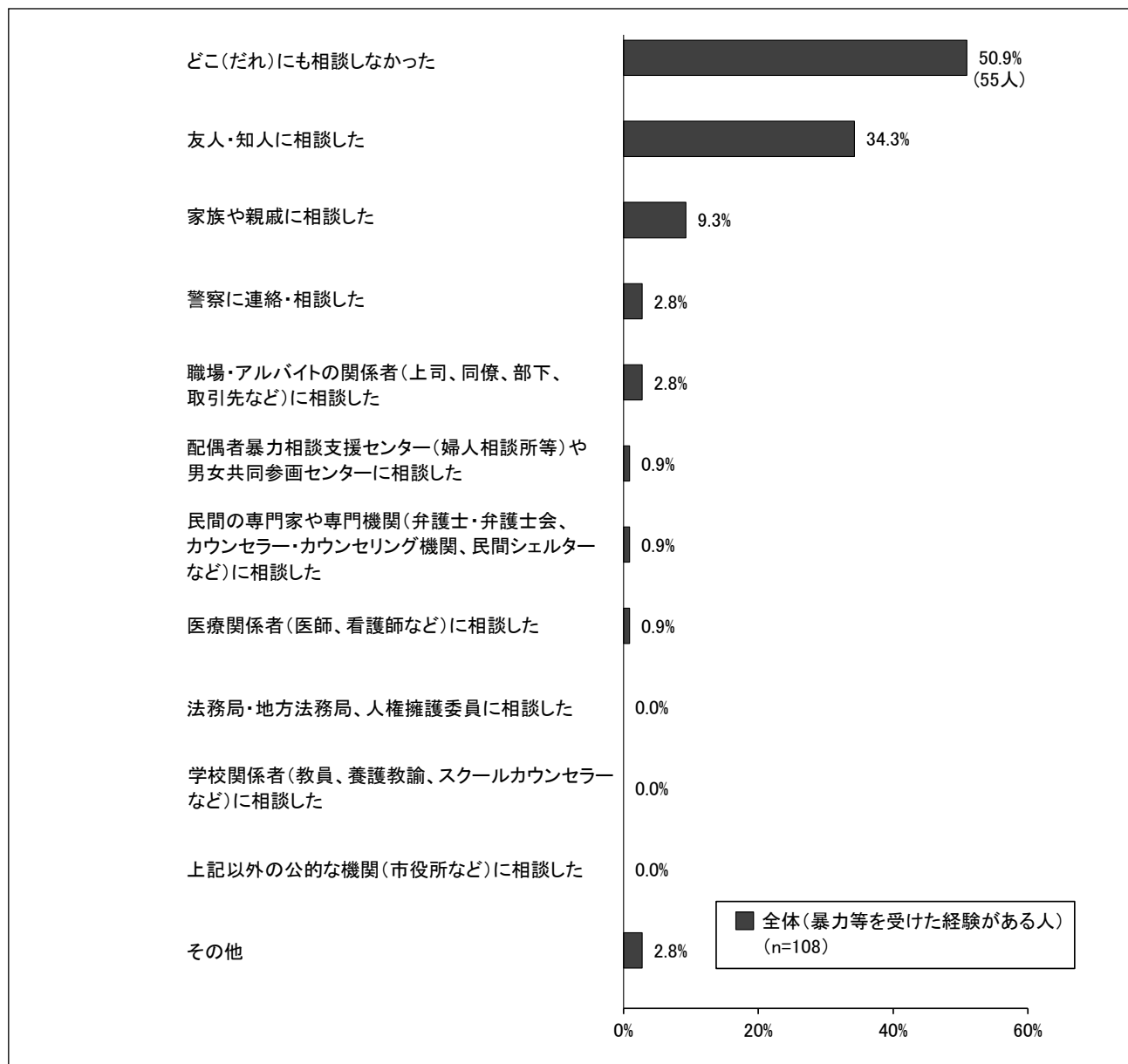
◇約半数が相談していない

◇約3人に1人が「友人・知人に相談した」と回答

◇「公的機関」や「専門の相談員」などにはほとんど相談していない

問41 あなたはこれまでに、交際相手から暴力(デートDV)を受けたとき、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

＜図表8-4 交際相手から暴力等を受けたときの相談の有無、相談先＞(全体・要件該当者)



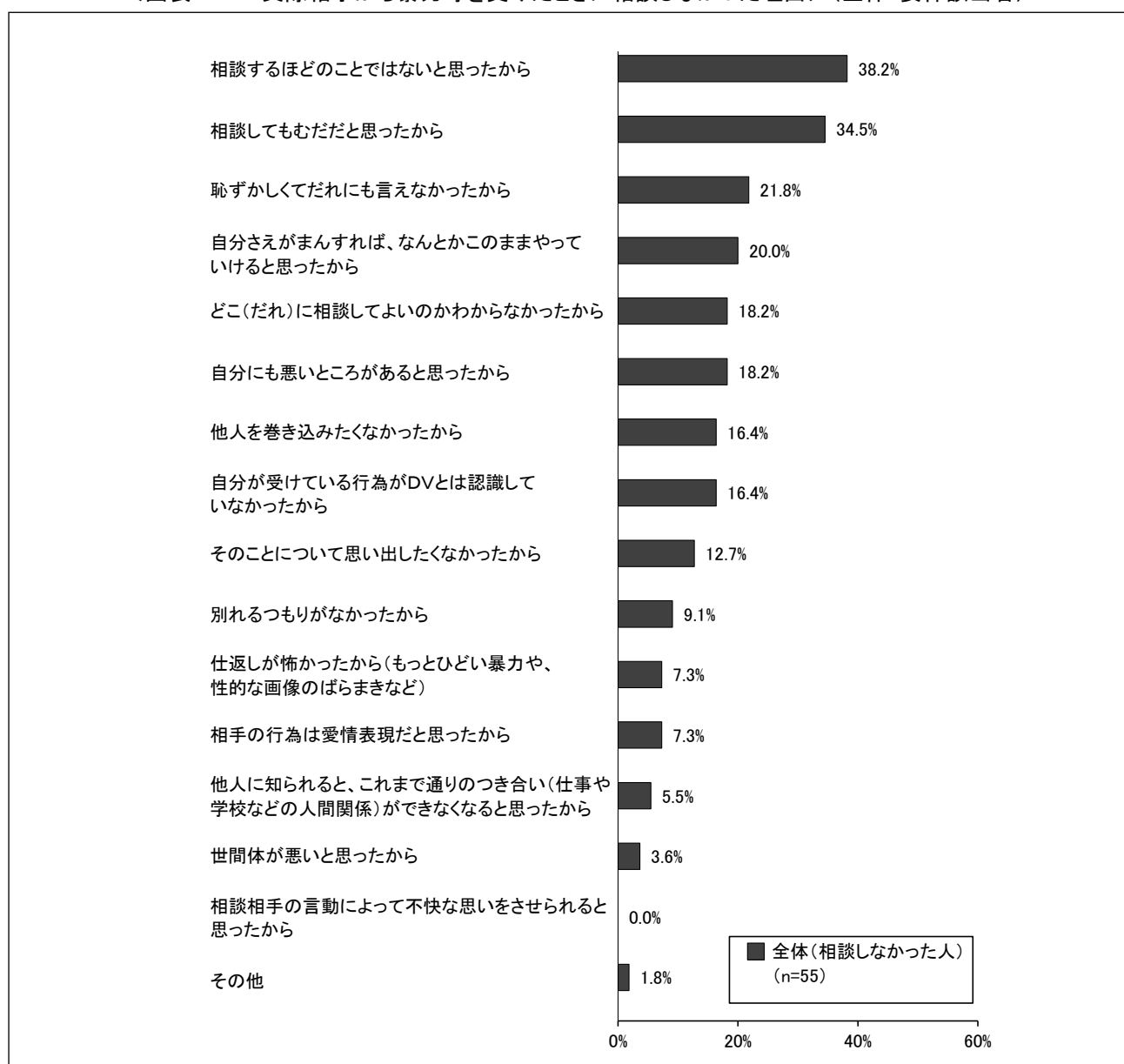
「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した割合が約半数(50.9%)で最も高くなっている。このような中で、相談先は「友人・知人」が約3人に1人(34.3%)であり、次いで「家族や親戚」となっている。「公的機関」、弁護士などの「専門機関等」に対しては、ほとんど相談していない状況になっている。

8-5 交際相手から暴力等を受けたときに相談しなかった理由

◇約4割が「相談するほどのことではないと思ったから」、約3割が「相談してもむだだと思ったから」と回答

問42 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)

＜図表8-5 交際相手から暴力等を受けたときに相談しなかった理由＞(全体・要件該当者)



「相談するほどのことではないと思ったから」と回答した割合が約4割(38.2%)で最も高く、次いで「相談してもむだだと思ったから」と回答した割合が約3割(34.5%)となっている。※ただし、母数は少ない。

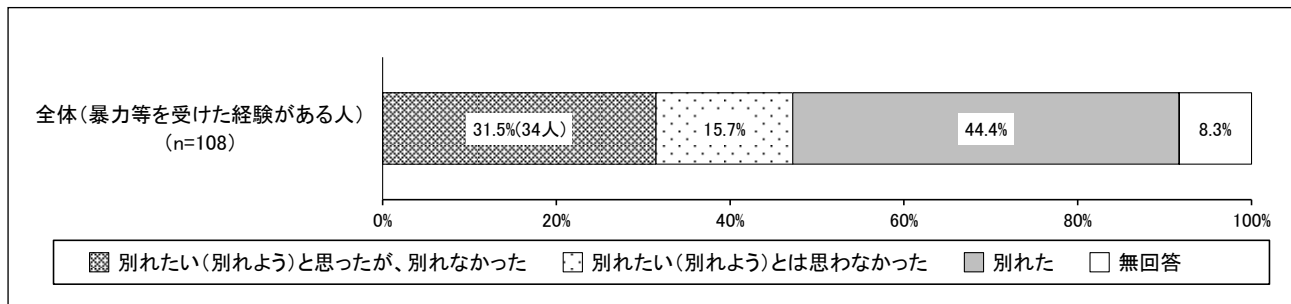
P.51の問33「配偶者などから暴力等を受けたときに相談しなかった理由」と比較すると、回答の多い2項目は一致している。

8-6 交際相手から暴力等を受けたときの対応

◇約半数が別れないことを選択

問43 あなたは、交際相手からの暴力(デートDV)を受けたとき、どうしましたか。
最もあてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

＜図表8-6 交際相手から暴力等を受けたときの対応＞(全体・要件該当者)



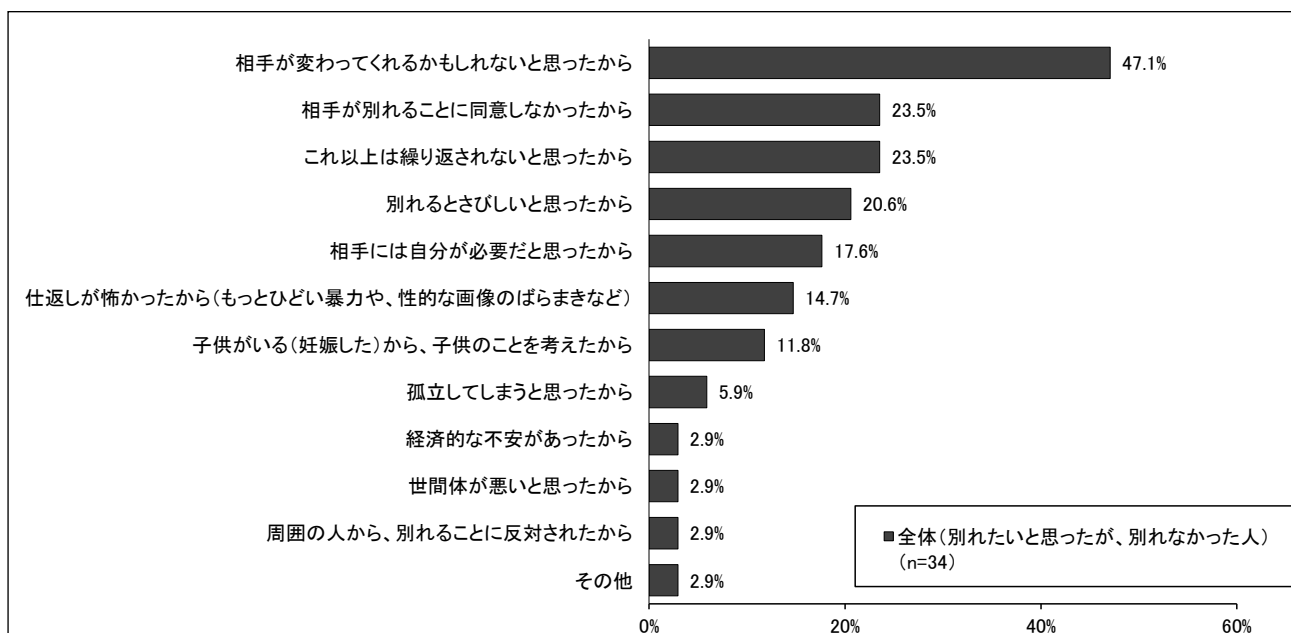
【別れないことを選択】(「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」と「別れたい(別れよう)とは思わなかった」の計)した割合は約半数(47.2%)となっている。

8-7 交際相手と別れなかった理由

◇約半数が「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」と回答

問44 あなたが、交際相手と別れなかった理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)

＜図表8-7 交際相手と別れなかった理由＞(全体・要件該当者)



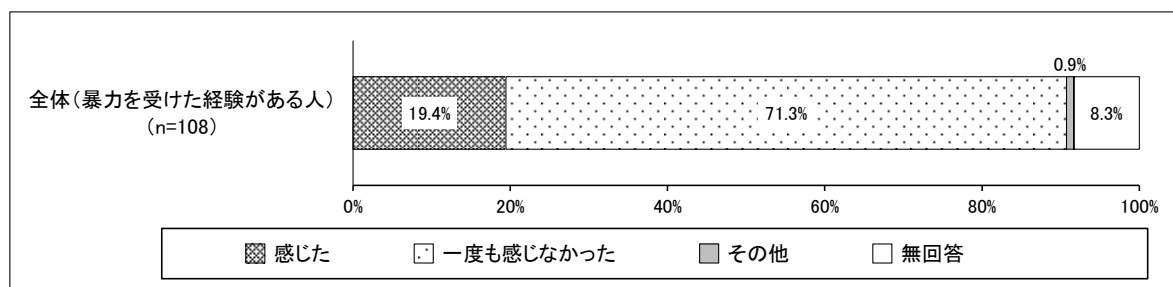
「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」と回答した割合が約半数(47.1%)で最も高くなっている。次いで「相手が別れることに同意しなかったから」、「これ以上は繰り返されなかったと思ったから」と回答した割合がそれぞれ約2割(ともに23.5%)となっている。※ただし、母数は少ない。

8-8 交際相手から暴力等を受けたときに命の危険を感じた経験

◇暴力を受けた経験がある人のうち、約5人に1人が「命の危険を感じた経験がある」と回答

問45 あなたはこれまでに、交際相手からの暴力(デートDV)を受けたとき、命の危険を感じたことがありますか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

＜図表8-8 交際相手から暴力等を受けたときに命の危険を感じた経験＞(全体・要件該当者)



「命の危険を感じた」と回答した割合は約5人に1人(19.4%)となっている。

8-9 自由記述の内容

問46 「交際中の二人の間で起こる暴力(デートDV)」について、ご意見等ありましたらご記入ください。

・P.79に掲載